

土木工事共通仕様書 関係基準

データテーブル記入要領

2026年7月

阪神高速道路株式会社

目 次

第1節 一 般	1
1.1 目 的	1
1.2 作成方法	1
第2節 共通事項	2
2.1 管理番号	2
2.2 道路土工部の管理番号	18
2.3 コード記入方法	21
第3節 資産・補修共通データテーブル	21
3.1 工事・設計・図面テーブル	21
第4節 資産データテーブル	23
4.1 道路構造テーブル	23
4.2 上部工テーブル	32
4.3 床版テーブル	42
4.4 下部工テーブル	45
4.5 道路土工テーブル	62
4.6 のり面・擁壁テーブル	64
4.7 トンネルテーブル	69
4.8 カルバートテーブル	76
4.9 高欄・防護柵テーブル	79
4.10 非常口テーブル	82
第5節 附属構造物データテーブル（資産更新テーブル）	84
5.1 遮音壁テーブル	84
5.2 伸縮継手テーブル	88
5.3 支承テーブル	98
5.4 落橋防止システムテーブル	106
5.5 鋼構造物塗装テーブル	115
5.6 舗装テーブル	118
5.7 高速道路標識柱テーブル	126
5.8 高速道路標識板テーブル	136
5.9 平面街路標識柱テーブル	140
5.10 平面街路標識板テーブル	150
第6節 補修（本体構造物）データテーブル	154
6.1 桁補修テーブル	154

6.2	床版補修テーブル	158
6.3	橋脚補修テーブル	159
6.4	のり面・擁壁補修テーブル	162
6.5	トンネル補修テーブル	165
6.6	カルバート補修テーブル	168
6.7	高欄・防護柵補修テーブル	170
データテーブル様式		参- 1
	様式 1-2-(2) しゅん工図	参- 2
1	資産・補修共通データテーブル	参- 3
	様式 3-1 工事・設計・図面	参- 3
2	資産データテーブル	参- 4
	様式 4-1 道路構造	参- 4
	様式 4-2 上部工	参- 5
	様式 4-3 床版	参- 6
	様式 4-4 下部工	参- 7
	様式 4-5 道路土工	参- 8
	様式 4-6 のり面・擁壁	参- 9
	様式 4-7 トンネル	参-10
	様式 4-8 カルバート	参-11
	様式 4-9 高欄・防護柵	参-12
	様式 4-10 非常口	参-13
3	附属構造物データテーブル	参-14
	様式 5-1 遮音壁資産・補修	参-14
	様式 5-2 伸縮継手資産・補修	参-15
	様式 5-3 支承資産・補修	参-16
	様式 5-4 落橋防止システム資産・補修	参-17
	様式 5-5 鋼構造物塗装資産・補修	参-18
	様式 5-6 舗装資産・補修	参-19
	様式 5-7 高速道路標識柱資産・補修	参-20
	様式 5-8 高速道路標識板資産・補修	参-21
	様式 5-9 街路標識柱資産・補修	参-22
	様式 5-10 街路標識板資産・補修	参-23
4	補修（本体構造物）データテーブル	参-24
	様式 6-1 桁補修	参-24

様式 6-2	床版補修	参-25
様式 6-3	下部工補修	参-26
様式 6-4	のり面・擁壁補修	参-27
様式 6-5	トンネル補修	参-28
様式 6-6	カルバート補修	参-29
様式 6-7	高欄・防護柵	参-30

データテーブル記入定義

第1節 一般

1.1 目的

この要領は、阪神高速道路株式会社（以下「当社」という）の土木関係工事のしゅん工図書のうち、データテーブル及びしゅん工図の作成について必要な事項を示すことを目的とする。

1.2 作成方法

(1) データテーブルの作成方法

受注者は、該当する様式によりデータテーブルを作成し、電子データ (EXCEL形式)にて電子成果品に納めて提出するものとする。

(2) しゅん工図の作成方法

受注者は、電子成果品作成要領に従い A3 サイズシングル tiff 形式 (解像度 300dpi、圧縮方式 SITTG4)にてしゅん工図を提出するものとする。また、その図面に対応する目次を次の要領で EXCEL 形式にて作成し、電子納品の手引きに従い納品することとする。記入に際してはデータテーブル (様式 1-2-(2)_しゅん工図)を用いて記入する。

[記入例] ※連番と図番の違いは、長尺図面を分割した場合等を想定している

連番 (file数)	図番	図面名	管理番号
1	1	遮断防護壁 平面割付図 (参考図)	神淀 (西) P3、4
2	1	遮断防護壁 平面割付図 (参考図)	神淀 (西) P3、4
3	2	P D 34橋脚基礎仮設図	神淀 (西) P4
4	2	P D 34橋脚基礎仮設図	神淀 (西) P4
5	3	P D 34橋脚基礎アンカー工図	神淀 (西) P4
6	4	P D 34橋脚基礎浮止工図	神淀 (西) P4
7	5	P D 34橋脚ケーソン基礎頂版支保工図	神淀 (西) P4
8	6	P D 34橋脚ケーソン基礎配筋図 (その4)	神淀 (西) P4
9	7	P D 34橋脚ケーソン基礎配筋図 (その3)	神淀 (西) P4
10	8	P D 34橋脚ケーソン基礎配筋図 (その2)	神淀 (西) P4
11	9	P D 34橋脚ケーソン基礎配筋図 (その1)	神淀 (西) P4
12	10	P D 3橋脚基礎構造一般図	神淀 (西) P3
13	11	P D 3橋脚基礎仮設図	神淀 (西) P3
14	12	P D 3橋脚基礎アンカー工図	神淀 (西) P3
15	13	P D 3橋脚基礎浮止工図	神淀 (西) P3
16	14	P D 3橋脚ケーソン基礎頂版支保工図	神淀 (西) P3
17	15	P D 3橋脚ケーソン基礎配筋図 (その4)	神淀 (西) P3
18	16	P D 3橋脚ケーソン基礎配筋図 (その3)	神淀 (西) P3
19	17	P D 3橋脚ケーソン基礎配筋図 (その2)	神淀 (西) P3
20	18	P D 3橋脚ケーソン基礎配筋図 (その1)	神淀 (西) P3
21	19	P D 3橋脚基礎構造一般図	神淀 (西) P3
22	20	位置図および海老江ジャンクション 全体平面図	神淀 (西) P3、4
23	21	路面覆工存置縦断図	正蓮寺川TT46、47
24	22	路面覆工存置平面図	正蓮寺川TT46、47

第2節 共通事項

2.1 管理番号

資産データテーブル・補修データテーブルの各データテーブルは、路線ごとに道路構造物に付与された管理番号に基づいて作成する。

管理番号は次のように構造物に応じて分類しており、テーブル（工種）により該当する管理番号を用いて管理表示を行う。

管理番号分類	
高架（橋梁部）部	上部工管理番号 橋脚はり上管理番号 下部工管理番号
道路土工部	トンネル区間管理番号 土工区間管理番号 のり面／擁壁番号

管理番号を表記する項目と、その記入方法は次に示すとおりである。

(1) 路線名（表-14.2.1）

路線名は、表示路線名を使用する。

路線コードは（2桁）を記入する。1～9の数字は01～09と記入する。

(2) 管理区分

当該路線の管理区分をコード（1桁）で記入する。

〔1：大阪，2：兵庫〕

(3) ランプ・渡り線名（表-14.2.2）

入路、出路又は渡り線るとき該当するコード（4桁）を記入する。本線るときは記入しない。

(4) 車線区分

入路、出路、渡り線又は増設非常駐車帯るとき、この区分を表すコード（1桁）を記入する。本線るときは記入しない。

〔1：入路，2：出路，3：渡り線，4：増設非常駐車帯〕

表-14. 2. 1 路線一覧表

コード	表示路線名	呼称路線名	区間
0 1	環状	大阪府道高速 大阪池田線	浪速区日本橋附近 ～北区堂島浜通附近
0 2	池田（空）	大阪府道高速 大阪池田線 兵庫県道高速 大阪池田線	北区堂島浜通附近 ～池田市空港附近
0 3	守口	大阪府道高速 大阪守口線	北区中之島附近 ～守口市大日町附近
0 4	大阪港	大阪府道高速 大阪東大阪線	西区本田附近 ～港区港晴附近
0 5	東大阪	大阪府道高速 大阪東大阪線	西区本田付近 ～東大阪市水走附近
0 6	堺	大阪府道高速 大阪堺線	南区高津附近 ～堺市翁橋町附近
0 7	湾岸（岸）	大阪府道高速 湾岸線	西淀川区中島 ～住之江区南港東
0 8	湾岸（湾）	大阪府道高速 湾岸線	住之江区南港東 ～泉佐野市松原地先
0 9	松原	大阪府道高速 大阪松原線	浪速区日本橋東 ～松原市大堀町附近
1 0	大阪西宮（大）	大阪府道高速 大阪西宮線	西区阿波座付近 ～尼崎市東本町付近
1 1	森小路	大阪府道高速道路 森小路線	旭区中宮附近 ～城東区古市北通付近
1 2	西大阪	大阪府道高速道路 西大阪線	西成区南開附近 ～港区八雲町附近
1 3	大阪西宮（兵）	兵庫県道高速 大阪西宮線	尼崎市東本町附近 ～西宮市今津水波町附近
1 4	神戸西宮	兵庫県道高速 神戸西宮線	須磨区月見山附近 ～西宮市今津水波町附近
1 5	北神戸	兵庫県道高速 北神戸線	西区伊川谷潤和 ～西宮市山口町
1 6	湾岸（海）	兵庫県道高速 湾岸線	西淀川区中島 ～東灘区向洋町
1 7	神戸山手	神戸府道高速道路 2号線	長田区南駒栄町 ～須磨区白川
1 8	淀川左岸	大阪府道高速道路 淀川左岸線	此花区北港 ～北区豊崎
1 9	池田（池）	大阪府道高速 大阪池田線 兵庫県道高速 大阪池田線	豊中市蛸池西町 ～池田市木部
2 0	湾岸（垂）	神戸府道高速道路 湾岸線	垂水区名谷町 ～垂水区下畑町
2 1	北神戸（北）	神戸府道高速道路 北神戸線	北区有野町唐櫃 ～北区有野町有野
2 3	大和川	大阪府道高速大和川線 (阪神高速6号大和川線)	大阪府堺市築港八幡町 ～大阪府松原市三宅中
2 4	新神戸トンネル	神戸府道生田川箕谷線 (阪神高速32号神神戸トンネル)	兵庫県神戸市中央区雲井通 ～神戸市北区山田町

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その1）

環状線	空港線
0101：湊町入路	0201：中之島入路
0102：四ツ橋入路	0202：出入橋出路
0103：信濃橋出路	0230：梅田上出路
0104：信濃橋入路	0231：梅田下出路
0105：土佐堀出路	0232：梅田入路
0106：堂島入路	0203：梅田入路（旧）
0107：北浜出路	0204：福島出路
0108：高麗橋入路	0205：福島入路
0109：本町出路	0206：塚本出路
0110：長堀入路	0207：塚本入路
0111：道頓堀出路	0208：加島出路
0112：夕陽丘出路	0209：加島入路
0113：夕陽丘入路	0210：豊中南島田口出路
0114：えびす町入路	0211：豊中南島田口入路
0115：なんば出路	0212：豊中南名神豊中連絡路
0130：湊町北渡り線	0213：豊中南名行連絡路（V）
0133：船場第1工区D連絡線	0214：豊中南上津島出路
0134：船場第3工区C連絡線	0215：豊中南上津島入路
0135：船場第3工区F連絡線	0216：豊中北出路
	0217：豊中北入路
守口線	0218：大阪空港出路
0301：南森町出路	0219：大阪空港入路
0302：南森町入路	0220：池田出路
0303：扇町出路	0221：池田入路
0304：扇町入路	
0305：長柄出路	
0306：長柄入路	
0307：都島入路	
0308：城北出路	
0309：守口出路	
0310：守口入路	
0311：国道1号出路	
0312：国道1号入路	
0311：守口JCT出路	
0312：守口JCT(吹田)入路	
0313：守口JCT(門真)入路	

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その2）

大阪港線

- 0401：波除出路
- 0402：波除入路
- 0403：天保山港下出路
- 0404：天保山港上入路
- 0405：朝潮橋管理用出路
- 0406：朝潮橋パーキング
- 0430：岸港渡り線

東大阪線

- | | |
|-------------|------------------|
| 0501：本田入路 | 0544：東大阪荒本（大阪）出路 |
| 0502：九条出路 | 0545：東大阪荒本（奈良）出路 |
| 0523：西長堀東出路 | 0546：東大阪荒本入路 |
| 0524：西長堀東入路 | 0517：中野出路 |
| 0503：阿波座出路 | 0518：中野入路 |
| 0504：阿波座入路 | 0519：水走出路 |
| 0505：法円坂出路 | 0520：水走入路 |
| 0506：法円坂入路 | 0521：第二阪奈出路 |
| 0507：森之宮出路 | 0522：第二阪奈入路 |
| 0508：森之宮入路 | 0530：船場第1工区C連絡線 |
| 0509：高井田出路 | 0531：信濃橋渡り線 |
| 0510：高井田入路 | 0532：船場第3工区D連絡線 |
| 0511：長田出路 | 0533：船場第3工区E連絡線 |
| 0512：長田入路 | |
| 0513：東B入路 | |
| 0514：東D入路 | |
| 0515：東C出路 | |
| 0516：東A出路 | |
| 0540：東E出路 | |
| 0541：東F入路 | |
| 0542：東G出路 | |
| 0543：東H入路 | |

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その3）

堺線	湾岸線（岸）
0601：高津入路	0712：南港北出路（岸）
0612：湊町南（千日前）出路	0713：南港北入路（岸）
0613：湊町南（環状）出路	0701：天保山岸出路
0614：湊町北出路	0702：天保山岸入路
0615：湊町北入路	0703：湾岸舞洲（神戸）出路
0617：湊町パーキング出路	0704：湾岸舞洲（神戸）入路
0618：湊町パーキング入路	0705：湾岸舞洲（大阪）出路
0602：汐見橋入路	0706：湾岸舞洲（大阪）入路
0603：芦原出路	0707：中島出路
0604：津守出路	0708：中島入路
0605：津守入路	0709：中島第1出路
0606：玉出出路	0710：中島第2入路
0607：玉出入路	0711：中島排出路
0608：住之江出路	0730：港岸渡り線
0609：住之江入路	0731：淀岸（大阪）渡り線
0610：堺出路	0732：淀岸（神戸）渡り線
0611：堺入路	
0616：第二阪和出路	
0619：第二阪和入路	
0630：湊町南渡り線	

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その4）

湾岸線（湾）	
0801：天保山出路	0828：泉大津（大阪）入路
0802：天保山入路	0829：泉大津（関空）出路
0803：南港北出路	0830：泉大津（関空）入路
0804：南港北入路	0831：泉大津パーキング
0858：南港中出路	0853：泉大津パーキング東出路
0859：南港中入路	0854：泉大津パーキング東入路
0805：南港南出路	0855：泉大津パーキング西出路
0806：南港南入路	0856：泉大津パーキング西入路
0807：三宝出路	0857：泉大津連絡通路
0808：三宝入路(旧)	0832：岸和田北（大阪）出路
0809：大浜出路	0833：岸和田北（大阪）入路
0810：大浜入路	0834：岸和田北（関空）出路
0811：大浜排出路	0835：岸和田北（関空）入路
0852：大浜（関空）出路	0836：岸和田南（大阪）出路
0851：大浜（関空）入路	0837：岸和田南（大阪）入路
0812：出島出路	0838：岸和田南（関空）出路
0813：出島入路	0839：岸和田南（関空）入路
0814：石津出路	0840：貝塚（大阪）出路
0815：石津入路	0841：貝塚（大阪）入路
0816：石津排出路	0842：貝塚（関空）出路
0817：浜寺出路	0843：貝塚（関空）入路
0818：浜寺入路	0844：泉佐野北出路
0819：高石出路	0845：泉佐野北入路
0820：高石入路	0846：泉佐野南出路
0821：助松 J C T（大阪）出路	0847：泉佐野南入路
0822：助松 J C T（関空）出路	0848：りんくう JCT(関空)出路
0823：助松 J C T（大阪）入路	0849：りんくう JCT(関空)入路
0824：助松 J C T（関空）入路	0850：りんくう JCT(泉佐野)入路
0825：助松出路	0860：大和湾(大阪)渡り線
0826：助松入路	0861：大和湾(関空)渡り線
0827：泉大津（大阪）出路	0862：三宝(大阪)出路
	0863：三宝(関空)出路
	0864：三宝入路

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その5）

松原線	大阪西宮線（大）
0901：天王寺出路	1009：西長堀大出路
0902：阿倍野入路	1010：西長堀大入路
0903：文の里出路	1001：中之島西出路
0904：文の里入路	1002：中之島西入路
0905：駒川出路	1003：海老江出路
0906：駒川入路	1004：海老江入路
0907：平野出路	1005：姫島出路
0908：平野入路	1006：姫島入路
0909：喜連瓜破出路	1007：大和田出路
0910：喜連瓜破入路	1008：大和田入路
0911：三宅出路	1030：淀神(西)連絡線
0912：三宅入路	
0913：大堀出路	
0914：大堀入路	森小路線
0915：阿倍野管理用出路	1101：森小路出路
0916：阿倍野管理用入路	1102：森小路入路
0917：松原入路	
0918：松原JCT(東大阪)出路	大阪西宮線（兵）
0919：松原JCT(東大阪)入路	1301：尼崎東出路
	1302：尼崎東入路
西大阪線	1303：尼崎西出路
1201：北津守出路	1304：尼崎西入路
1202：北津守入路	1305：武庫川出路
1203：大正東出路	1306：武庫川入路
1204：大正東入路	
1205：大正西出路	
1206：大正西入路	
1207：弁天町出路	
1208：弁天町入路	
1209：安治川出路	
1210：安治川入路	
1230：西大阪渡り線（上）	
1231：西大阪渡り線（下）	

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その6）

神戸西宮線	
1401：西宮出路（I C）	1431：若宮出路
1402：西宮入路（I C）	1432：若宮入路
1403：西宮西出路	1433：月見山出路
1404：西宮西入路	1434：月見山入路
1405：芦屋出路	1436：第二神明出路
1406：芦屋入路	1437：第二神明入路
1407：深江出路	1438：湊川西行入路(新)
1408：深江入路	
1409：魚崎出路	
1410：魚崎入路	
1411：摩耶西行出路	
1412：摩耶東行出路	
1413：摩耶西行入路	
1414：摩耶東行入路	
1415：生田川西行出路	
1416：生田川東行出路	
1417：生田川西行入路	
1418：生田川東行入路	
1419：京橋西行出路	
1420：京橋東行出路	
1421：京橋西行入路	
1422：京橋東行入路	
1435：京橋パーキング	
1423：柳原西行出路	
1424：柳原東行出路	
1425：柳原西行入路	
1426：柳原東行入路	
1427：湊川西行出路	
1428：湊川東行出路	
1429：湊川西行入路	
1430：湊川東行入路	

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その7）

北神戸線	
1553：伊川谷出路	1524：しあわせの村東行入路
1554：伊川谷入路	1525：箕谷仮出路
1501：永井谷出路	1526：箕谷仮入路
1502：永井谷入路	1527：箕谷西行出路
1547：永井谷 J C T 出路	1528：箕谷東行出路
1548：永井谷 J C T 入路	1529：箕谷西行入路
1503：前開東行出路	1530：箕谷東行入路
1504：前開西行出路	1531：からと西出路
1505：前開西行入路	1532：からと西入路
1506：前開東行入路	1533：からと東出路
1549：布施畑（西行） J C T 出路	1534：からと東入路
1550：布施畑（東行） J C T 出路	1535：有馬口出路
1551：布施畑（西行） J C T 入路	1536：有馬口入路
1552：布施畑（東行） J C T 入路	1537：西宮山口南（西行） 出路
1507：布施畑西出路	1538：西宮山口南（東行） 出路
1508：布施畑西入路	1538：西宮山口南（西行） 入路
1516：布施畑東出路	1538：西宮山口南（東行） 出路
1509：布施畑東入路	1541：西宮山口東出路
1510：藍那西行出路	1542：西宮山口東入路
1511：藍那東行出路	1543：西宮山口 J C T 出路
1512：藍那西行入路	1544：西宮山口 J C T 入路
1513：藍那東行入路	
1514：前開西行パーキング	
1515：前開東行パーキング	
1545：白川西行パーキング	
1546：白川東行パーキング	
1521：しあわせの村西行出路	
1522：しあわせの村東行出路	
1523：しあわせの村西行入路	

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その8）

湾岸線（海）	神戸山手線
1601：東海岸出路	1701：駒栄出路
1602：東海岸入路	1702：駒栄入路
1603：末広（大阪）出路	1703：湊川（東行）連結路
1604：末広（大阪）入路	1704：湊川（西行）連結路
1605：末広（神戸）出路	1707：神戸長田出路
1606：末広（神戸）入路	1708：神戸長田入路
1607：鳴尾浜出路	1709：妙法寺出路
1608：鳴尾浜入路	1710：妙法寺入路
1609：甲子園浜出路	1711：白川南（北行）出路
1610：甲子園浜入路	1712：白川南（南行）出路
1611：西宮浜出路	1713：白川南（北行）入路
1612：西宮浜入路	1714：白川南（南行）入路
1613：南芦屋浜出路	1730：白川 JCT（三田）入路
1614：南芦屋浜入路	1731：白川 JCT（姫路）入路
1615：深江浜（大阪）出路	1732：白川 JCT（姫路）出路
1616：深江浜（大阪）入路	1733：白川 JCT（三田）出路
1617：深江浜（神戸）出路	
1618：深江浜（神戸）入路	淀川左岸線
1619：魚崎浜（大阪）出路	1801：淀川左岸舞洲出路
1620：魚崎浜（大阪）入路	1802：淀川左岸舞洲入路
1621：魚崎浜（神戸）出路	1803：島屋出路
1622：魚崎浜（神戸）入路	1804：島屋入路
1623：六甲アイランド北出路	1805：正蓮寺川出路
1624：六甲アイランド北入路	1806：正蓮寺川入路
1627：住吉浜出路	1807：大開出路
1628：住吉浜入路	1808：大開入路
	1830：岸淀（大阪）渡り線
	1831：岸淀（神戸）渡り線
	1832：神淀（西）連絡線
	1809：海老江北出路（仮称）
	1810：海老江北入路（仮称）
	1811：大淀出路（仮称）
	1812：大淀入路（仮称）
	1813：豊崎出路（仮称）
	1814：豊崎入路（仮称）

表-14.2.2 ランプ、渡り線一覧表（その9）

池田線	
1901	： 神田出路
1902	： 神田入路
1903	： 川西小花出路
1904	： 川西小花入路
1905	： 池田木部出路（池田木部第一出路）
1906	： 池田木部入路（池田木部第一入路）
1907	： 池田木部排出路
1908	： 国道173号線出路（池田木部第二出路）
1909	： 国道173号線入路（池田木部第二入路）
湾岸線（垂）	大和川線
2001	： 名谷 J C T（垂水） 出路
2002	： 名谷 J C T（垂水） 入路
2003	： 垂水 J C T 出路
2004	： 垂水 J C T 入路
2005	： 名谷 出路
2006	： 名谷 入路
2007	： 名谷 J C T（須磨） 出路
2008	： 名谷 J C T（須磨） 入路
2301	： 三宝(大和) 出路
2302	： 三宝(大和) 入路
2303	： 鉄砲東行 出路
2304	： 鉄砲西行 入路
2305	： 鉄砲西行 出路
2306	： 鉄砲東行 入路
2307	： 常磐東行 出路
2308	： 常磐西行 入路
2309	： 常磐西行 出路
2310	： 常磐東行 入路
2311	： 天美 出路
2312	： 天美 入路
2313	： 三宅西 出路
2314	： 三宅西 入路
2330	： 湾大和(大阪) 渡り線
2331	： 湾大和(関空) 渡り線
北神戸線（北）	
2101	： 五社 出路
2102	： 五社 入路
2103	： 柳谷 J C T 出路
2104	： 柳谷 J T 入路
新神戸トンネル線	
2401	： 国道2号 出路
2402	： 国道2号 入路
2403	： 二宮 入路
2404	： 神若 出路
2405	： 新神戸駅 出路
2406	： 新神戸箕谷 入路
2407	： 新神戸箕谷 出路
2430	： 箕谷北行 連結路
2431	： 箕谷南行 連結路

(5) 管理番号名称

管理番号で表記する路線名の略称を、該当するコード（3桁）で記入する。北神戸線等の高架橋、トンネル、土工区間が混在する路線では高架橋名又はトンネル名を略称とするので注意する。

入路、出路等で、管理番号名称を表記しないときは、記入しない。

001：環（環状）	北神戸線
002：空（池田）	100：北起（北神戸起点）
003：守（守口）	101：別府（別府高架橋）
004：港（大阪港）	102：永井（永井谷高架橋）
005：東（東大阪）	103：井T（井吹トンネル）
006：堺（堺）	104：東谷（東谷高架橋）
007：岸（湾岸）	105：大谷（大谷高架橋）
008：湾（湾岸）	106：奥口（奥口谷高架橋）
009：松（松原）	107：室谷（室谷高架橋）
010：大（大阪西宮）	108：寺池（寺池高架橋）
011：森（森小路）	109：矢谷（矢谷高架橋）
012：西（西大阪）	110：渋谷（渋谷高架橋）
013：西（大阪西宮）	111：宝光（宝光坊高架橋）
014：神（神戸西宮）	112：太1T（太山寺第1トンネル）
016：海（湾岸）	113：太2T（太山寺第2トンネル）
	114：伊川（伊川谷高架橋）
	115：布施（布施畑高架橋）
	116：布東（布施畑東高架橋）
	117：白川（白川高架橋）
	118：大滝（大滝高架橋）
	119：藍T（藍那トンネル）
	120：藍那（藍那高架橋）
	121：長坂（長坂山高架橋）
	122：長T（長坂山トンネル）
	123：万条（万条高架橋）
	124：万T（万条カルバート）
	125：百合（百合ヶ丘高架橋）
	126：箕谷（箕谷高架橋）

127：福仙（福仙寺高架橋）	神戸山手線
128：鷺谷（鷺谷高架橋）	201：開T（開削トンネル南伸部）
129：谷上（谷上高架橋）	202：長OT（長田開削トンネル）
130：下谷（下谷高架橋）	203：長T（長田トンネル）
131：上原（上原高架橋）	204：高T（高取山トンネル）
132：炭谷（炭ヶ谷橋）	205：高取（高取山高架橋）
133：花山（花山高架橋）	206：妙1T（妙法寺第1トンネル）
134：水晶（水晶山橋）	207：護摩（護摩谷橋）
135：唐T（新唐櫃トンネル）	208：妙2T（妙法寺第2トンネル）
136：奥山（奥山高架橋）	209：妙法（妙法寺高架橋）
137：唐新（唐櫃新橋）	210：白T（白川トンネル）
138：高林（高林高架橋）	211：樋詰（樋詰橋）
139：唐櫃（唐櫃高架橋）	212：竹下（竹ノ下高架橋）
140：有1（有馬口第1高架橋）	
141：有2（有馬口第2高架橋）	湾岸線（垂）
142：有3（有馬口第3高架橋）	301：下畑（湾岸線（7期）終点）
143：有4（有馬口第4高架橋）	302：権行（権行司高架橋）
144：アマト（有馬北トンネル）	303：名谷（名谷高架橋）
145：中野（中野高架橋）	381：名ST（名谷出路トンネル）
146：金1（金仙寺湖第1橋）	382：名ET（名谷入路トンネル）
147：金T（金仙寺トンネル）	
148：金2（金仙寺湖第2橋）	池田線（池）
149：畑T（畑山トンネル）	019：池（池田）
150：畑山（畑山橋）	401：伊T（伊丹トンネル）
181：箕1T（箕谷西行出第1トンネル）	
182：箕2T（箕谷西行出第2トンネル）	淀川左岸線
183：箕T（箕谷西行入トンネル）	018：淀（淀川左岸）
	701：正蓮寺川（正蓮寺川トンネル）
北神戸線（北）	
501：唐北（唐櫃（北延伸）高架橋）	新神戸トンネル線
502：水無（水無高架橋）	801：戸T下（新神戸トンネル下り線）
503：朴 ¹ （オドロ第1高架橋）	802：戸T上（新神戸トンネル上り線）
504：朴 ² （オドロ第2高架橋）	803：東箕谷橋（新神戸トンネル）
505：アノT（有野トンネル）	804：第2東箕谷橋（新神戸トンネル）
506：有野（有野高架橋）	805：布引山橋（新神戸駅出路）
507：有五（有野五社高架橋）	
508：松尾（松尾橋高架橋）	
509：堀越（堀越川高架橋）	
510：池谷（池の谷高架橋）	
511：西堀（西堀高架橋）	
512：奥沢（奥沢高架橋）	

大和川線

- 023 : 和 (大和川)
- 901 : 大和川第1 (大和川第1トンネル)
- 902 : 大和川第2 (大和川第2トンネル)
- 903 : 大和川第3 (大和川第3トンネル)

(6) 車線区分

上部工又は下部工の上り線と下り線が分離構造のときに、上り線・下り線の区分コード(1桁)で記入する。上り線と下り線が一体構造のときは記入しない。車線区分が不明確なところは下り線側として表示する。なお、ランプ・渡り線では車線区分は記入しない。

[1 : 上り線, 2 : 下り線]

(7) 管理番号記号

管理番号は、管理表示する道路構造物により、次のように分類される。

「S」表示 : 上部工管理番号

[道路構造・桁・高欄・舗装]

「P」表示 : 下部工管理番号

[橋脚・橋台等の管理・のり面等の管理]

橋脚はり上管理番号 [伸縮継手・支承等の管理]

「HI」表示 : ゲルバー桁ヒンジ部 [伸縮継手・支承等の管理]

「T」表示 : トンネル区間管理番号 [トンネル部・のり面等の管理]

「E」表示 : 土工区間管理番号

[道路土工部 (盛り土・切り土部)・のり面等の管理]

表示する管理番号により該当する英字記号を右詰めで記入する。

なお、資産データテーブル・補修データテーブルの各テーブルと、管理表示方式の関係は次に示すとおりである。

資産・補修データテーブルと管理表示

本体 構造 物 資産 デ ータ テ ー ブル	工事・設計・図面テーブル……工事登録番号 [管理番号] 道路構造テーブル……上部工/トンネル区間/土工区間管理番号 上部工テーブル……上部工管理番号 床版テーブル……床版管理番号 下部工テーブル……下部工管理番号 道路土工テーブル……土工区間管理番号 のり面・擁壁テーブル……のり面/擁壁番号 トンネルテーブル……トンネル管理番号 カルバートテーブル……トンネル区間/土工区間管理番号 高欄・防護柵テーブル……上部工/土工区間管理番号 非常口テーブル……下部工管理番号
附属 構造 物 デ ータ テ ー ブル	遮音壁テーブル……上部工/土工区間管理番号 伸縮継手テーブル……橋脚はり上/上部工管理番号 支承テーブル……橋脚はり上管理番号 落橋防止システムテーブル……橋脚はり上管理番号 鋼構造物塗装テーブル……上部工/下部工管理番号 舗装テーブル……上部工管理番号 高速道路標識柱テーブル……上部工/トンネル区間/土工区間管理番号 高速道路標識板テーブル……上部工/トンネル区間/土工区間管理番号 平面街路標識柱テーブル……路線 平面街路標識板テーブル……路線
本体 構造 物 補 修 デ ータ テ ー ブル	桁補修テーブル……上部工管理番号 床版補修テーブル……上部工管理番号 橋脚補修テーブル……下部工管理番号 のり面・擁壁補修テーブル……のり面/擁壁番号 トンネル補修テーブル……トンネル管理番号 カルバート補修テーブル……トンネル区間/土工区間管理番号 高欄・防護柵補修テーブル……上部工/土工区間管理番号

注) [] 内に示した管理番号は位置関係を補足するために使用する。

(8) 管理番号

道路構造物に対して、路線又はランプごとに起点側から順に付与された一連番号（管理番号）を記入する。高架部では、橋脚（下部工）と径間（上部工）単位での管理表示を原則としている。また道路土工部とトンネル部では、管理区間（後述）を設けて管理表示が行われる。

数字（4桁）は右詰めで記入し、1～3桁の数字（1, 2, 3, …999）では前ゼロは記入しない。

(9) 管理番号枝番

増設桁や橋脚あるいはゲルバー桁ヒンジ部等で、枝番号（A, L, R, R1, R2, 1, 2, …等）がある場合に記入する。なお、排出路の土工部については枝番号Dを付し、備考に排出路と記入する。

A, L, Rのように英字1字のものは左詰めで記入する。1桁の数字は右詰めで記入し、前ゼロは記入しない。枝番号がないものは記入しない。

(10) キロポスト

- ・キロポスト名称をコード（2桁）で記入する。なお、ランプでは記入しないが、渡り線では記入する。
- ・車線区分は、上り線と下り線が分離構造のときに、上り線・下り線の区分コード（1桁）で記入する。上り線と下り線が一体構造のときは記入しない。なお、ランプ・渡り線では記入しない。
- ・キロポストの単位は、キロメートル単位で小数点以下第3位（メートル）まで記入する。高架部では橋脚上（上部工では起点側の橋脚上）、道路土工部とトンネル部では管理区間始点（起点側）における路線起点からの距離を記入する。

車線区分

[1：上り線, 2：下り線]

キロポスト名称コード

01：環	[環状]	25：北	[北神戸]
02：東環	[環状]	26：淀	[淀川左岸]
03：池	[池田(空)/池田(池)]	27：岸下淀	[淀川左岸]
04：蚩	[池田(空)]	28：岸上淀	[淀川左岸]
05：守	[守口]	29：垂	[湾岸(垂)]
06：港	[大阪港、東大阪]	30：有	[北神戸(北)]
07：岸港(F)	[大阪港]	31：山	[神戸山手]
08：東	[東大阪]	33：和	[大和川]
09：井西	[東大阪、環状]	34：神淀上	[3号神戸線上り →淀川左岸線上り]
10：井東	[東大阪、環状]	35：淀下神	[淀川左岸線下り →3号神戸線下り]
11：環港	[東大阪]	36：戸	[新神戸トンネル線]
12：環東	[東大阪]	37：和湾下	[大和川線 →湾岸線下り]
13：堺	[堺]	38：和湾上	[大和川線 →湾岸線上り]
14：千	[堺、環状]	39：湾下和	[湾岸線下り →大和川線]
15：環堺	[堺]	40：湾上和	[湾岸線上り →大和川線]
16：岸	[湾岸(岸)、湾岸(海)]		
17：湾岸(G)	[湾岸(岸)]		
18：淀岸下	[湾岸(岸)]		
19：淀岸上	[湾岸(岸)]		
20：湾	[湾岸(湾)]		
21：松	[松原]		
22：森	[森小路]		
23：西	[西大阪]		
24：神	[大阪西宮(大)、大阪 西宮(兵)、神戸西宮]		

2.2 道路土工部の管理番号

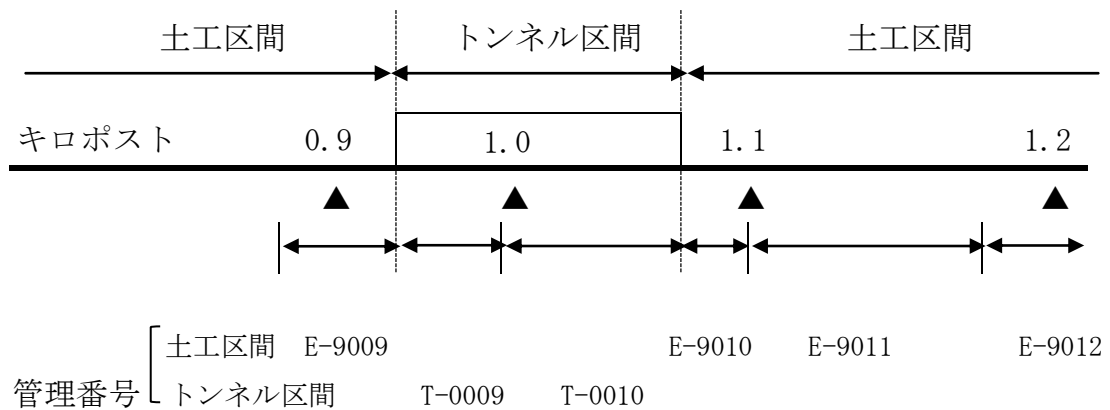
道路土工部では、キロポスト(100m単位)で付与するトンネル区間管理番号、土工区間管理番号、1つのトンネル全体を管理表示するトンネル番号及びのり面/擁壁番号により、データ作成・管理を行う。

2.2.1 トンネル区間管理番号・土工区間管理番号

道路土工部で使用するトンネル区間管理番号(T表示)及び土工区間管理番号(E表示)の表示方法は、次に示すとおりである。なお、管理番号を表記する項目とその記入方法は、高架部と同様である。

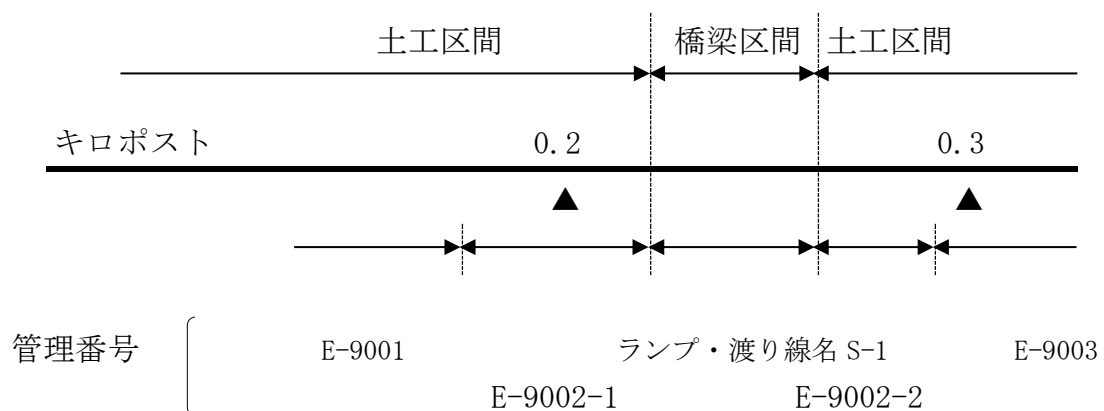
- (1) トンネル区間及び土工区間の管理番号は、100mごとのキロポスト単位で表示する。トンネル区間の表示は、100m単位の整数表示とし、土工区間の表示は、キロポスト 100m単位の整数表示で 9000 番台とする。なお、道路土工部の入路及び出路についても、本線と同様に 100mごとのキロポスト単位で表示する。
- (2) 土工区間の管理番号名称は、道路起点側の高架橋又はトンネルと同じ管理番号名称で表示する。

[表示例]



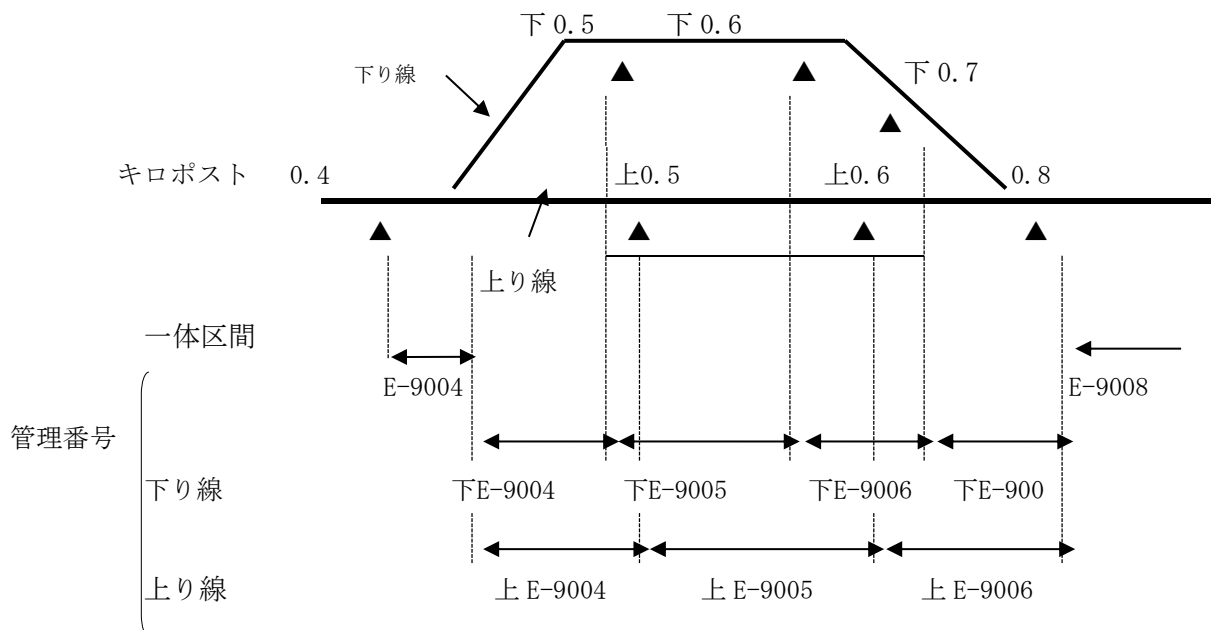
- (3) ランプ・渡り線において、キロポスト 100m単位内に橋梁部・トンネル部等が存在し、土工部が分割されている場合、起点側から管理番号枝番を付与する。

[表示例]



- (4) 上り線・下り線が合流した後の一体区間においては、現地に設置されたキロポスト表示が上り線・下り線で一致するまで、土工区間の管理番号は上下分離して付与する。

[表示例]



2.2.2 トンネル番号

トンネル番号は、トンネル区間管理番号とは異なり、トンネル単位（1つのトンネル全体）で管理表示するために付与するものである。

トンネル番号は、トンネル区間管理番号を表記するとき使用した路線名、管理番号名称・車線区分の3つの項目で構成される。なお、開削トンネル・カルバートで上下線一体構造の場合は、車線区分は記入しない。

2.2.3 のり面／擁壁番号

のり面／擁壁番号は連続した1つののり面又は擁壁を1つの単位として管理表示するために付与するものである。なお、管理番号には、下部工管理番号、トンネル管理番号、及び土工区間管理番号を使用することとし、その他の管理番号を表記する項目とその記入方法は、高架部と同様である。

- (1) 管理番号は、のり面又は擁壁の始点（本線の起点側）における上記管理番号で表示する。
- (2) 上り線と下り線が分離する区間の中央部やトンネルの入口付近等で、車線区分が不明確なところは下り線側として表示する。

2.3 コード記入方法

資産データテーブル、補修データテーブルの各データテーブルにおいて、記入するコードの中で数字“0”，“1”，“2”とアルファベット“O”，“D”，“I”，“Z”については混同しやすいために、“0”，“1”，“2”は通常書かれる0, 1, 2でよいが、アルファベットについては“O”→O，“D”→D，“I”→I，“Z”→Zとして記入する。

なお、原則としてコードは左詰めで記入するが、数量については右詰めで記入する。

第3節 資産・補修共通データテーブル

3.1 工事・設計・図面テーブル

○ 一般事項

工事単位でデータを記入し、工事名、工期、施工箇所を把握することを目的とする。記入に際してはデータテーブル（様式 3-1_工事・設計・図面）を用いて次の要領で記入する。

(1) 工事種別

工事の区分を次の分類から記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(2) 工種を次のうちからコードで記入する。

小分類（工種）					
01	下部工	18	電波障害対策工事	35	杓補修
02	鋼製橋脚	19	建築関係	36	鋼製橋脚塗装塗替
03	鋼 桁	20	機械関係	37	鋼桁塗装塗替
04	P C 桁	21	土木建築施設図	38	路下整備
05	R C 桁	22	下部工補修	39	電気関係補修
06	床 版	23	鋼製橋脚補修	40	通信関係補修
07	舗 装	24	鋼桁補修	41	交通管制関係補修
08	付属構造物	25	P C 桁補修	42	建築関係補修
09	トンネル構造物	26	R C 桁補修	43	機械関係補修
10	標識関係	27	床版補修	44	植樹帯
11	プラスチック板等	28	舗装補修	45	その他
12	流末処理工	29	標識補修	46	塗 装
13	路下防護柵	30	遮音壁等補修 (プラ板等)	47	非常駐車帯
14	ガードレール	31	伸縮継手補修	48	道路土工
15	電気関係	32	ガードレール補修	49	床組構造改築工事
16	通信関係	33	ガードレール取替	50	美装化工事
17	交通管制関係	34	排水管補修		

注) 補修工事については、工事の内容に応じてテーブル表に該当する小分類番号を記入する。

(3) 工事名

工事名をテキストで記入する。英数字括弧は半角としカタカナは全角で記入する。

(4) 施工業者名

施工業者名をテキストで記入する。英数字括弧は半角としカタカナは全角で記入する。

(5) 施工管理番号

施工箇所の全管理番号をテキストで記入する。英数字括弧は半角としカタカナは全角で記入する。

(6) 工期を半角で記入する。

(7) しゅん工図の枚数を記入する。なお、タイトル、目次は除いた枚数とする。

(8) 設計年度

設計年度を西暦で記入する。ただし、設計年度が不明の場合については、監督員と協議の上決定する。

(9) 設計基準

設計基準の発行年度（西暦）とコードを記入する。

設計基準	
M1	道路橋示方書（鋼橋・鋼部材編）
M2	鋼道路橋示方書
M3	溶接鋼道路橋示方書
M4	合成桁設計・施工指針
M5	高力ボルト摩擦接合設計施工指針
C1	道路橋示方書（コンクリート橋・コンクリート部材編）
C2	R C道路橋示方書
C3	P C道路橋示方書
P1	道路橋示方書（下部構造編）
P2	下部構造物設計指針／調査設計
P3	下部構造物設計指針／橋台・橋脚
P4	下部構造物設計指針／直接基礎
P5	下部構造物設計指針／杭基礎
P6	下部構造物設計指針／場所打杭
P7	下部構造物設計指針／ケーソン基礎
E1	道路橋示方書（耐震設計編）
E2	道路橋耐震設計指針
A1	兵庫県南部地震により被災した道路橋の復旧に係る仕様（上部工関連）
A2	兵庫県南部地震により被災した道路橋の復旧に係る仕様（上部工関連）

(10) 備考

特記事項等について、日本語 50 文字以内で記入する。

第4節 資産データテーブル

4.1 道路構造テーブル

○ 一般事項

高架区間、トンネル区間、土工区間の全ての道路について作成する。高架構造部では、上部工1径間ごとに、トンネル区間及び土工区間では、1管理区間（キロポスト100m単位）ごとにデータを記入し、上り線、下り線に分離して

いる場合は各々で記入するものとする。

ただし、高架構造部のランプ終点側にある擁壁部等の土工部は一括管理とする。記入に際してはデータテーブル（様式 4-1_道路構造）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工／トンネル・土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、上部工又はトンネル、土工区間の管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 供用年度

当該区間の供用年度を西暦で記入する。

(3) 1方向・2方向

方向区分をコードで記入する。

1方向・2方向	
1	1方向
2	2方向

(4) 下り線等

車線数・車線区分について記入する。環状線については下り線にのみ記入する。なおランプについては、その帰属する下り線又は上り線に記入し、渡り線の帰属については次に示すとおりとする。

車線区分	
B	分岐・合流帯部
P	非常駐車帯
S	パーキング

(5) 上り線等

下り線等と同じ要領で記入する。

路線	渡り線	上下区分
環状	湊町北渡り線	下り線
環状	船場第1工区D連絡線	下り線
環状	船場第3工区C連絡線	下り線
環状	船場第3工区F連絡線	下り線
大阪港	岸港渡り線	上り線
東大阪	船場第1工区C連絡線	下り線
東大阪	信濃橋渡り線	上り線
東大阪	船場第3工区D連絡線	上り線
東大阪	船場第3工区E連絡線	下り線
堺	湊町南渡り線	下り線
湾岸(岸)	港岸渡り線	下り線
湾岸(岸)	淀岸(大阪)渡り線	上り線
湾岸(岸)	淀岸(神戸)渡り線	下り線
西大阪	西大阪渡り線(上)	上り線
西大阪	西大阪渡り線(下)	下り線
淀川左岸	岸淀(大阪)渡り線	下り線
淀川左岸	岸淀(神戸)渡り線	下り線
神戸山手	湊川(東行)連結路	上り線
神戸山手	湊川(西行)連結路	下り線

(6) 平面線形／線形区分

高架部の1径間、又はトンネル区間・土工区間の1管理区間の中で、2種類以上の線形にまたがる場合は、占める割合が最も大きいものをコードで記入する。

線形区分	
S	直線
C	曲線
T	緩和曲線

(7) 平面線形／曲線半径

平面線形区分が「曲線」又は「緩和曲線」の場合に曲線半径を記入する。曲線半径が2種類以上ある場合や、緩和曲線の場合は最も小さい半径を記入する。

単位はmで小数点第4位を四捨五入し、第3位まで記入する。

注) クロソイド曲線（緩和曲線）の場合、1管理単位の中で半径が最も小さくなるポイントの半径を次の計算式によって求める。

$$R = A^2 / L$$

R：任意点の曲線半径（m）
A：クロソイド曲線のパラメータ（m）
L：始点から任意点までの曲線状の距離（m）

(8) 縦断勾配／勾配区分

左側（起点側）から右側（終点側）に向かって、上り勾配か下り勾配か平坦（レベル）かをコードで記入する。1径間又は1管理区間の中で、2種類以上にまたがる場合は、占める割合が最も大きいものを記入する。

勾配区分	
L	レベル
D	下り勾配
U	上り勾配

(9) 縦断勾配／勾配

1径間又は1管理区間の中で、最も大きい縦断勾配の値を記入する。縦断勾配は、道路中心線での値を記入する。単位は%で、小数点以下第2位を四捨五入し、第1位まで記入する。

(10) 横断勾配／勾配区分

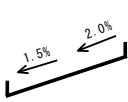
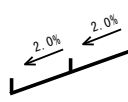
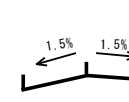
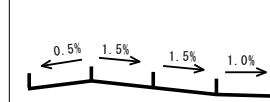
横断勾配区分は、高架部の1径間又はトンネル・土工区間の1管理区間の起点側から終点側に向かってみた（橋脚上）断面における形状を記入する。上り線・下り線別にそれぞれ記入し、1方向の場合は下り線側に記入する。

勾配区分	
B	両勾配
L	片勾配（左下り）
R	片勾配（右下り）
F	レベル
8	その他

(11) 横断勾配／横断勾配

勾配値が2種類ある場合は、勾配値の大きい方を記入する。ただし、1方向の場合は、上り線には記入しない。単位は%で小数点以下第2位を四捨五入し、第1位まで記入する。

横断勾配記入例

ケース		1方向	2方向	2方向	2方向
					
横断勾配		下 S-110	S-120	S-130	S-140
下り線	横断勾配区分	左下り	左下り	左下り	両勾配
	勾配 (%)	2.0%	2.0%	1.5%	1.5%
上り線	横断勾配区分	—	左下り	右下り	右下り
	勾配 (%)	—	2.0%	1.5%	1.5%

(12) 橋長（区間長）

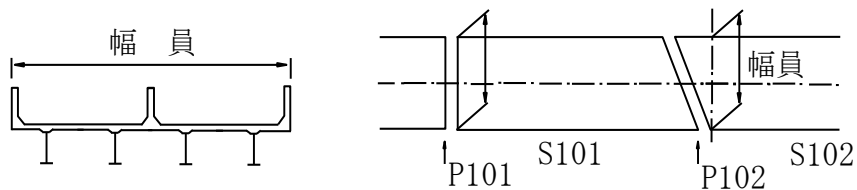
高架部は、橋脚中心間で道路中心線上の長さを記入する。また、トンネル・土工区間は、1道路管理単位の道路中心線上の長さを記入する。共通事項の土工区間管理方式を参照。単位はmで小数点以下第3位まで記入する。

(13) 幅員 / 起点側・終点側

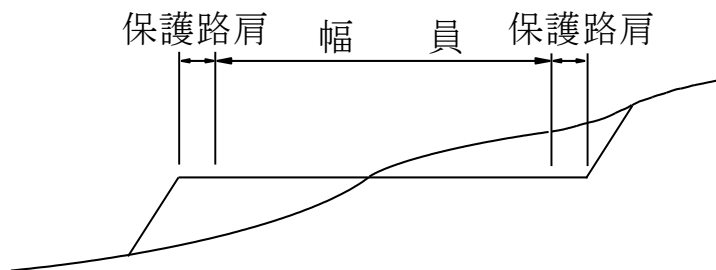
高架部は、起点側（左側）と終点側（右側）の橋脚上での横断方向（道路中心線直角方向）の長さを記入する。また、トンネル・土工区間は、1管理区間の起点側（左側）の開始地点と終点側（右側）の終了地点での横断方向（道路中心線直角方向）の長さを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、第1位まで記入する。

[橋 梁 部]

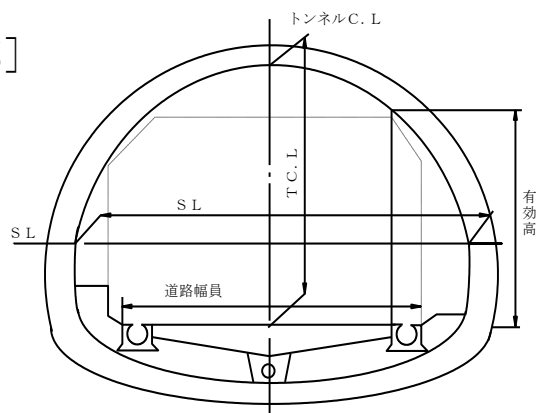
○起点側の橋脚上での横方向（道路中心線直角方向）の長さを記入する。



[道路土工部]



[トンネル部]



(14) 橋面積（区間面積）

1 径間又は 1 区間の平面積（橋長と総幅員により算出）を記入する。単位は m^2 で小数点以下第 2 位を四捨五入し、第 1 位まで記入する。

(15) 設計速度

設計速度を記入する。単位は km/h で、整数止めとする。

(16) 設計荷重

設計活荷重をコードで記入する。

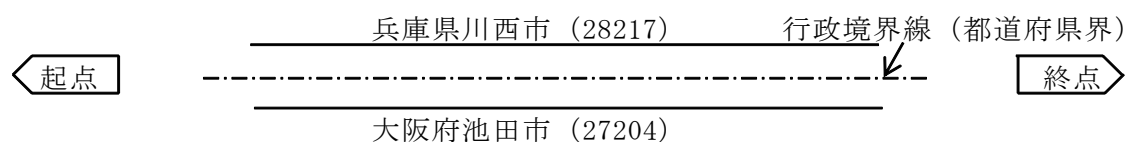
設計活荷重	
T2	T-20
20	TL-20
25	TL-25
43	TT-43
A	A活荷重
B	B活荷重
88	その他

(17) 市区町村

管理区間に該当する都道府県市区町村コードを記入する。コードは、総務省作成の「市区町村コード」を使用しており、5 ケタの数字で記入する。

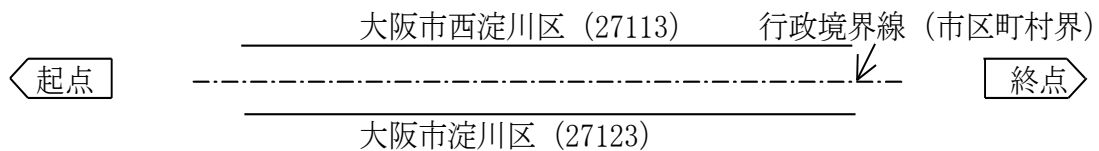
[例 1]

行政境界線が管理者境界に当たる場合、当該道路の管理者側の区域に属するものとし、大阪府管理→大阪府池田市（27204）とする。



[例 2]

行政境界線が同一管理区域内の境界に当たる場合、起点から終点に向かって左側の区域に属するものとし、同一管理区域境界線→大阪市西淀川区 (27113) とする。



市区町村			
27100	大阪市	27117	大阪市旭区
27127	大阪市北区	27118	大阪市城東区
27102	大阪市都島区	27119	大阪市阿倍野区
27103	大阪市福島区	27120	大阪市住吉区
27104	大阪市此花区	27121	大阪市東住吉区
27128	大阪市中央区	27122	大阪市西成区
27106	大阪市西区	27123	大阪市淀川区
27107	大阪市港区	27124	大阪市鶴見区
27108	大阪市大正区	27125	大阪市住之江区
27109	大阪市天王寺区	27126	大阪市平野区
27111	大阪市浪速区		
27113	大阪市西淀川区		
27114	大阪市東淀川区		
27115	大阪市東成区		
27116	大阪市生野区		

市区町村			
27201	堺市	27230	交野市
27141	堺市堺区	27231	大阪狭山市
27142	堺市中区	27232	阪南市
27143	堺市東区	27301	三島郡島本町
27144	堺市西区	27321	豊能郡豊能町
27145	堺市南区	27322	豊能郡能勢町
27146	堺市北区	27341	泉北郡忠岡町
27147	堺市美原区	27361	泉南郡熊取町
27202	岸和田市	27362	泉南郡田尻町
27203	豊中市	27366	泉南郡岬町
27204	池田市	27367	泉南郡阪南町
27206	泉大津市	27381	南河内郡太子町
27208	貝塚市	27382	南河内郡河南町
27209	守口市	27383	南河内郡千早赤坂村
27212	八尾市		
27213	泉佐野市		
27214	富田林市	28100	神戸市
27215	寝屋川市	28101	神戸市東灘区
27217	松原市	28102	神戸市灘区
27218	大東市	28105	神戸市兵庫区
27219	和泉市	28106	神戸市長田区
27220	箕面市	28107	神戸市須磨区
27221	柏原市	28108	神戸市垂水区
27222	羽曳野市	28109	神戸市北区
27223	門真市	28110	神戸市中央区
27224	摂津市	28111	神戸市西区
27225	高石市	28201	姫路市
27226	藤井寺市	28202	尼崎市
27227	東大阪市	28203	明石市
27228	泉南市	28204	西宮市
27229	四条畷市		

市区町村			
28206	芦屋市	28217	川西市
28207	伊丹市	28218	小野市
28210	加古川市	28219	三田市
28214	宝塚市	28220	加西市
28215	三木市	28301	川辺郡猪名川町
28216	高砂市		

(18) 計画高

左側（起点側）橋脚上の道路中心線上での路面計画高を記入する。単位はmで小数第3位まで記入する。

(19) 地盤高

左側（起点側）の橋脚位置での地盤高を記入する。河川、海上の場合は計画高水位を記入する。なお、橋脚位置で地盤高が示されていない場合は左右地点の平均値等を記入する。単位はmで小数第2位まで記入する。

(20) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.2 上部工テーブル

○ 一般事項

上部工1径間ごと（管理番号ごと）にデータを記入し、上り線、下り線に分離している場合も各々で記入するものとする。記入に際してはデータテーブル（様式 4-2_上部工）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工管理番号

共通事項の要領に従い、上部工管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) しゅん工年度

上部工のしゅん工年度を西暦で記入する。

(3) 上部工構造形式／桁区分

上部工桁区分をコードで記入する。

桁区分	
M	鋼桁
P	P C 桁
C	R C 桁
F	鋼・コンクリート複合桁

(4) 上部工構造形式／床版種別等・桁種別

床版種別と桁種別をコードで記入する

床版種別等	
S	鋼床版
C	R C 床版 (合成)
U	R C 床版 (非合成)
C B	グレーチング床版 (合成)
U B	グレーチング床版 (非合成)
C L	軽量コンクリート床版 (合成)
U L	軽量コンクリート床版 (非合成)
P C	P C C 床版
P S	プレキャスト床版
E	P C (プレテン)
O	P C (ポステン)
C C	鋼・コンクリート合成床版
U F	超高強度繊維補強コンクリート(U F C)床版

桁種別	
I	I 桁
I G	I 桁ゲルバー
I M	I 桁(主桁連結)
I F	I 桁(床版連結)
H	H 桁
H M	H 桁(主桁連結)
H F	H 桁(床版連結)
B	箱桁
B O	開断面箱桁
B G	箱桁ゲルバー
S	スラブ橋
S C	スラブ橋片持
H S	中空床版
T	T 桁
T C	T 桁片持
D W	ディビダーグ
P L	ピルツ
T R	トラス
T G	ゲルバートラス橋
W M	波形鋼板ウェブ
A	アーチ
A L	ローゼ
C	斜張橋
S P	特殊橋
Z Z	その他

(5) 上部工構造形式／連続構造

連続桁又は連結桁の場合に連続径間数を右詰めの数字で記入する。また、着目する径間について、連続桁の左側（起点側）から数えた着目径間（番号）を右詰めの数字で記入する。

(6) 主桁数

総主桁本数を数字で記入する。

(7) 桁端切欠

桁端切欠	
I	なし
S	起点側にあり
E	終点側にあり
W	両側にあり

[桁端切欠例]

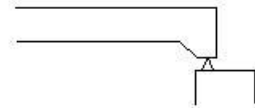


(8) 桁端足継

桁端足継の有無をコードで記入する。

桁端足継	
I	なし
S	起点側にあり
E	終点側にあり
W	両側にあり

[桁端足継例]



(9) 直線・曲線主桁

主桁の形状をコードで記入する。なお、折線桁は、曲線桁に含める。




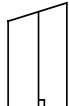
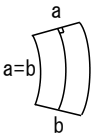
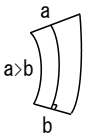


直線・曲線主桁	
S	直線主桁
C	曲線主桁
W	直線・曲線主桁

例						
	箱桁	I 桁	I 桁	箱桁	I 桁	箱桁
コード	S	C	S	W	W	S

(10) バチ・斜形状

バチ・斜形状をコードで記入する。

バチ・斜形状	
1	なし
B	バチ形状
S	斜形状
W	バチ、斜形状

例				
コード	1	B	S	S
例				
コード	1	B	W	B
<p>[注]・「バチ形状」＝外側主桁間隔が起点側と終点側で異なるもの。 ・「斜形状」＝道路中心線と支承線の交角が90度でないもの。 道路中心線：車道中心線 支承線：起点側及び終点側面の支承を結んだもの。</p>				

(11) 桁高／断面変化・変断面橋・主桁高さ

断面変化、変断面橋の有無をそれぞれコードで記入する。断面変化は1径間内の桁高がなだらかに変化しているような場合とし、変断面橋は建築限界等の関係で桁高がおさえられたような場合とする。

主桁高さは、該当する桁の中間部の高さを記入する。単位はmで小数点以下3第位を四捨五入し、第3位まで記入する。

断面変化／変断面橋	
1	なし
2	あり

(12) 桁長

桁長を記入する。単位はmで小数点以下第3位まで記入する。

(13) 支間長

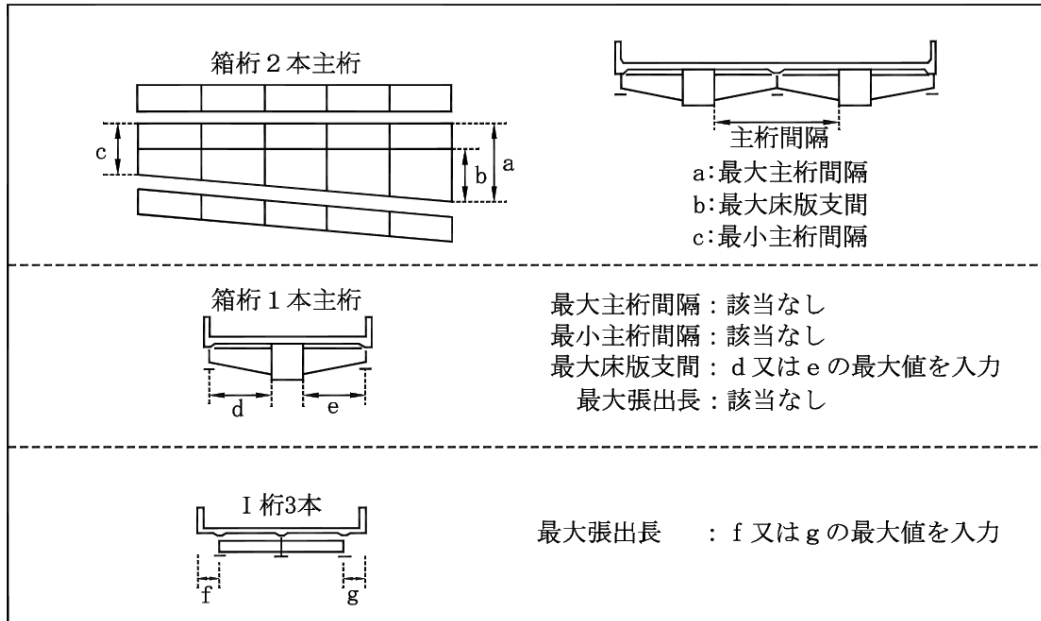
桁の支間長を記入する。単位はmで小数点以下第3位まで記入する。

(14) 桁下高さ

桁下の高さについて、径間の中で地盤から最も低いところを記入する。
単位はmで小数点以下第2位まで記入する。

(15) 桁間隔／主桁間隔・最大床版支間・最大張出長

最大主桁間隔、最小主桁間隔、最大床版支間、最大張出長を記入する。
単位はmで小数点以下第3位を四捨五入し、第2位まで記入する。



(16) 床版／床版厚／パネル数／パネル面積

① 床版厚

床版厚を mm 単位（四捨五入整数止め）で右詰めの数字で記入する。

② パネル数

コンクリート床版の主桁（縦桁）及び横桁（ブラケット）に囲まれた部分の数を右詰めの数字で記入する。なお、上部開口箱桁の場合のパネル数もこれに含む。

③ 補修済パネル

1 径間の床版パネルのうち、補修済パネル数を右詰めの数字で記入する。

④ 未補修パネル

1 径間の床版パネルのうち、未補修パネル数を右詰めの数字で記入する。

⑤ パネル面積

1 径間の全パネル面積の合計を記入する。単位は m^2 で小数点以下第3位を四捨五入し、第2位まで記入する。

(17) 総コンクリート量

上部工の総コンクリート量を記入する。単位は m^3 で小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(18) 総鋼質量

上部工の総鋼質量を記入する。単位は t で小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(19) 鋼桁継手／継手材種

主桁部材・二次部材の現場継手の材種をそれぞれコードで記入する（主桁部材は複数選択可）。

継手材種	
A	HTボルト F 8 T
B	HTボルト F 9 T
C	HTボルト F 1 0 T
D	HTボルト F 1 1 T
E	HTボルト F 1 3 T
F	TCボルト S 1 0 T
R	リベット
W	溶接
8	その他

(20) 鋼桁継手／ボルト数

主桁部材・二次部材の現場継手の本数をそれぞれ数字で記入する。

(21) 検査路等／検査路

検査路の設置数量（レーン数）を記入する。

(22) 検査路等／ケーブルラック

ケーブルラックの設置数量（レーン数）を記入する。

(23) 検査路等／併用路

併用路の設置数量（レーン数）を記入する。

(24) 上部工立地条件

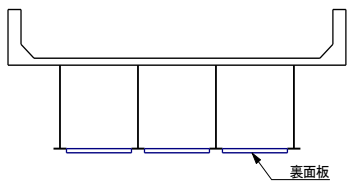
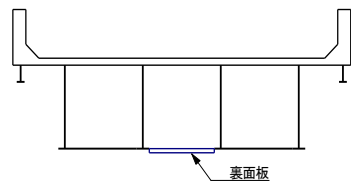
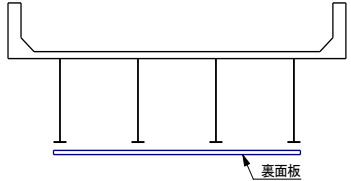
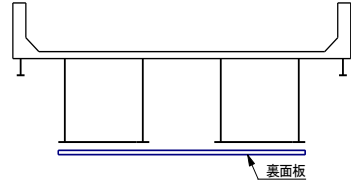
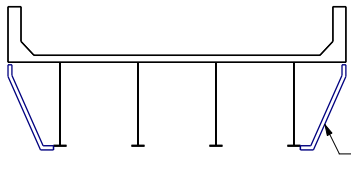
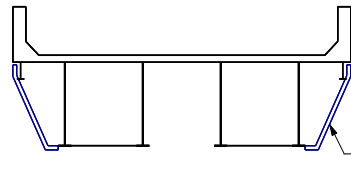
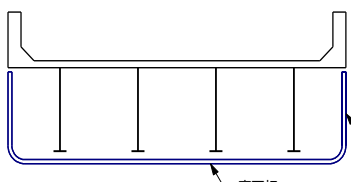
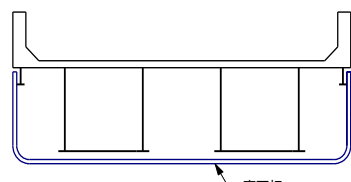
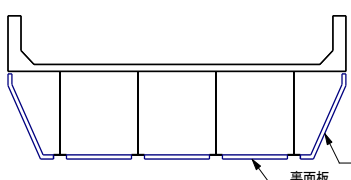
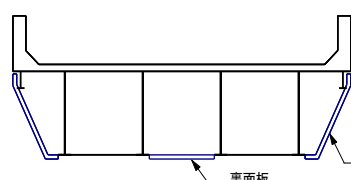
該当する径間の路下条件と上空条件をそれぞれ記入する（複数選択可）。立地条件が複数ある場合は立地条件表の上段から順に記入する。

上部工立地条件			
路下		路上	
A	鉄道	A	鉄道
B	河川	B	高速道路(他機関)
C	海上	C	高速道路(当社)
D	高速道路(他機関)	D	一般道路
E	高速道路(当社)	E	高压電線
F	一般道路	F	歩道橋
G	公園		
H	駐車場		
I	その他用地		
J	当社用地		

- (25) 震災・劣化・改築等再構築／再構築評価
震災における損傷度をコードで記入する。

再構築評価	
K	震災再構築
M	震災桁再利用
B	震災Bランク
C	震災Cランク
D	震災Dランク
E	改築に伴う再構築
F	劣化再構築
8	その他再構築

- (26) 裏面板設置しゅん工年度
裏面板の設置年度を西暦で記入する。
- (27) 裏面板種別
裏面板の種別を次ページに記載しているコードで記入する。
- (28) 側面板しゅん工年度
側面板の設置年度を西暦で記入する。
- (29) 側面板種別
側面板の種別を次ページに記載しているコードで記入する。

構造		裏面板・側面板種別	
		鋼 I 桁	鋼箱桁
A	桁面被覆構造		
B	桁下被覆構造		
C	張出被覆構造		
D	桁全体被覆構造		
E	桁面張出被覆構造		

(30) 防護ネット工しゅん工年度

防護ネット工のしゅん工年度を西暦で記入する。

(31) 防護ネット工種別

防護ネット工の種別をコードで記入する。

防護ネット工種別	
P 1	鳩・落下防止ネット (全体) 0 - 1 5)
P 2	鳩・落下防止ネット (全体) (2 5)
P 3	鳩・落下防止ネット (全体) (混在)
Q 1	鳩・落下防止ネット (部分) (1 0 - 1 5)
Q 2	鳩・落下防止ネット (部分) (2 5)
Q 3	鳩・落下防止ネット (部分) (混在)

(32) HTB対策工

HTB（F11T）対策工の種別をコードで記入する。

HTB対策工種別	
A	ボルト取替（全体）
B	防護ネット（全体）
C	ボルト取替・防護ネット（全体）
D	ボルト取替（部分）
E	防護ネット（部分）
F	ボルト取替・防護ネット（部分）

(33) PC定着部補強工補修年度

PC定着部補強工の補修年度を西暦で記入する。

(34) PC定着部補強工種別

PC定着部補強工種別をコードで記入する。

PC定着部補強工種別	
A	横桁部：鋼板・繊維シート工
B	高欄部：鋼板・繊維シート工（片側）
C	高欄部：鋼棒・繊維シート工（両側）
F	ゲルバーヒンジ部鋼板＋防護ネット
G	横桁・高欄部（片側）鋼板・繊維シート工
H	横桁・高欄部（両側）鋼板・繊維シート工

(35) 桁端切欠補強工実施種別

主桁端部の切欠有の径間を対象として補強の種別をコードで記入する。

桁端切欠補強種別	
S	起点側補強
E	終点側補強
W	両側補強
N	片側未補強
U	片側補強・片側未補強
X	両側未補強

(36) コンクリート表面保護補修年度

コンクリート表面保護工の補修年度を西暦で記入する。

(37) コンクリート表面保護種別

コンクリート表面保護工の種別をコードで記入する。

コンクリート表面保護工種別	
A 1	A種（撥水系：含浸）
A 2	A種（セメント系）
B	B種
C	C種
D	D種
F 1	F種（撥水系：含浸）
F 2	F種（撥水系：塗膜）
F 3	F種（防水系）

(38) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.3 床版テーブル

○ 一般事項

上部工 1 径間の 1 パネルごとにデータを記入するものとする。記入に際してはデータテーブル（様式 4-3_床版）を用いて以下の要領で記入する。

(1) 上部工管理番号

共通事項の要領に従い、上部工管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) ライン番号

床版パネルの橋軸方向のラインを記号で記入する。

(3) パネル番号

床版パネルの橋軸直角方向のパネル番号を数字で記入する。

(4) しゅん工年度

上部工のしゅん工年度を西暦で記入する。

(5) 床版種別

床版種別をコードで記入する。

床版種別等	
C	R C床版(合成)
U	R C床版(非合成)
CL	軽量コンクリート床版(合成)
UL	軽量コンクリート床版(非合成)
PC	P C C床版
PS	プレキャスト床版
CC	鋼・C o 合成床版(底鋼板のみ)
CI	鋼・C o 合成床版(グレーチング)
CT	鋼・C o 合成床版(トラス型ジベル)
CR	鋼・C o 合成床版(ロビンソン型)
CD	鋼・C o 合成床版(帯板ジベル)
UP	P C床版 (場所打ち)
UF	超高強度繊維補強コンクリート(U F C)床版

(6) 床版区分

床版区分をコードで記入する。

環境対策工種別	
1	左側水切部
2	右側水切部
3	桁間
4	開断面箱桁間
8	その他

(7) 床版厚

床版厚を mm 単位（四捨五入整数止め）で右詰めの数字で記入する。

(8) パネル面積

1 パネルごとに面積を記入する。単位は m^2 で少数点以下第 3 位を四捨五入し、第 2 位まで記入する。

(9) 表面補修工補修年度

表面補修工の補修年度を西暦で記入する。

(10) 表面補修工種別

表面補修工の種別をコードで記入する。

表面補修工種別	
1	補強鋼板接着
2	炭素繊維シート
3	繊維シート
4	ガラスクロス
8	その他

(11) 増厚補強工補修年度

増厚補強工の補修年度を西暦で記入する。

(12) 増厚補強工種別

増厚補強工の種別をコードで記入する。

増厚補強工種別	
1	上面S F R C増厚
2	下面モルタル吹付増厚
3	下面コンクリート増厚
8	その他

(13) 部材補強工補修年度

部材補強工の補修年度を西暦で記入する。

(14) 部材補強工種別

部材補強工の種別をコードで記入する。

増桁補強工種別	
1	縦桁補強
2	ブラケット補強
8	その他

(15) 床下施設

床下の施設をコードで記入する。

(16) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.4 下部工テーブル

○ 一般事項

下部工1基ごと（管理番号ごと）にデータを記入し、上り線、下り線に分離している場合も各々で記入するものとする。記入に際してはデータテーブル（様式4-4_下部工）を用いて次の要領で記入する。

(1) 下部工管理番号

共通事項の要領に従い、下部工管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) しゅん工年度

下部工のしゅん工年度を西暦で記入する。

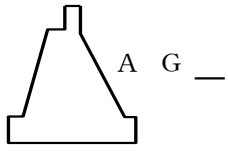
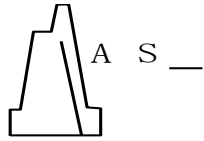
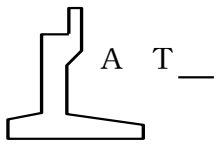

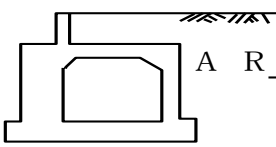
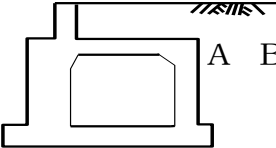

(3) 下部工構造形式／材種

下部工の材種をコードで記入する。

材種	
C	RC構造
P	PC構造（PC梁＋RC柱）
M	鋼製構造
S	SRC構造
F	複合構造（鋼製＋RC）

(4) 下部工構造形式／橋脚・橋台形状

橋脚・橋台の形状をコードで記入する。

橋脚・橋台形状			
AGW	重力式	ウイングのみ設置	
AGF	重力式	踏掛板のみ設置	
AGB	重力式	ウイング，踏掛板共設置	
AG	重力式	ウイング，踏掛板共なし	
ASW	半重力式	ウイングのみ設置	
ASF	半重力式	踏掛板のみ設置	
ASB	半重力式	ウイング，踏掛板共設置	
AS	半重力式	ウイング，踏掛板共なし	
ATW	逆T式	ウイングのみ設置	
ATF	逆T式	踏掛板のみ設置	
ATB	逆T式	ウイング，踏掛板共設置	
AT	逆T式	ウイング，踏掛板共なし	
ALW	控え壁式	ウイングのみ設置	
ALF	控え壁式	踏掛板のみ設置	
ALB	控え壁式	ウイング，踏掛板共設置	
AL	控え壁式	ウイング，踏掛板共なし	
ARW	ラーメン式	ウイングのみ設置	
ARF	ラーメン式	踏掛板のみ設置	
ARB	ラーメン式	ウイング，踏掛板共設置	
AR	ラーメン式	ウイング，踏掛板共なし	
ABW	箱式	ウイングのみ設置	
ABF	箱式	踏掛板のみ設置	
ABB	箱式	ウイング，踏掛板共設置	
AB	箱式	ウイング，踏掛板共なし	
ANW	中抜き式	ウイングのみ設置	
ANF	中抜き式	踏掛板のみ設置	
ANB	中抜き式	ウイング，踏掛板共設置	
AN	中抜き式	ウイング，踏掛板共なし	
AX	特殊橋台		

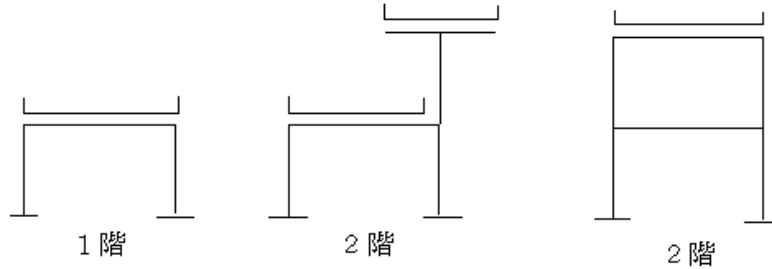
橋脚・橋台形状		
PW	壁式柱	
PS	単柱	
PRK	ラケット脚	
RP	ラーメン柱	
RPS	特殊ラーメン柱	
RG	立体ラーメン脚	
CPL	ピルツ橋の橋脚	
CDW	ディビダグ橋の橋脚	
HP	ロッカー脚	
PX	特殊橋脚	

(5) 下部工構造形式／階数

全橋脚について階数（層数）を記入する。

橋脚断面でみたはりの層で判別し、橋軸方向の中間ばりは含めない。

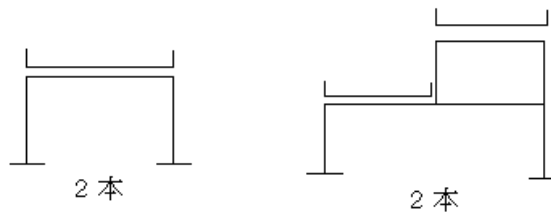
[階 数]



(6) 下部工構造形式／柱数

1階での柱本数を記入する。ただし、中間柱は含まない。

[柱 数]



(7)・(8) 下部工構造形式／立体構造／連続橋脚数・着目橋脚

全体形状が立体構造（R G）のときに記入する。

立体構造／連続橋脚数・着目橋脚（番号）

形状例	<p>p-101 p-102 p-103 p-104</p>				<p>p-201 p-202 p-203 p-204</p>			
橋脚番号	P-101	P-102	P-103	P-104	P-201	P-202	P-203	P-204
連続橋脚	4基				—	2基		—
着目橋脚番号	1	2	3	4	—	1	2	—

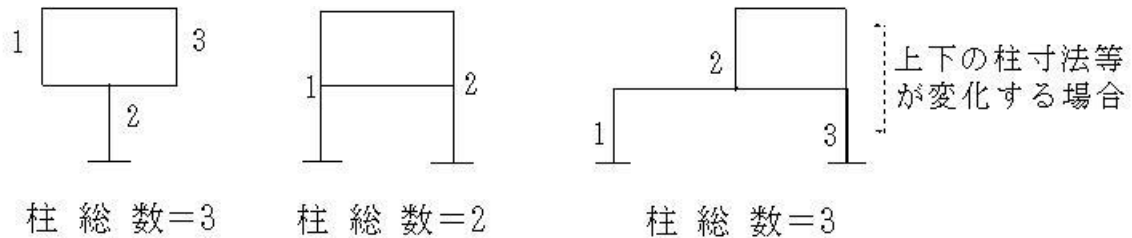
(9) 他施設区分

他施設との共存の有無をコードで記入する。

他施設区分	
1	なし
R	道路
T	鉄道
B	建物（ビル）
8	その他

(10) 柱・はり本数／柱総数

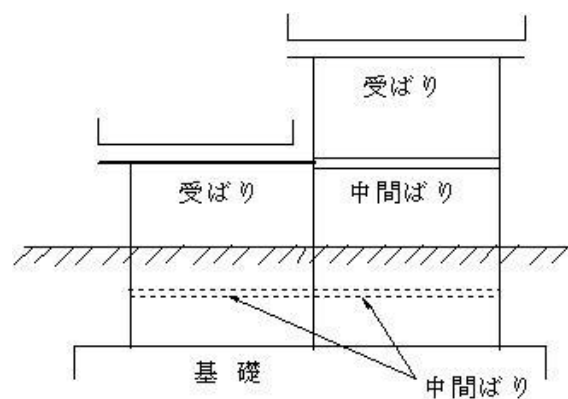
中間柱を含めた柱の総数を記入する。橋台の場合は、“1”を記入する。



(11) 柱・はり本数／はり（橋軸直角方向）／総数・受ばり・中間ばり

橋軸直角方向のはりの総数と受ばり、中間ばりの数を記入する。

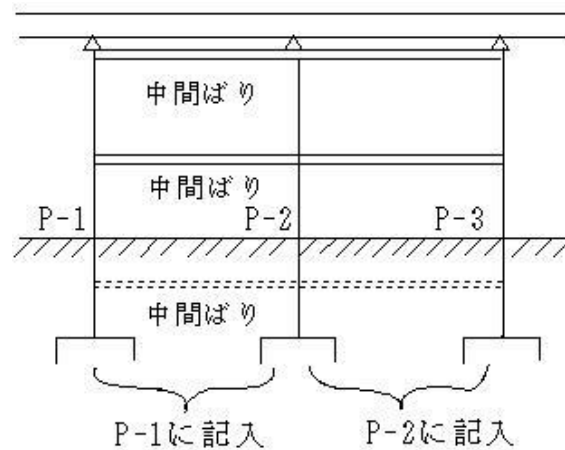
[橋直方向]



(受ばり = 2, 中間ばり = 3)

(12) 柱・はり本数／立体ばり（橋軸方向）／受ばり・中間ばり

橋軸方向の受ばり、中間ばりの数を記入する。立体ラーメン脚等の場合には、終点側にあるはり本数を記入する。



(13) 橋脚高

基礎構造（フーチング上面）から上の柱部（梁上面まで）の高さを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(14) 地盤からの高さ

地盤から橋脚天端までの最大高さを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(15) 柱／柱材種

柱の材質をコードで記入する。なお、柱が複数あり材種が異なる場合は、柱の幅（橋軸直角）が最大なものについて記入する。

柱材種	
RC	RC
LC	軽量コンクリート
PC	PC
SC	SRC
M	鋼製
88	その他

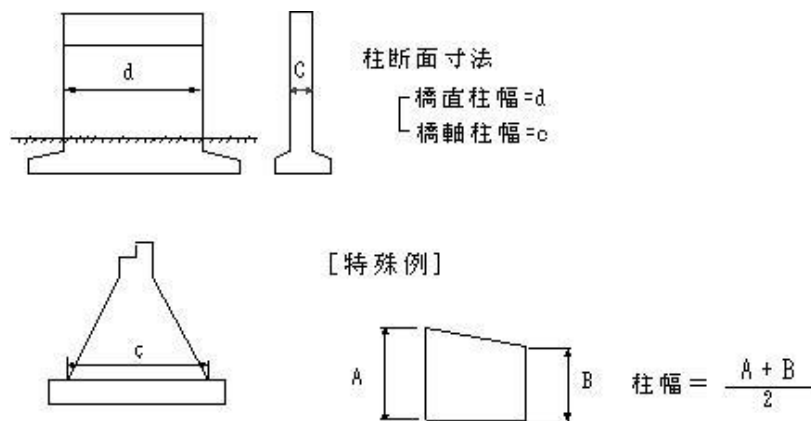
(16) 柱／柱断面形状

柱断面形状をコードで記入する。なお、台形・六角形等はその他とする。また、柱が複数あり形状が異なる場合は、柱の幅（橋軸直角）が最大なものについて記入する。

柱断面形状	
C	円形
O	小判形（楕円も含む）
S	正方形
R	長方形
8	その他

(17) 柱／柱断面寸法／直径・橋直幅，橋軸方向幅

柱直径又は橋軸直角柱幅及び橋軸柱幅を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。断面が円形の柱については柱直径のみ記入する。断面が円形以外の柱については、橋軸直角柱幅と橋軸柱幅を記入する。柱断面が上端と下端とで異なる時（円すい台、角すい台等）は、最も下端（フーチング等と柱部との付根）の数値を記入する。なお、柱が複数ある場合は、柱の幅（橋軸直角）が最大なものについて数値を記入する。



(18) 柱／柱部耐震工法

柱部耐震工法をコードで記入する。

耐震工法	
C I M	コンクリート巻立補強工法（コンクリート＋鋼板＋アンカー）
C I A	コンクリート巻立補強工法（コンクリート＋アンカー）
C M A	鋼板巻立補強工法（アンカー有）
C M M	鋼板巻立補強工法（アンカー無）
C M C	炭素繊維巻立補強工法
M C A	コンクリート充填工法（アンカーフレームの補強有）
M C O	コンクリート充填工法（アンカーフレームの補強無）
M R B	リブ補強工法

(19) はり／はり材種

はりの材種をコードで記入する。なお、はりが複数あり材種が異なる場合は、はり長が最大なものについて記入する。

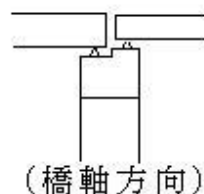
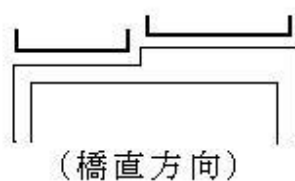
はり材種	
R C	R C
L C	軽量コンクリート
P C	P C
S C	S R C
M	鋼製
8 8	その他

(20) はり／はり面段差

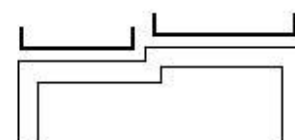
はり面段差、はり軸段差をコードで記入する。

はり面段差	
1	段差なし
F	はり面段差あり
A	はり軸段差あり
B	はり面・はり軸段差あり

[梁面段差]



[梁軸段差]



(21) はり／はり寸法／最大はり高・はり幅・はり長

最大はり高・はり幅・はり長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。なお、はりが複数ある場合は、はり長が最大なものについて数値を記入する。

(22) はり耐震工法

はり部耐震工法をコードで記入する。

耐震工法	
CMA	鋼板巻立補強工法（アンカー有）
CMM	鋼板巻立補強工法（アンカー無）
CMC	炭素繊維巻立補強工法
MRB	リブ補強工法

(23) 美装化

美装化の種別をコードで記入する。

種別	
1	なし
R	デザイン塗装
H	吹付
I	貼付（タイル等）
K	化粧板
8	その他

(24) 総コンクリート量

下部工（コンクリート橋脚）の総コンクリート量を記入する。単位はm³で小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(25) 総鋼質量

下部工（鋼製橋脚）の総鋼質量を記入する。単位はtで小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(26) 鋼製橋脚継手／継手材種

継手材種をコードで記入する。

継手材種	
F 8 T	HTボルト F 8 T
F 9 T	HTボルト F 9 T
F 1 0 T	HTボルト F 1 0 T
F 1 1 T	HTボルト F 1 1 T
F 1 3 T	HTボルト F 1 3 T
S 1 0 T	TCボルト
R	リベット
W	溶接
8 8 8	その他

(27) 鋼製橋脚継手／ボルト本数

鋼製橋脚の場合に現場継手のボルト全本数を記入する。

(28) 連絡通路／設置種別

連絡通路の設置種別をコードで記入する。

設置種別	
1	なし
2	あり

(29) 連絡通路／梯子等設置種別／柱部・桁部

柱部及び桁部における梯子等設置種別をコードで記入する。

梯子等設置種別	
1	なし
I	梯子
S	階段
8	その他

(30) 下部工立地条件

該当する下部工の路下条件をコードで記入する。ただし、立地条件が複数ある場合は優先順位として、立地条件が複数ある場合は立地条件表の上段から順に記入する。

下部工立地条件	
A	鉄道
B	河川

C	海上
D	高速道路(他機関)
E	高速道路(当社)
F	一般道路
G	公園
H	駐車場
I	その他用地
J	当社用地

(31) しゅん工年度

基礎工のしゅん工年度を西暦で記入する。

1つの基礎で複数の橋脚を支持している場合（本線とランプ等）は、本線の橋脚にこの後の基礎のデータを記入し、ランプの橋脚についてはデータを記入せず、備考欄にその本線の管理番号と基礎一体と記入する。なお、この場合で、本線が上下に分かれている時は下りを優先とする。

(32) 基礎数

基礎の数を記入する。ラーメン柱等でフーチングが独立して複数ある場合は、その数を記入する。単柱で1つしかない場合でも“1”と記入する。なお、複数とした場合、この後の項目については代表として、寸法の大きい基礎について記入する。ただし、杭の本数については合計の数を記入する。

(33) 基礎構造／基礎区分

基礎区分をコードで記入する。

基礎区分	
1	なし
P L	杭基礎
S P	矢板式基礎
C S	ケーソン基礎
W L	井筒基礎
S R	直接基礎
C W	連続地中壁基礎
8 8	その他

(34) 基礎構造／基礎工法

基礎工法をコードで記入する。

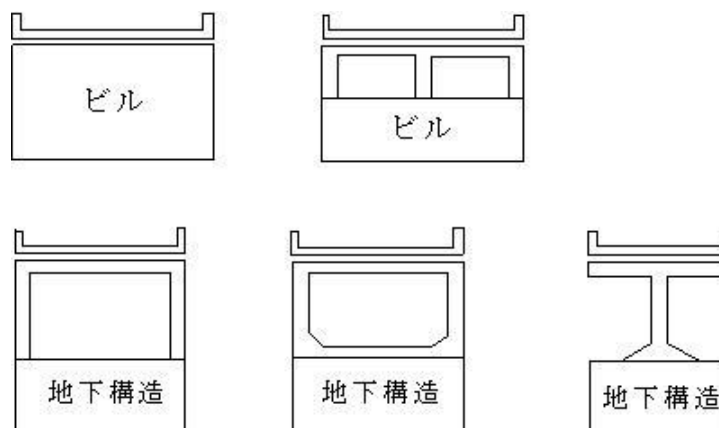
基礎工法	
R P	既製杭 (杭基礎)
B N	ベノト (杭基礎)
R V	リバース (杭基礎)
C P	深礎 (杭基礎)
E A	アースオーガ (杭基礎)
H Y	H Y S C (杭基礎)
O P	オープンケーソン (ケーソン・井筒)
P N	ニューマチックケーソン (ケーソン・井筒)
8 8	その他

(35) 他構造／基礎形態

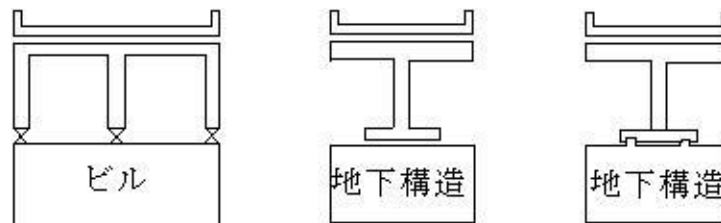
他構造への上載関係をコードで記入する。

他構造への上載関係	
1	なし
C	他構造と一体
U	他構造と上載
8	その他

- ・他構造と一体：基礎構造が他構造物と構造的に一体となっている場合



- ・他構造に上載：基礎構造が他構造物と構造的に独立している場合
(直接上載又は支承により支持)



(36) 他構造／基礎兼用

基礎兼用区分をコードで記入する。

他構造区分	
B	ビル
U	地下構造
8	その他

(37) 連続構造等

フーチング区分をコードで記入する。

フーチング区分	
1	なし
I	独立フーチング
C	連続・連結フーチング

独立フーチングは、フーチング形状を問わず1つの柱等を支持するフーチングとし、連続・連結フーチングは2つ以上の柱を受けるフーチングとする。

(38) 基礎平面形状

基礎平面形状をコードで記入する。

基礎平面形状	
C	円
O	小判形
S	正方形
R	長方形
8	その他

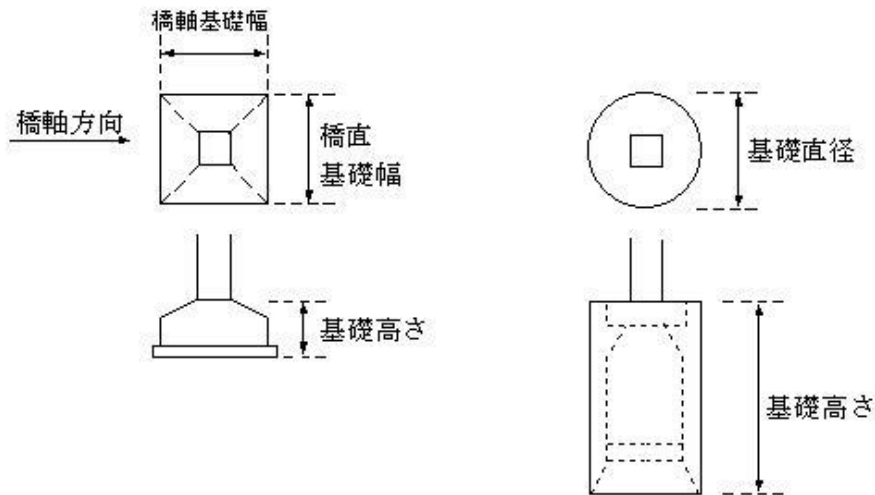
- (39) 基礎寸法／直径、橋軸直角方向基礎幅・橋軸方向基礎幅・基礎高さ基礎直径又は橋軸直角方向基礎幅を数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

橋軸方向基礎幅を数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

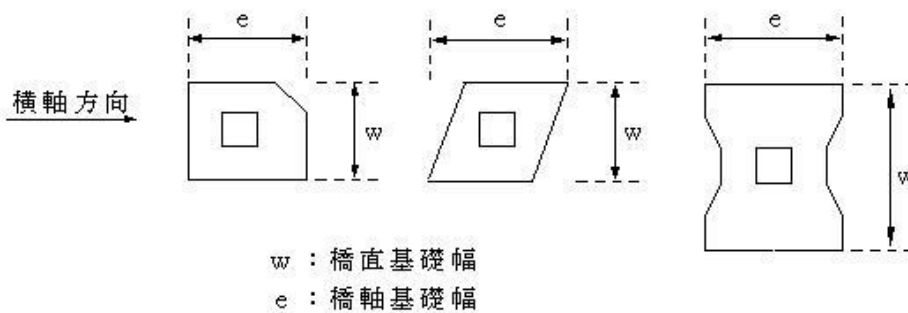
基礎高さを数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

[抗基礎／直接基礎]

[ケーソン基礎／矢板式基礎]



・特殊形状のフーチングは、最大値を記入する。



(40) 土被り

地表より基礎天端までの高さを数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。構造物が水中の場合には、計画洪水高より基礎天端までの高さを数字で記入する。

(41) フーチング等材種

フーチングなど材種をコードで記入する。

フーチング等材種	
R C	R C
L C	軽量コンクリート
P C	P C
S C	S R C
M	鋼製
8 8	その他

(42) 総コンクリート量

フーチング（ケーソン）の総コンクリート量を記入する。単位は m^3 で小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(43) 総鋼質量

基礎工（鋼製）の総鋼質量を記入する。単位は t で小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(44) 杭／杭材種

杭材種をコードで記入する。

杭材種	
R C	R C 杭
P C	P C 杭
S C	S R C 杭
H S	H 鋼杭
P S	鋼管杭
F S	中埋鋼管杭
C S	ケーソン
W L	井筒
8 8	その他

(45) 杭／杭本数

杭本数を数字で記入する。

(46) 杭／杭寸法／杭径

杭径を数字で記入する。単位は mm で小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。なお、寸法の違う杭がある場合は、本数の多い杭の寸法

を記入する。

(注) H鋼杭の場合は、最大寸法を記入する。

(47) 杭／杭寸法／杭長

杭長を数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。なお、寸法の違う杭がある場合は、本数の多い杭の寸法を記入する。

(48) 地盤改良工法

地盤改良工法をコードで記入する。

工法	
KKJ	コラムジェットグラウト工法
KCG	薬液注入工法
KGM	注入工法

(49) 震災・劣化・改築等再構築／再構築評価

震災における損傷度をコードで記入する。

再構築評価	
W	震災再構築（はり＋柱）
S	震災再構築（はり）
B	震災Bランク
C	震災Cランク
D	震災Dランク
E	改築に伴う再構築
F	劣化再構築
8	その他再構築

(50) HTB対策工

HTB（F11T）対策工の種別をコードで記入する。

HTB対策工種別	
A	ボルト取替（完全）
B	防護ネット（完全）
C	ボルト取替・防護ネット（完全）
D	ボルト取替（部分）
E	防護ネット（第三者影響完全）
F	防護ネット（部分）
G	ボルト取替・防護ネット（第三者影響完全）
H	ボルト取替・防護ネット（部分）

(51) PCはり防護工補修年度

PCはり防護工の補修年度を西暦で記入する。

(52) PCはり防護板設置種別

PCはり防護板の設置種別をコードで記入する。

PCはり防護板設置種	
1	未設置
A	定着部（劣化部のみ）
B	定着部（第三者影響のみ）
C	定着部（完全）

(53) コンクリート表面保護工補修年度

コンクリート表面保護工の補修年度を西暦で記入する。

(54) コンクリート表面保護種別

コンクリート表面保護工の種別をコードで記入する。

コンクリート表面保護工種別	
A 1	A種（撥水系：含浸）
A 2	A種（セメント系）
B	B種
C	C種
D	D種
F 1	F種（撥水系：含浸）
F 2	F種（撥水系：塗膜）
F 3	F種（防水系）

(55) 防食板設置有無

鋼製橋脚の防食板設置有無をコードで記入する。

防食板設置有無	
1	なし
2	あり

(56) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.5 道路土工テーブル

○ 一般事項

道路土工1区間ごと（管理番号ごと）にデータを記入し、上り線、下り線に分離している場合も各々で記入するものとする。記入に際してはデータテーブル（様式4-5_道路土工）を用いて次の要領で記入する。

(1) 土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、土工区間管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) しゅん工年度

道路土工のしゅん工年度を西暦で記入する。

(3) 土工構成等／道路中心／切盛区分

道路中心での切盛区分をコードで記入する。

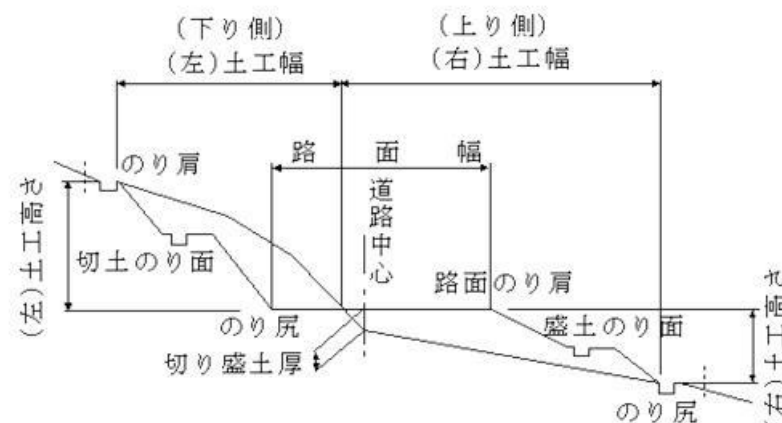
切盛区分	
1	平面
B	盛土
C	切土
8	その他

(4) 土工構成等／道路中心／切盛厚さ

道路中心での切・盛土厚さを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(5) 土工構成等／路面幅

路面幅を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。



- (6) 土工構成等／下り線側（左側）・上り線側（右側）／切盛区分
土工部の左・右側の切盛区分（土工形状）をコードで記入する。

切盛区分	
1	平面
B	盛土
C	切土
8	その他

- (7) 土の種別／土・岩の分類
土区分をコードで記入する。

土の分類		土質分類	土の種類
S 1	土砂Ⅰ	普通土	砂質土
S 2	土砂Ⅱ	粘性土	粘性土、礫まじり粘性土
S 3	土砂Ⅲ	砂	砂、礫まじりの砂
S 4	土砂Ⅳ	礫質土	礫、礫質土
S 5	土砂Ⅴ	固結土砂	固結した洪積礫質土（マサ土）
S 6	土砂Ⅵ	硬質粘土	N値30以上の洪積粘土（土丹）
S 7	土砂Ⅶ	岩塊、玉石まじり土砂	岩塊・玉石まじりの砂質土
			岩塊・玉石まじりの粘性土
S 8	土砂Ⅷ	岩塊、玉石	岩塊・玉石
88	その他		

岩の分類		岩質分類	代表的 岩の種類	岩質の程度	弾性波伝播 速度 (km/ sec) (参考)
R 1	岩Ⅰ	軟石	砂岩 凝灰岩 風化花崗岩 風化礫岩	風化が進み、変色を伴い亀裂が発達し、ハンマーで叩いて目に沿って容易にわれるもの。	2.0 程度 以下
R 2	岩Ⅱ	中硬岩	砂岩 礫岩 安山岩 粘板岩 凝灰岩	風化のあまり進んでいないもの（亀裂間隔30～50cm程度のもの） 大ハンマーで数回叩いて辛うじて割れる程度のもの。	2.0～3.0 程度
R 3	岩Ⅲ	硬岩	花崗岩 閃緑岩 安山岩 砂岩	亀裂がまったくないか、少ないもの、密着の良いもの。大ハンマーで数回叩いても辛うじて割れるか又ははね返って容易に割れないもの。	3.5 程度 以上
8 8	その他				

(8) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.6 のり面・擁壁テーブル

○ 一般事項

のり面ごと（管理番号ごと）の段ごとにデータを記入し、上り線、下り線に分離している場合も各々で記入するものとする。記入に際してはデータテーブル（様式 4-6_のり面・擁壁）を用いて次の要領で記入する。

(1) のり面番号

共通事項の要領に従い、のり面番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) のり面補助番号

管理番号に複数ののり面がある場合、これを識別するためにキロポストの小数第 2 位を補助番号とする。1 区間（管理番号）にのり面が 1 箇所しかない場合も必ず付与し、右詰めの数字で記入する。

(3) 位置／上下区分

上下線一体区間の場合、上下線分離区間の場合ともにコードを記入する。またランプ・及び渡り線についても、その帰属する下り線又は上り線を記入する。

上下区分	
D	下り線側
U	上り線側

(4) 位置／位置区分

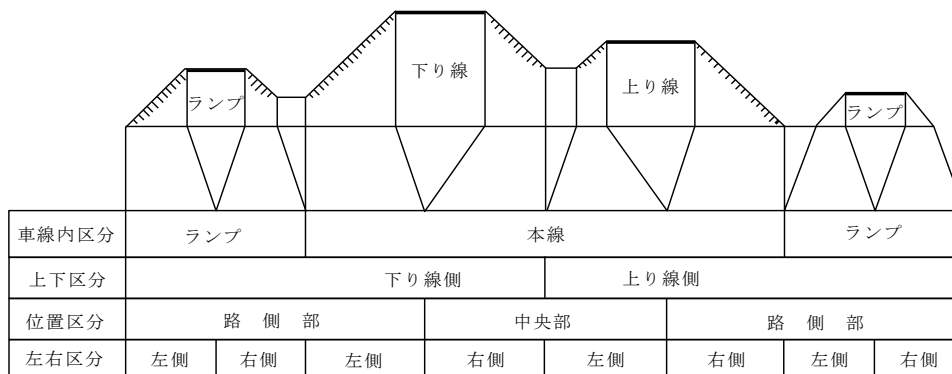
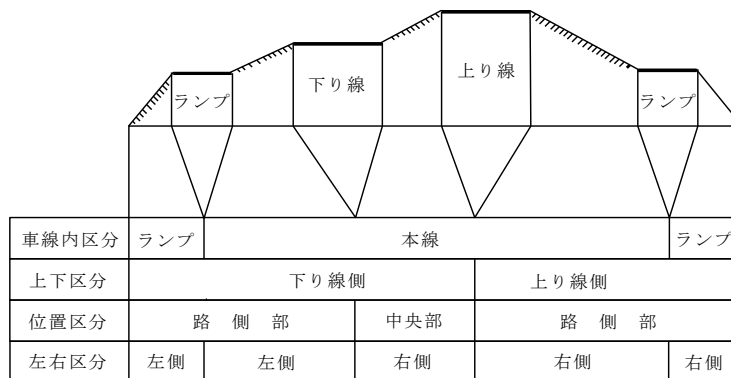
位置区分をコードで記入する。

位置区分	
G	高架下
S	路側部
T	トンネル上
C	中央部
8	その他

(5) 位置／左右区分

左側・右側の区分をコードで記入する。ただし、左右区分が不明確な場合は記入しない。

左右区分	
L	左側
R	右側



(6) 段番号

道路面（下側）からの段 1, 2, ……9 を記入する。

(7) しゅん工年度

のり面保護工のしゅん工年度を西暦で記入する。

(8) 切盛区分

のり面の切盛区分をコードで記入する。

切盛区分	
B	盛土
C	切土
8	その他

(9) のり面保護工／種別(1)・種別(2)

のり面保護工の種別をコードで記入する。1のり面で2種類まで記入する。

種別			
V 1 1	種散布工	MW 1	メーソンリーコンクリートブロック積工(標準形)
V 2 1	種吹付工A	MW 2	メーソンリーコンクリートブロック積工(スプリットン)
V 2 2	種吹付工B	MW 3	メーソンリー石積工
V 2 3	種吹付工C	MS 1	メーソンリーコンクリートブロック張工(標準形)
V 2 4	溝切基礎種吹付工	MS 2	メーソンリーコンクリートブロック張工(スプリットン)
V 2 5	厚層基礎吹付工	MS 3	メーソンリー石張工
V 3 1	植生穴工	MK 1	メーソンリー蛇かご
V 3 2	植生筋工	MK 2	メーソンリーふとんかご
V 4 1	筋芝工	WGS	重力式擁壁
V 4 2	張芝工	WMS	もたれ式擁壁
V 5 1	植生袋工	WTS	逆T型擁壁(直接基礎)
V 5 2	植生マット	WTP	逆T型擁壁(杭基礎)
V 5 3	植生盤工	WLS	逆L型擁壁(直接基礎)
V 8 8	その他植生工	WLP	逆L型擁壁(杭基礎)
SC 1	特殊のり面 現場打コンクリート 枠工(植栽)	WRS	控え壁式擁壁
SC 2	特殊のり面 現場打コンクリート 枠工(モルタル)	WUS	U型擁壁(直接基礎)
SB 1	特殊のり面 コンクリートブロッ ク枠工(植栽)	WUP	U型擁壁(杭基礎)
SB 2	特殊のり面 コンクリートブロッ ク枠工(栗石)	WWC	井げた組擁壁
SP 1	特殊のり面 プラスチック枠工 (植栽)	BWM	帯鋼補強土擁壁
SP 2	特殊のり面 プラスチック枠工 (栗石)	BWU	アンカー補強土壁
SBC	特殊のり面 コンクリート吹付工	BWG	ジオテキスタイル補強土壁
SBM	特殊のり面 モルタル吹付工	W88	その他擁壁
SSC	特殊のり面 コンクリート張工	C88	その他構造物工

S P F	特殊のり面 落石防止柵工		
S P N	特殊のり面 落石防止網工		
S K F	特殊のり面 編柵工		

(10) のり面保護工／のり面補強

のり面補強をコードで記入する。

のり面補強	
C	深礎
P	既製杭
E	アースアンカー
R	ロックアンカー
8	その他

(11) のり面寸法／高さ

のり面保護工の高さで最も高い部分を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。構造物工は地盤からの高さとする。

(12) のり面寸法／延長

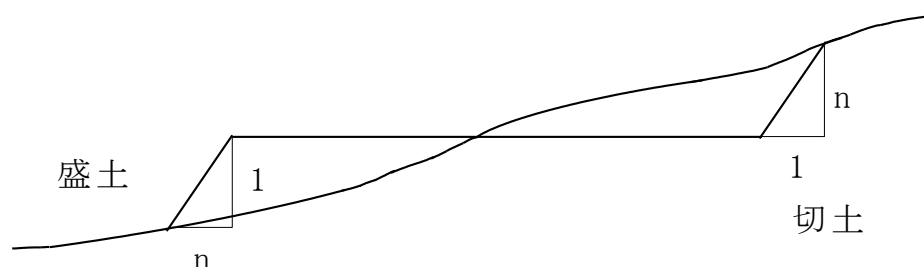
のり面保護工の延長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(13) のり面寸法／面積

のり面保護工の面積を記入する。単位は m^2 で小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

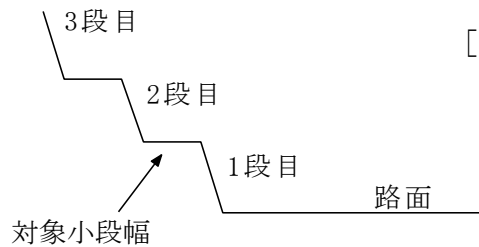
(14) のり面寸法／勾配

のり面保護工の勾配（下面の n の数値）を記入する。小数点以下2第位を四捨五入し、1位止めとする。



(15) 小段幅

該当する段と次の段との間にある小段の幅を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。



[例] 現在着目段：1段

1段目と2段目の間
の小段幅を記入する。

(16) のり面点検昇降施設／有無
のり面点検昇降施設の有無をコードで記入する。

点検昇降施設	
1	なし
2	あり

(17) のり面点検昇降施設／延長

のり面点検昇降施設の延長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(18) 崩壊／形態

建設中又はしゅん工後に、のり面の崩壊があった場合は、その形態をコードで記入する。

崩壊形態	
1	なし
E	浸食・崩落
S	表層崩壊
L	大規模崩壊・地すべり
8	その他

(19) 崩壊／西暦年・月

のり面の崩壊があった場合は、その年月を西暦年・月で記入する。

(20) 崩壊／対策工

のり面の崩壊があった場合は、その対策工を12字以内で記入する。

(21) 備考

特記事項等について、テキスト全角50文字以内で記入する。

4.7 トンネルテーブル

○ 一般事項

トンネルの施工ブロック（坑門と覆工も区別）ごとにデータを記入する。

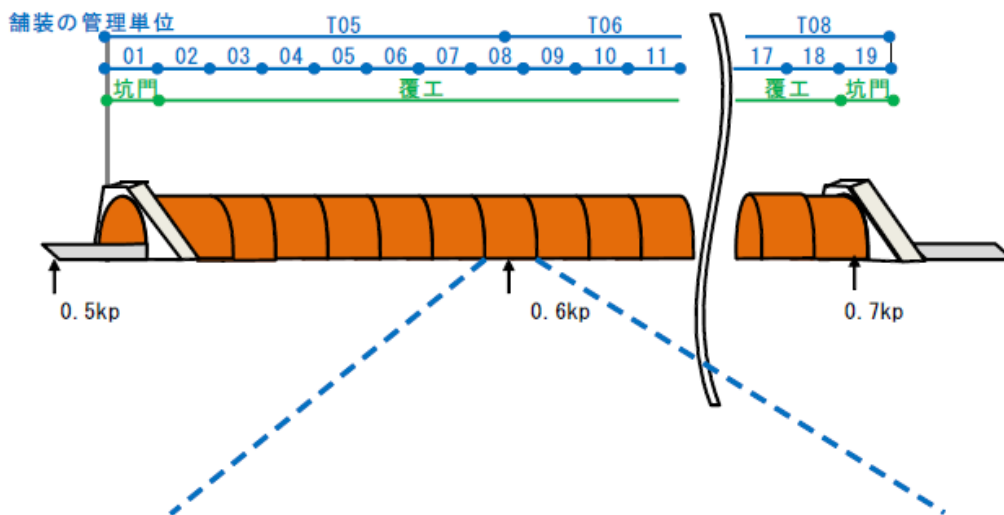
なお、万条のカルバートのように本線上にあるカルバートはこのテーブルに記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 4-7_トンネル）を用いて次の要領で記入する。

(1) トンネル番号／トンネル番号

共通事項の要領に従い、トンネル番号を記入する。

(2) トンネル補助番号

トンネル入口（起点側）の坑門、覆工の施工ブロックごと、トンネル出口（終点側）の坑門まで通し番号を付与する。



項目	データ内容
【表示管理番号】	表示する管理番号
構造物区画名称	構造物名称など
管理番号	路線区の番号(数値)
管理番号枝番	管理番号の細分化
補助番号	部材、セメント区間ごとに付与
竣工年度	
トンネル工法	NAIM(掘削)、(焼成)、花巻、併用
区分	坑門、覆工、シェルター、明かり箱、避難所
地山等級(設計バターン)	A、B、C、D
支保パターン	
掘削方式	上下両面、交互掘削、補助ベンチ付全断面
地質	
弾性係数(kN/m ²)	文字列でよい
掘削工法	AGP、FIT、薬液注入、おぼろ注入
形状形式	坑門形式、覆工断面形状
TOL厚(m)	厚さ
SL厚(m)	種
有効厚(m)	有効厚
運路幅員(m)	運路幅員
延長(m)	区間延長
St.No	例 (No. 65+90.000)
覆工厚(mm)	
吹付厚(mm)	
インバート厚(mm)	
インバート吹付厚(mm)	
土留り(m)	最小土留り
防水工(底盤)	底盤の防水材の種類
防水工(側壁)	側壁の防水材の種類
防水工(上床)	上床の防水材の種類
戸地種類	戸地の種類
鉄筋の有無	有無
左側化管板種別	左側化管板の種類
左側化管板厚(m)	左側化管板の厚さ
右側化管板種別	右側化管板の種類
右側化管板厚(m)	右側化管板の厚さ
天井板種別	天井板の種類
監視員通路位置	監視員通路位置
換気設備有無	換気設備名
避難トンネル有無	避難トンネルの有無
非常経路有無	有無
備考	

- (3) しゅん工年度
トンネル工事のしゅん工年度を西暦で記入する。
- (4) トンネル工法
トンネルの工法をコードで記入する。

施工方法	
B	併用工法（在来・NATM）
C	在来工法
N	NATM工法
O	開削工法
S	シールド工法
8	その他

- (5) 区分
構造の区分をコードで記入する。

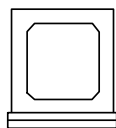
区分	
G	坑門
C	覆工
R	明り巻き
S	シェルター
D	避難坑
8	その他

- (6) 地山等級
地山等級を記入する。
- (7) 支保パターン
支保パターンを記入する。
- (8) 掘削方式
掘削方式を記入する。
- (9) 地質
地質を記入する。
- (10) 弾性波速度
弾性波速度（km/s）を記入する。
- (11) 補助工法
補助工法を記入する。
- (12) 型式形状

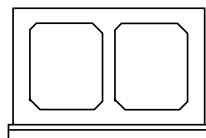
坑門型式及び覆工断面の形状をコードで記入する。

坑門型式	
A	重力壁重力式
B	重力壁半重力式
C	両壁型ウィング式
D	両壁型アーチウィング式
E	半突出型パラペット式
F	突出型突出式
G	突出型竹割式
G	突出型逆竹割式
G	突出型ベルマウス式
H	突出型逆ベルマウス式

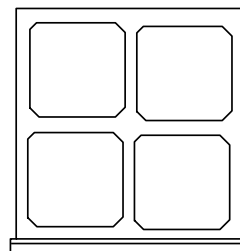
形状区分（山岳）		形状区分（開削トンネル）	
TC	円形	R 1	1層 1径間
TH	馬蹄形	R 2	1層 2径間
T 8	その他	R 3	1層 3径間
		R 4	2層 1径間
		R 5	2層 2径間
		R 6	2層 3径間
		R 7	2層 4径間
		R 8	その他



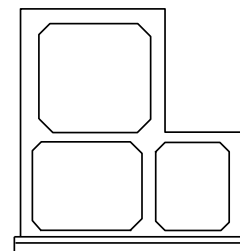
1層 1径間



1層 2径間



2層 2径間



(13) 形状・寸法／断面形状／TC・L高さ

山岳トンネル中心における内空断面高さを記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(14) 形状・寸法／断面形状／S L幅

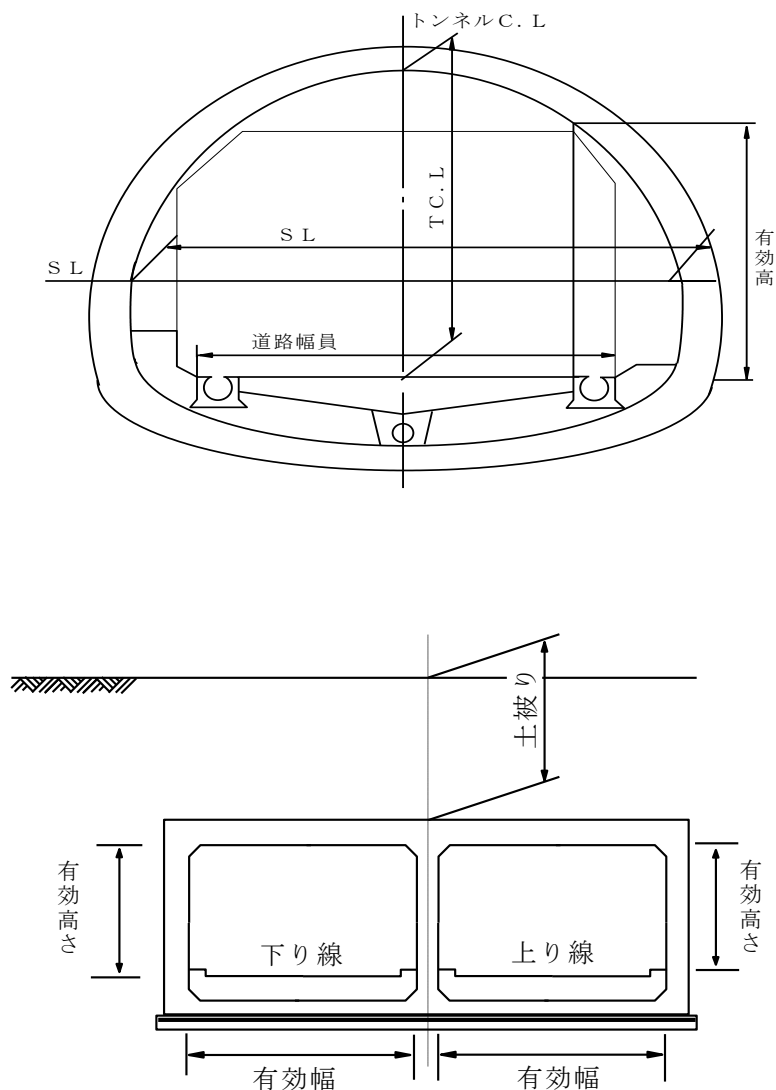
山岳トンネルのスプリングライン（S L）における内空断面幅を、を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(15) 形状・寸法／断面形状／有効高

道路中心線上における建築限界の有効高さを記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(16) 形状・寸法／断面形状／道路幅員

道路の有効幅員を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。



(17) 形状・寸法／延長

トンネルあるいはカルバートの延長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(18) 形状・寸法／土被り

平均土被りを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(19) 防水工

防水材の種別を底盤・側壁・上床のそれぞれについてコードで記入する。

防水材	
M	モルタル防水
C	シート防水（合成ゴム系）
G	シート防水（ゴムアスファルト系）
S	塗布防水
A	アスファルト防水
N	ナトリウムベントナイト防水
8	その他

(20) 目地タイプ

開削トンネルの目地タイプをコードで記入する。

目地タイプ	
U	施工目地
E	構造継手
8	その他

施工目地……………塩ビ止水板、水膨張性止水板．．．

構造継手……………センターバルブ型止水板、伸縮可撓性ゴム止水板、
可撓性ジョイント．．．

(21) 化粧板／種別

起点側から終点側に向かって左側、右側別に化粧板の種別をコードで記入する。

種別	
1	なし
A	石綿スレートフレキシブル板
C	石綿セメント珪散カルシウム板
E	ホーロー
S	吸音板
T	タイル板
8	その他

(22) 化粧板／高さ

起点側から終点側に向かって左側、右側別に化粧板の高さを記入する。
単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(23) 天井板／種別

天井板の種別をコードで記入する。

種別	
1	なし
A	アルミニウム合金板
D	デッキプレート
L	軽量気泡コンクリート板
R	強化プラスチックプレート板
8	その他

(24) 監視員通路／位置

監視員通路の位置をコードで記入する。

位置	
1	なし
B	両側
L	左側
R	右側

(25) 換気設備有無／換気方式

換気方式をコードで記入する。

換気方式	
A	自然換気
B	縦流換気（ジェットファン）
C	縦流換気（集中排気）
D	縦流換気（集中送排気）
E	半横流換気（送気半横流）
F	横流換気
G	組合せ換気
8	その他

組合せ換気とは、A～Fを2種類以上組合せた換気方式。

(26) 避難トンネル／有無

避難用トンネルの有無をコードで記入する。

避難用トンネル	
1	なし
2	あり

(27) 避難トンネル／延長

避難用トンネルの延長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(28) 非常駐車帯／有無

トンネル内の非常駐車帯の有無を記入する。

非常駐車帯	
1	なし
2	あり

(29) 備考

特記事項等についてテキスト全角50文字以内で記入する。

4.8 カルバートテーブル

○ 一般事項

カルバートの継手区間ごとにデータを記入する。

記入に際してはデータテーブル（様式 4-8_カルバート）を用いて次の要領で記入する。

(1) トンネル区間・土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、トンネル区間番号又は土工区間管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 補助番号

カルバートの継手区間ごとに通し番号を付与する。

(3) しゅん工年度

カルバートのしゅん工年度を西暦で記入する。

(4) カルバート利用・設置条件／利用区分

カルバートの利用区分をコードで記入する。

利用条件	
H	阪神高速道路（本線）
R	阪神高速道路（ランプ他）
K	管理用通路
T	高速道路（他機関）
P	一般道路（車道）
S	一般道路（歩道専用）
W	水路
U	共同溝
8	その他

(5) カルバート利用・設置条件／管理者

カルバートの管理者をコードで記入する。

管理者	
H	阪神高速道路株式会社
P	兵庫県
J	国土交通省
C	神戸市
N	西日本高速道路株式会社
8	その他

(6) カルバート利用・設置条件／地上条件

カルバートの地上条件をコードで記入する。

地上条件	
P	一般道路
T	高速道路（他機関）
H	高速道路
B	盛土
8	その他

(7) カルバート構造・寸法／構造型式

カルバートの構造型式をコードで記入する。

構造型式	
CB	場所打ちボックスカルバート
PB	プレキャストボックスカルバート
CG	場所打ち門形カルバート
PG	プレキャスト門型カルバート
CA	場所打ちアーチカルバート
PA	プレキャストアーチカルバート
88	その他

(8) カルバート構造・寸法／基礎型式

カルバートの基礎型式をコードで記入する。

基礎型式	
R	直接基礎
S	置換え基礎
C	置換えコンクリート
P	杭基礎
8	その他

(9) カルバート構造・寸法／地盤改良

カルバートの地盤改良をコードで記入する。

地盤改良	
A	プレロード工法
B	置換え工法
C	圧密促進工法
D	深層混合処理工法
E	その他

(10) カルバート構造・寸法／枕梁有無

カルバートの枕梁の有無をコードで記入する。

枕梁有無	
1	なし
S	起点にあり
E	終点にあり
W	起終点にあり

(11) カルバート形状・寸法／延長・高さ・幅

カルバートの延長、高さ及び幅を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(12) カルバート形状・寸法／内空断面／有効高・有効幅

カルバートの内空断面の有効高と有効幅を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(13) カルバート形状・寸法／頂板厚・側壁厚・底版厚

カルバートの頂板厚、側壁厚及び底版厚幅を記入する。単位はmmで整数止めとする。

(14) カルバート形状・寸法／土被り

カルバートの土被りを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(15) 継手構造／頂板・側壁・底版

カルバートの継手構造を頂板、側壁及び底版の継手構造をコードで記入する。

継手構造	
A	I型
B	II-A型
C	II-B型
D	III型
E	その他

(16) 翼壁／幅・高さ

カルバートの翼壁の幅と高さを記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(17) 翼壁／厚さ

カルバートの厚さを記入する。単位はmmで整数止めとする。

(18) 翼壁／装飾種別

カルバートの装飾種別をコードで記入する。

装飾種別	
A	翼壁煉瓦
B	コンクリート塗装
C	落書き防止塗装
D	化粧板
E	その他

(19) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.9 高欄・防護柵テーブル

○ 一般事項

上部工 1 径間の左側、右側、中央分離帯ごと（管理番号ごと）及び土工 1 区間の左側、右側、中央分離帯ごと（管理番号ごと）に高欄・防護柵及び中央分離帯のデータを記入する。左側、右側は管理番号の起点側から見た方向を示す。ランプ・渡り線についても同様とする。なお、分岐・合流帯部についてはデータ管理を行わない。記入に際してはデータテーブル（様式 4-9_高欄・防護柵）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工／土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、上部工管理番号又は土工区間管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 位置／位置区分

位置の区分をコードで記入する。

位置区分	
L	左側
R	右側
C	中央分離帯

(3) 位置／位置番号

1 径間の中で構造に変化があった場合、数字で連番を付与する。なお、変化がない場合でも 1 を記入する。

(4) 高欄・防護柵・中央分離帯／しゅん工年度

高欄・防護柵のしゅん工年度を西暦で記入する。

- (5) 高欄・防護柵・中央分離帯／設置種別
高欄・防護柵の種別をコードで記入する。

設置種別	
1	なし
R T	R C壁式（細型）
R C	R C壁式
L C	軽量コンクリート壁式
P K	プレキャストブロック
P P	プレキャストブロック（P C鋼棒接合）
M W	鋼製壁式
H P	パイプ高欄
G A	ガードレール（支柱溶接タイプ）
G B	カードレール（アンカーあり）
G D	ガードレール（支柱コンクリート埋込式）
G E	ガードレール（支柱土中埋込式）
G R	ガードレール（その他）
G L	ガードケーブル
H 8	その他高欄
88	その他

- (6) 高欄・防護柵・中央分離帯／延長
高欄・防護柵の実延長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。
- (7) 高欄・防護柵・中央分離帯／高さ
高欄・防護柵の高さを記入する。単位はmで小数点以下第3位を四捨五入し、2位止めとする。高さは、路面（舗装上面）から天端までとする。

(8) 高欄・防護柵／付属施設／地覆形状

地覆形状をコードで記入する。

地覆形状	
1	なし
B	Bタイプ
S	Sタイプ
N	三角ブロックタイプ
R	三角ブロック改良タイプ
8	その他

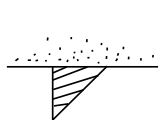
(9) 高欄・防護柵／付属施設／水切形状

鉄筋コンクリート床版片持部下面の水切形状をコードで記入する。

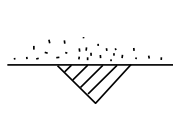
水切形状	
1	なし
C	切欠き
P	プラスチック面木
A	山形鋼
S	山形鋼+面木
8	その他



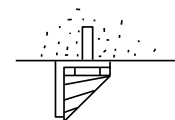
切欠き



プラスチック面木



山形鋼

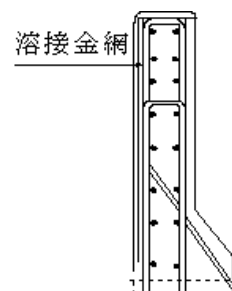
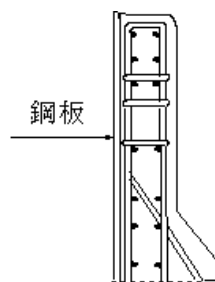


山形鋼+面木

(10) 高欄・防護柵・中央分離帯／付属施設／飛散防止

壁高欄のコンクリート飛散防止をコードで記入する。

飛散防止	
1	なし
M	鋼板タイプ
W	溶接金網タイプ
8	その他



- (11) 高欄・防護柵・中央分離帯／附属施設／ハンドレール
ハンドレールの有無をコードで記入する。

ハンドレール	
1	なし
2	あり

- (12) 高欄・防護柵・中央分離帯／開口部
中央分離帯の開口部の有無をコードで記入する。

開口部	
1	なし
2	あり

- (13) 植樹施設
植樹施設の有無をコードで記入する。

開口部	
1	なし
2	あり

- (14) 備考
特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

4.10 非常口テーブル

○ 一般事項

非常口 1 基ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 4-10_非常口）を用いて次の要領で記入する。

- (1) 下部工管理番号
共通事項の要領に従い、下部工管理番号を記入する。
- (2) 設置形式／両面式・片面式
両面式・片面式区分をコードで記入する。

両面・片面式	
B	両面式
O	片面式

- (3) しゅん工年度
非常口のしゅん工年度を西暦で記入する。

(4) 設置形式／昇降形式／桁部・柱部

桁部及び柱部の昇降形式をそれぞれコードで記入する。

桁部・柱部昇降型式	
L	梯子
S P	ラセン階段
S T	直階段
88	その他

(5) 設置形式／基礎形式

基礎形式をコードで記入する。

基礎型式	
1	なし
P L	杭基礎
S F	直接基礎
U F	直接基礎（フーチング上載）
8 8	その他

(6) 設置地点／高欄切欠き

非常口入り口部の高欄切欠きの有無をコードで記入する。

高欄切欠き	
1	なし
2	あり

(7) 設置地点／非常駐車帯

非常口における非常駐車帯の有無をコードで記入する。

非常駐車帯	
1	なし
2	あり

(8) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

第5節 附属構造物データテーブル(資産更新テーブル)

5.1 遮音壁テーブル

○ 一般事項

左側、右側、中央分離帯の遮音壁ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 5-1_遮音壁資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工／土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、上部工又は土工区間管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 位置／位置区分

遮音壁の設置位置をコードで記入する。

左右区分	
L	左側
R	右側
C	中央分離帯

(3) 位置／位置番号

1 径間の中で構造に変化があった場合、数字で連番を付与する。なお、変化がない場合でも 1 を記入する。（径間で半分だけ設置されているなど）

(4) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(5) しゅん工年度

遮音壁のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(6) 工事内容

工事の内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新規構造物設置
M	既設構造物取替（支柱）
P	既設構造物取替（板）
W	既設構造物取替（支柱＋板）
1	既設構造物撤去
V	既設構造物嵩上げ・追加
B	ボルトのみ補修
S	その他部分補修

(7) 設置／設置種別

遮音壁の設置種別をコードで記入する。1 径間内で、設置種別が異なる場合は、延長の長い種別を記入する。

設置種別	
1	なし
P L	プラスチック板
K U	吸音板
A L	アルミサンドイッチ板
A M	プラスチックメタル板
D C	落下防止柵
T H	投棄防止柵
F A	転落防止柵
W A	複合タイプ（吸音板＋プラ板）
W B	複合タイプ（吸音板＋落下防止柵）
W C	複合タイプ（プラ板＋落下防止柵）
8 8	その他

(8) 設置／板種別

遮音板等の材料種別をコードで記入する。

板種別	
1	なし
T	透光板
Q	耐候性プラスチック板
P	プラスチック板（その他）
S	カラースリット板
R	プラスチック曲面板
A	アルミサンドイッチ板
M	プラスチックメタル板
K	吸音板（化粧板付）
O	吸音板（化粧板なし）
E	エキスパンドメタル
N	菱形金網
W	ワイヤーメッシュ
H	ハイテンション線
I	パイプ型フェンス
B	美装板
F	落下防止型美装板
G	ガードロープ
C	複合
8	その他

(9) 設置／吸音装置

吸音装置（ノイズレデューサー）の有無をコードで記入する。

吸音装置	
1	なし
2	あり

(10) 設置／製作会社名

遮音壁の製作会社名を記入する。

(11) 設置／延長

遮音壁の設置延長を記入する。なお、設置種別が異なる場合でも1径間での全延長を記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(12) 設置／設置高

遮音壁の高さを記入する。なお、1径間内で高さが増える場合は、最も長く設置されている高さを記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(13) 取付等／支柱取付タイプ

支柱取付タイプをコードで記入する。

支柱取付タイプ	
K	建設タイプ
S	側面タイプ（化粧板あり）
N	側面タイプ（化粧板なし）
E	土中部タイプ

(14) 取付等／支柱嵩上タイプ

支柱嵩上タイプをコードで記入する。

支柱嵩上タイプ	
B	ボルト継足し
8	その他

(15) 取付等／板落下防止

遮音板の落下防止ロープの有無をコードで記入する。

板落下防止	
1	なし
2	あり

(16) 取付等／支柱落下防止

遮音壁支柱の落下防止ロープの有無をコードで記入する。

支柱落下防止	
1	なし
2	あり

(17) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		板・枠・吸音装置	基礎
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	われ、変形、さび及び腐食	コンクリートのわれ、さび及び腐食
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	ボルト折損、破損、亀裂
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接、変形	初期ひびわれ、変形
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（遮音壁、裏面化粧板等）	
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(18) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

5.2 伸縮継手テーブル

○ 一般事項

橋脚はり上の車線ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 5-2_伸縮継手資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 橋脚はり上／上部工管理番号

共通事項の要領に従い、橋脚はり上又は上部工管理番号（縦目地）を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線につい

ては、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 車線／上下区分

上下線一体区間の場合、上下線分離区間の場合ともにコードを記入する。またランプ及び渡り線についても、その帰属する下り線又は上り線を記入する。なお、環状線については下り線とする。

上下区分	
D	下り線
U	上り線

(3) 車線／車線区分

車線単位に区分をコードで記入する。料金徴収所付近では車道としないで料金所付近とする。

車線区分	
R	車道
W	路肩・拡幅
B	分岐・合流帯部
P	非常駐車帯
T	料金所付近
S	パーキング
8	その他

(4) 車線／車線番号／補助番号

車両進行方向に向かって左から 1, 2, 3, …を記入する。カーブ区間の拡幅部では、次のように本線部に隣接するものから順に記入する。

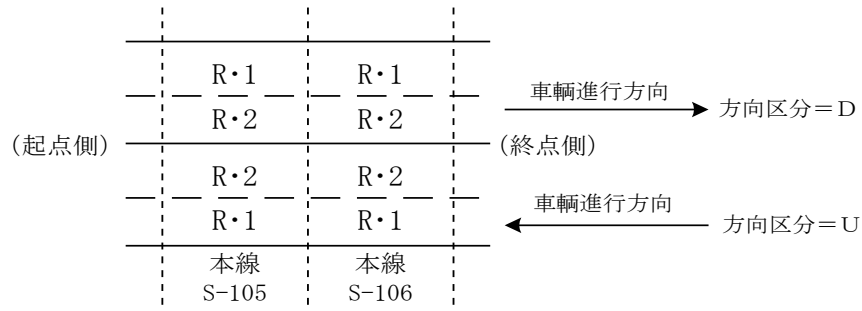
また、本線集約料金所付近の拡幅部や縦伸縮継手設置箇所における車線番号については「拡幅部車線番号一覧（章末添付）」に示す通りとする。

左側拡幅：A, L, M, N, O, P, Q

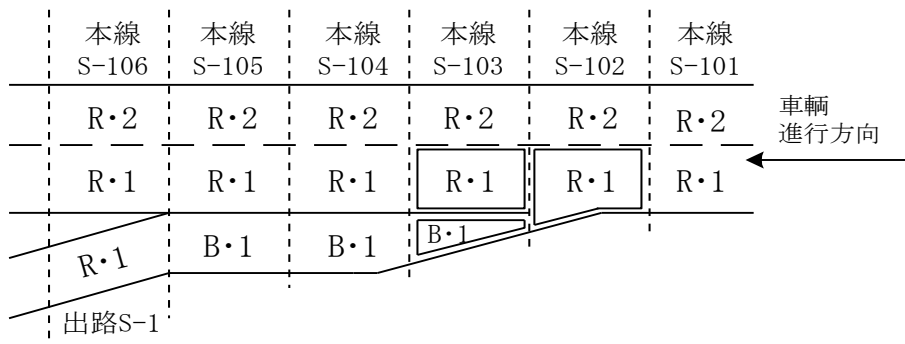
右側拡幅：B, R, S, T, U, V, W

なお、補助番号についてはアゴ受けばり等、同一はり上に 2 つ伸縮継手が設置されている場合に” 2 ”を記入する。伸縮継手が 1 つの場合にも” 1 ”を記入する。

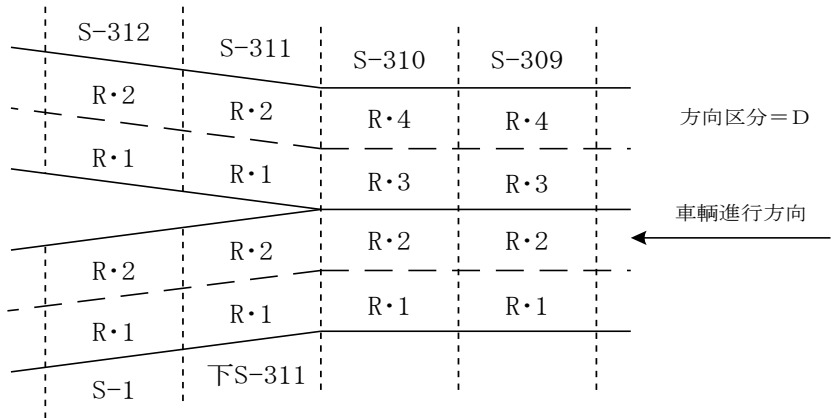
対面交通（2方向）の場合



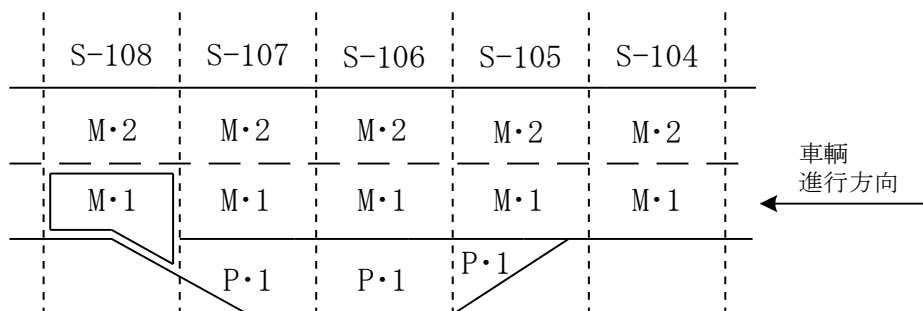
ランプ・渡り線の分岐点・合流点



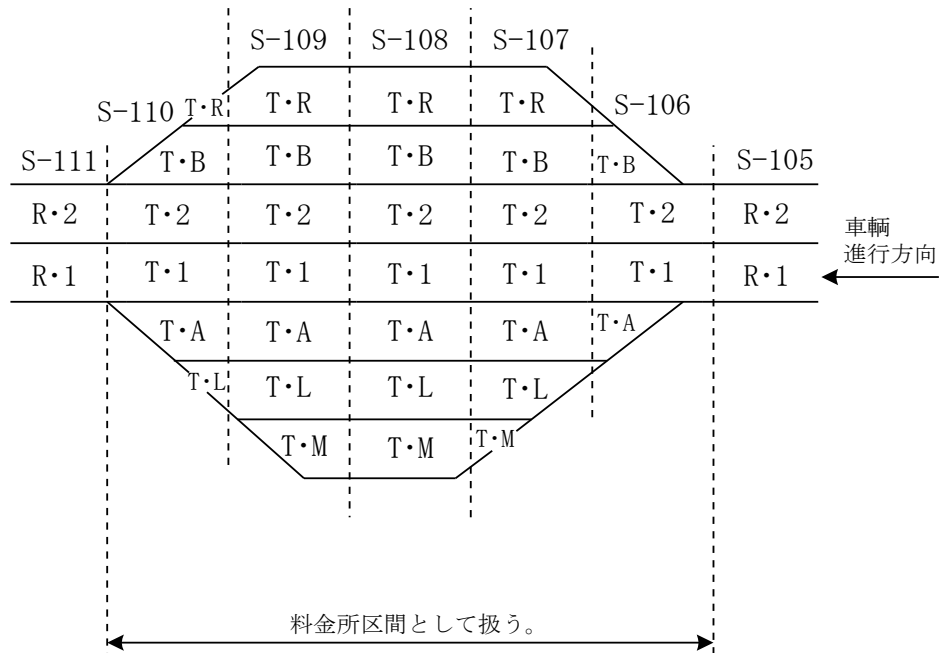
本線の分岐点・合流部



非常駐車帯



料金所付近（集約料金等の拡幅部）



(5) 設置区分

設置区分をコードで記入する。アゴ受けばり等、同一はりに上に2つ伸縮継手が設置されている場合に区分する。

設置区分	
C	中間
S	起点側
E	終点側

(6) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(7) しゅん工年度

伸縮継手のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(8) 工事内容

工事の内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新規設置
G	ゴム本体のみ取替
H	通常（箱抜）伸縮装置取替
R	床版端部打替取替
N	ノージョイント化（連結化）
B	簡易（埋設）ノージョイント化
W	伸縮継手止水補修
J	地覆止水補修
K	高欄遊間補修
P	部分補修
8	その他補修

(9) 伸縮継手／縦伸縮継手区分

縦伸縮継手の場合は、コードを記入する。

縦伸縮継手区分	
L	縦伸縮継手

(10) 伸縮継手／伸縮継手型式／伸縮継手種別・伸縮装置型式

伸縮継手種別と伸縮装置型式をコードで記入する。その他の型式は備考欄に名称を記入する。

伸縮継手種別		伸縮装置型式・工法	
N	桁連結化ノージョイント	G	鋼桁連結化工法
		S	床版連結化工法
		P	P C 桁連結化工法
B	簡易（埋設）ノージョイント	HE	エキスパンドメタル工法(H1仕様)
		HX	ヘキサロック工法
		HG	ジョイントグース工法(S59仕様)
		HM	MMA樹脂工法
		S J	シームレス
		A S	スーパーアストップ
		S M	ソーマ
		F J	ニッテツF J
B 8	埋設その他		
M	鋼製ジョイント	F 1	フィンガー重合せ式
		F 2	フィンガー片持ち式
		F 3	フィンガー支持式
		P	プレート重合せ
K	簡易鋼製ジョイント	CK	シーベック
		SP	エスピー
		ST	エステイー
		MW	エムダブリュー
		SU	スーパーガイトップ
		WV	ウェビーフック
		DU	ダブルフィンガースーパー
		HB	ハイブリッド
		MT	メタルトップ
K 8	簡易鋼製その他		
G	ゴムジョイント（荷重支持型）	HM	ハマハイウェイ(N S Q型セルタイプ)
		CL	コル
		TF	トランスフレックス
		GT	ガイトップ
		SM	ネオスミ

		SG DF AB GB BF TM G8	サガ ダイヤフリー エース型 (B型) ハイブリッド (ゴム) ブローフⅢ型 タテメジャー ゴムその他
T	突合せ後付け ジョイント	CO CP YM RT SB SC ME CG M8	カットオフ カップリング ハマハイウェイ (YM型) ラバートップ SBラバー スミシール メタルトップ (突合せ) シージースチール 突合せ後付けその他
S	突合せ先付け ジョイント	SP SU SR S8	目地板 アングル補強 補剛鋼材 突合せ先付けその他
D	ダミージョイント	C D	切削目地 (S55仕様) 隠目地
X	特殊ジョイント	DM FX X8	デマーク フィンガー特殊 特殊その他
8	その他	88	その他

(11) 伸縮継手／伸縮装置製作会社名

伸縮装置の製作会社名を記入する。

(12) 伸縮継手／伸縮継手延長

車道部の伸縮継手延長を数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(13) 伸縮継手／設計伸縮量

設計伸縮量 (起点側桁の伸縮量＋終点側桁の伸縮量) を数字で記入する。単位はmmで小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(14) 伸縮継手／伸縮桁長

設計伸縮量の算定に必要な伸縮桁長（起点側桁長＋終点側桁長）を数字で記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(15) 伸縮継手／許容伸縮量

伸縮装置の許容伸縮量を数字で記入する。単位はmmで整数止めとする。

(16) 伸縮継手／平均床版遊間量

平均床版遊間量を数字で記入する。単位はmmで小数点以下第1位を四捨五入し、整数止めとする。

(17) 伸縮継手／その他構造、補強、工法等

伸縮装置の構造、補強、工法等のコードを記入する。

構造・補強・工法等	
B	フィンガーボルト構造(フェイスプレート独立)
W	フィンガー溶接構造(フェイスプレート架台一体)
U	埋設ジョイント隅角部アングル補強あり
S	鋼桁連結化遊間補強あり
N	鋼桁連結化遊間補強なし
R	リペアコント埋設

(18) 止水・排水工／しゅん工年度

止水・排水工のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(19) 止水・排水工／種別

止水・排水工の種別をコードで記入する。

止水種別	
DA	排水型 鋼製樋(建設タイプ)
DB	排水型 ゴム樋
DC	排水型 塩ビ樋(改良タイプ)
D8	排水型 その他
NS	非排水型 ステンレス樋充填
NG	非排水型 ゴム樋充填
NA	非排水型 乾式止水材受台有
NB	非排水型 乾式止水材受台無
NE	非排水型 弾性シール(ゴム樋有)
NF	非排水型 弾性シール(ゴム樋無)
NG	非排水型 弾性シール(マルチシール)
NH	非排水型 フジタイト
NI	非排水型 SUS樋吸水シート巻
N8	非排水型 その他

(20) 床版端部補強／端部補強

R C床版の端部補強をコードで記入する。

R C床版端部補強	
1	補強なし
A	補強あり(鋼板接着)
B	補強あり(ブラケット補強)
C	補強あり(鋼板ブラケット併用タイプ)
D	補強あり(フィンガー切残しブラケットなし)
E	補強あり(フィンガー切残しブラケットあり)
8	その他

(21) 地覆遊間止水

地覆部止水材をコードで記入する。

地覆遊間止水	
1	なし
C	車道伸縮装置止水と連続構造
S	弾性シール材地覆独立
M	鋼板（シール材付）
8	その他

(22) 高欄遊間止水

高欄遊間止水をコードで記入する。

高欄遊間止水	
1	なし
G	止水ゴム(エチレンプロピレンゴム)
U	ウレアウレタン吹付
M	鋼板
8	その他

(23) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	部材・溶接部のわれ、ゴム本体のやぶれ、排水樋のやぶれ、さび及び腐食
B	設計基準の改訂による改良	機能向上等
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、漏水
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動
G	予防的対策	ボルト取替
H	自然災害（設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害（設計上での想定外）	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

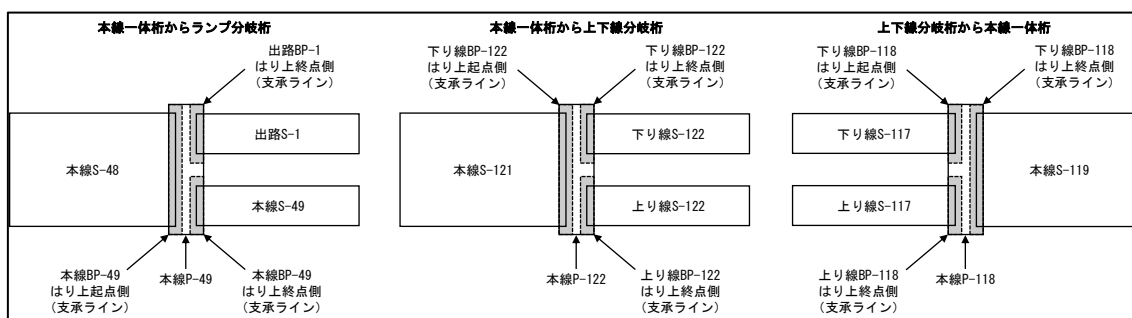
(24) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

5.3 支承テーブル

○ 一般事項

支承ライン（支承線）ごとにデータを記入する。なお、1 支承ライン上に同機能を有するデバイスで異なる型式のものが存在する場合は、一次と二次の項目に分けてデータを記入する。また、上り線、下り線に分離している場合は各々で記入する。



ここで、水平力分担構造とは、タイプAの支承と補完し合って、タイプBの支承と同等な性能として、地震時慣性力に抵抗することを目的とする構造のことをいう。

記入に際してはデータテーブル（様式 5-3_支承資産・補修）を用いて次の要領で記入する。なお、水平力分担構造は、5.4に後述する変位制限構造および横変位拘束構造とは区別して記入すること。

(1) 共通情報／橋脚はり上管理番号

共通事項の要領に従い、はり上又は下部工の管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

本線とランプ・渡り線または、上り線と下り線の分岐・合流部等では、分割して管理を行い、それぞれの橋脚はり上管理番号を記入する。

(2) 上下部工情報／上部工管理番号

はり上管理番号に対応する上部工管理番号を記入する。連続桁中間支点部の場合は、はり上起点側の上部工管理番号のみを記入する。なお、桁連結化中間支点部の場合は、はり上起点側またははり上終点側の上部工管理番号を記入する。

(3) 上部工情報／下部工管理番号

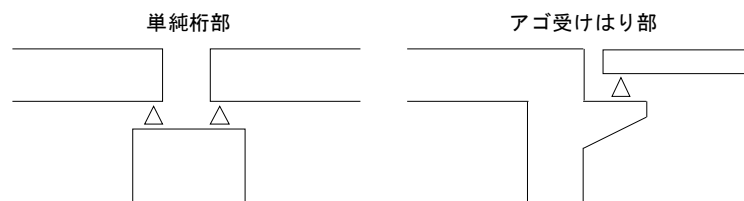
はり上管理番号に対応する下部工管理番号を記入する。

(4) 支承共通情報／はり上区分

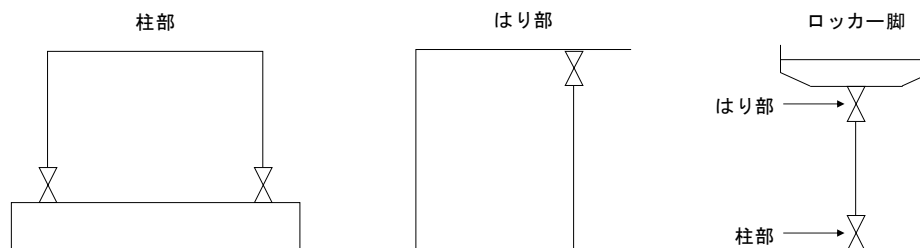
はり上支承・下部工支承についてははり上区分をコードで記入する。

はり上区分		
S	端支点部	はり上 支承
C	連続桁中間支点部	
N	桁連結化中間支点部	
H	ヒンジ部	
R	アゴ受けはり部	
A	橋台部	
G	剛結部	
P	柱部	下部工 支承
B	はり部	
8	その他	

はり上支承



下部工支承



(5) 支承共通情報／桁部補強の有無

桁部補強（ジャッキアップ用）の有無をコードで記入する。

桁部補強の有無	
1	なし
2	あり

(6) 支承共通情報／橋脚部補強の有無

橋脚部補強（ジャッキアップ用）の有無をコードで記入する。

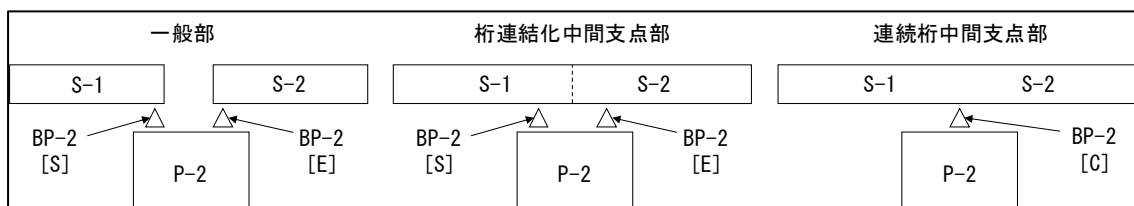
橋脚部補強の有無	
1	なし
2	あり

(7) 各デバイス／設置位置

各デバイスの設置位置をコードで記入する。

設置位置	
N	設置なし
S	はり上起点側
E	はり上終点側
C	連続桁中間支点部

※「S：はり上起点側」および「E：はり上終点側」は、桁連結化中間支点部も含む。



(8) 各デバイス／設置数

支承ライン上の各デバイスの設置数を記入する。

(9) 各デバイス／メーカー名

各デバイスのメーカー名を記入する。

(10) 各デバイス／工事区分

各デバイスの工事内容をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(保全管理工事以外)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

※「S：フレッシュアップ工事」の区分は「R：補修工事（保全管理工事以外）」と重複のため、使用しないこととし、「S：フレッシュアップ工事」の区分に該当する工事は「R：補修工事（保全管理工事以外）」の区分として入力する。

(11) 各デバイス／工事内容

各デバイスの工事内容をコードで記入する。

工事内容	
N	デバイスの新規設置
E	デバイス本体の取替
A	デバイス本体の追加
P	デバイス部品の取替、取付
B	沓座の打替や部分補修
8	その他

(12) 各デバイス／補修理由

各デバイスの工事区分が建設工事以外に該当する場合、その工事を行う主な理由をコードでひとつ記入する。工事区分が建設工事に該当する場合は記入しない。

補修理由		事例	
		本体	沓座
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	塗膜劣化、腐食、摩耗、疲労亀裂、破損、付属物の漏水	ひびわれ、はく離・補修部劣化
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	ひびわれ、空洞
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（遮音壁、裏面化粧板等）	
G	予防的対策	塗装、付属物落下防止措置	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(13) 各デバイス／適用道示

各デバイスに適用した道路橋示方書の年度を和暦で記入する。

(14) 各デバイス／しゅん工年度

各デバイスのしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(15) 各デバイス／備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

(16) 支承／型式

支承の型式をコードで記入する。

支承型式	
G	ゴム支承
R B	積層ゴム支承
R N G	リングゴム支承
L R B	鉛プラグ入ゴム支承
H D R	高減衰積層ゴム支承
B P	支承板支承
B P B	密閉ゴム支承板支承
L B	線支承
P L	平面支承
P N	ピン支承
P V	ピボット支承
H I	ヒンジ支承
H R	ローラ支承
P N R	ピンローラ支承
P V R	ピボットローラ支承
B P R	支承板ローラ支承
V H B	機能分離型支承
W I N	ウインド支承
P E N	ペンデル支承
H S	水平支承
M H	メナーゼヒンジ
8 8 8	その他

(17) 支承／支承条件

支承の固定・可動区分をコードで記入する。

支承条件	
F	固定
M	可動
E	弾性
R	剛結

(18) 支承／耐震性

支承の耐震性をコードで記入する。

耐震性	
A	タイプA
B	タイプB
S	機能分離型

(19) 支承／最大呼びトン数

支承の最大呼びトン数（最大反力）を記入する。単位はk Nで四捨五入し、整数止めとする。

(20) 支承／支承部高さ

支承部の構造高さ（橋脚天端面～主桁下フランジ面）を記入する。なお、支承ごとに支承部の高さが異なる場合は、支承ライン上の中で最大のを記入する。単位はmで小数点以下第3位を四捨五入し、2位止めとする。

(21) 支承／ソールプレート厚さ

支承ソールプレートの構造高さを記入する。なお、支承部高さを計測した箇所と同箇所のを記入する。単位はmで小数点以下第3位を四捨五入し、2位止めとする。

(22) 支承／支承高さ

支承の構造高さ（ソールプレート厚さを除く）を記入する。なお、支承部高さを計測した箇所と同箇所のを記入する。単位はmで小数点以下第3位を四捨五入し、2位止めとする。

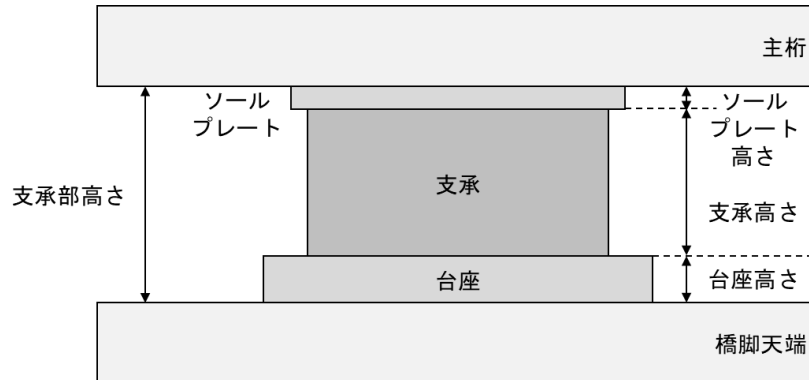
(23) 支承／台座高さ

支承台座の構造高さを記入する。なお、支承部高さを計測した箇所と同箇所のを記入する。単位はmで小数点以下第3位を四捨五入し、2位止めとする。

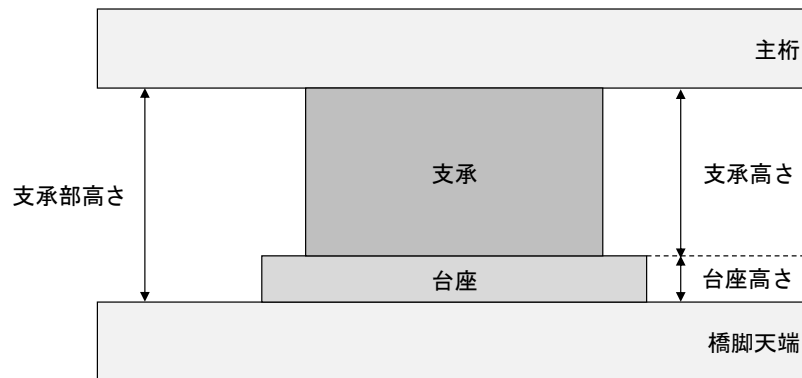
(24) 支承／支承部高さ計測箇所

支承部高さを計測した箇所の桁番号をテキストで記入する。

鋼桁



コンクリート桁



(25) 支承／支承落下防止の有無

支承のサイドブロックのフェールセーフの有無をコードで記入する。

支承落下防止の有無	
1	なし
2	あり

(26) 水平力分担構造／型式

水平力分担構造の型式をコードで記入する。

水平力分担構造型式	
S	突起緩衝型
8	その他

(27) 水平力分担構造／タイプ（反力）

水平力分担構造のタイプ（反力）をテキストで記入する。

(28) 段差防止構造／型式

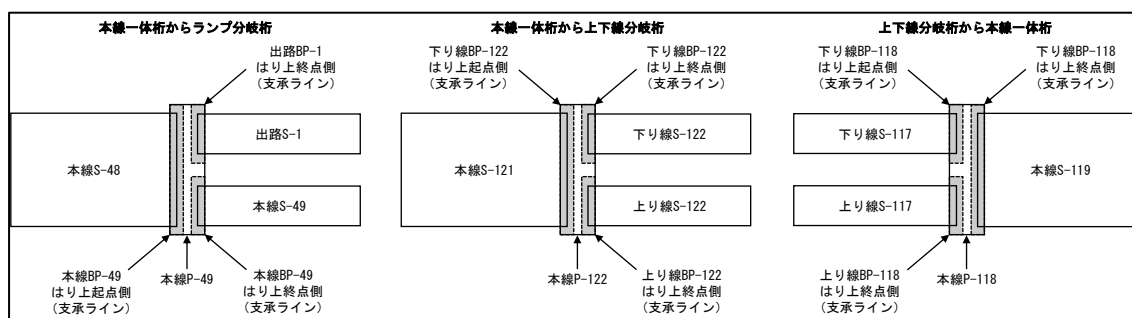
段差防止構造の型式をコードで記入する。

段差防止構造型式	
MG	鋼製（上部工付）
MP	鋼製（下部工付）
CG	コンクリート製（上部工付）
CP	コンクリート製（下部工付）
8	その他

5.4 落橋防止システムテーブル

○ 一般事項

支承ライン（支承線）ごとにデータを記入する。なお、1支承ライン上に同機能を有するデバイスで異なる型式のものが存在する場合は、一次から三次の項目に分けてデータを記入する。また、上り線、下り線に分離している場合は各々で記入する。



ここで、変位制限構造とは、タイプAの支承と補完し合って、地震時慣性力に抵抗することを目的とする旧道路橋示方書（～H14）で規定される構造のことをいう。また、横変位拘束構造とは、上部構造を支持している支承部が地震により破壊したときに、橋の構造的要因等によって上部構造が橋軸直角方向に変位しようとする挙動を拘束するための構造のことをいう。

記入に際してはデータテーブル（様式 5-4_落橋防止システム資産・補修）を用いて次の要領で記入する。なお、横変位拘束構造は変位制限構造の分類として記入すること。

(1) 共通情報／橋脚はり上管理番号

共通事項の要領に従い、はり上管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

本線とランプ・渡り線または、上り線と下り線の分岐・合流部等では、分割して管理を行い、それぞれの橋脚はり上管理番号を記入する。

(2) 上下部工情報／上部工管理番号

はり上管理番号に対応する上部工管理番号を記入する。デバイスの設置位置がはり上起点側またははり上終点側に該当しない場合は、はり上起点側の上部工管理番号のみを記入する。

(3) 上下部工情報／下部工管理番号

はり上管理番号に対応する下部工管理番号を記入する。

(4) 落橋防止システム共通情報／はり上区分

はり上支承・下部工支承についてははり上区分をコードで記入する。

はり上区分	
S	端支点部
C	連続桁中間支点部
N	桁連結化中間支点部
H	ヒンジ部
R	アゴ受けばり部
A	橋台部
G	剛結部
8	その他

(5) 桁かかり長／橋軸方向の実桁かかり長 S_E

橋軸方向の実桁かかり長 (S_E) を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(6) 桁かかり長／橋軸直角方向(全幅員中心右側)の実桁かかり長 S_E

橋軸直角方向の全幅員中心から橋脚起点側から見て右側端面までの実桁かかり長 (S_E) を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

(7) 桁かかり長／橋軸直角方向(全幅員中心左側)の実桁かかり長 S_E

橋軸直角方向の全幅員中心から橋脚起点側から見て左側端面までの実桁かかり長 (S_E) を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

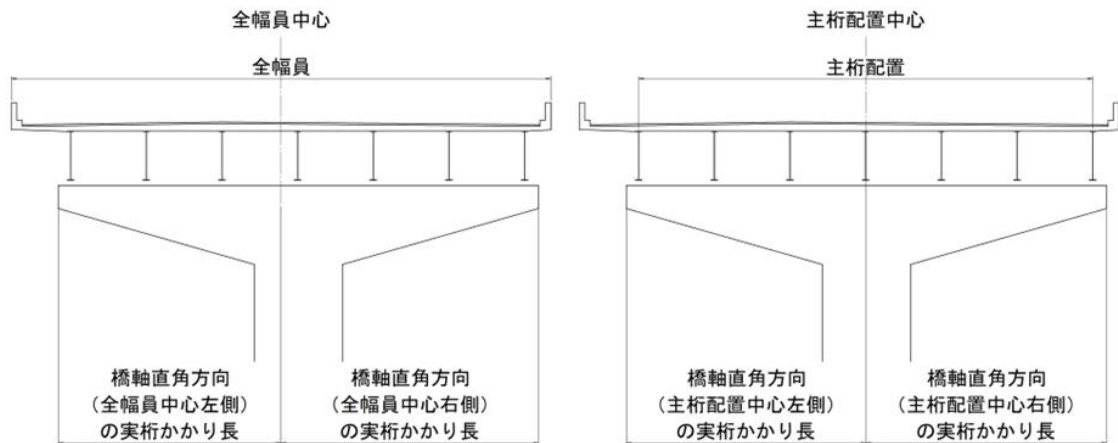
(8) 桁かかり長／橋軸直角方向(主桁配置中心右側)の実桁かかり長 S_E

橋軸直角方向の外主桁間中心から橋脚起点側から見て右側端面までの実桁かかり長 (S_E) を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

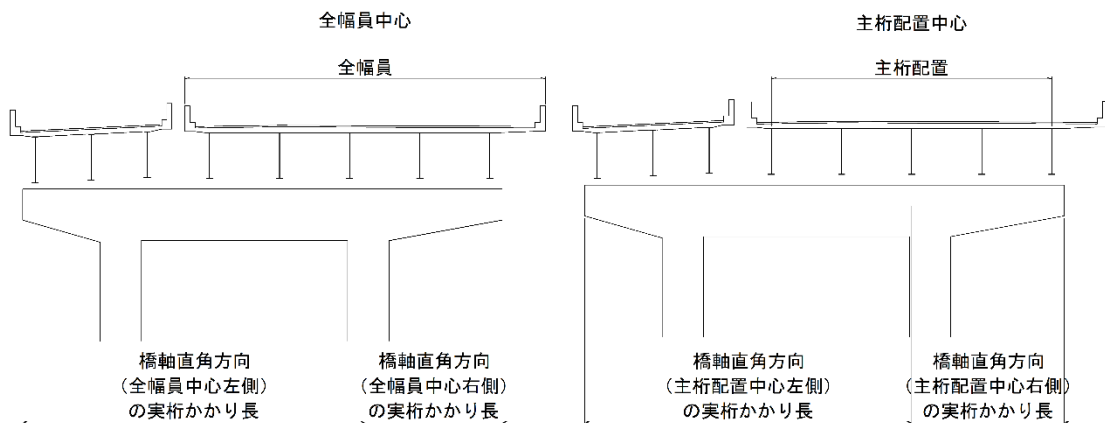
(9) 桁かかり長／橋軸直角方向(外主桁間中心左側)の実桁かかり長 S_E

橋軸直角方向の外主桁間中心から橋脚起点側から見て左側端面までの実桁かかり長(S_E)を記入する。単位はmで小数点以下第4位を四捨五入し、3位止めとする。

T型橋脚



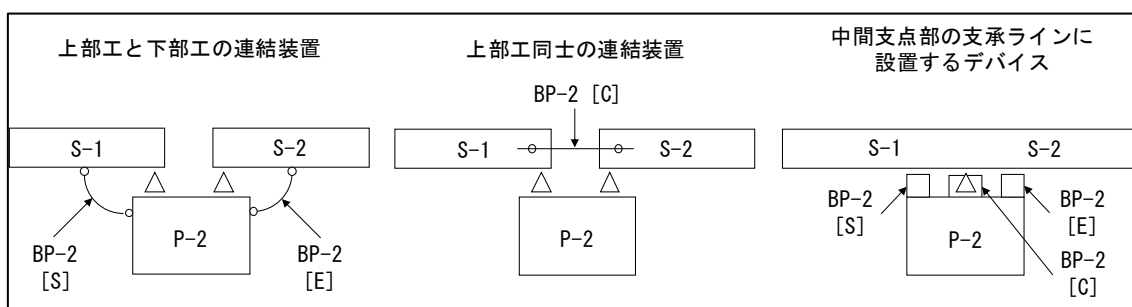
ラーメン橋脚



(10) 各デバイス／設置位置

各デバイスの設置位置をコードで記入する。

設置位置	
N	設置なし
S	はり上起点側
E	はり上終点側
C	はり上起点側またははり上終点側に該当しない位置(上部工同士の落橋防止構造、中間支点部の支承ラインに位置するデバイス等)



(11) 各デバイス／設置数

支承ライン上の各デバイスの設置数を記入する。

(12) 各デバイス／メーカー名

各デバイスのメーカー名を記入する。

(13) 各デバイス／工事区分

各デバイスの工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(保全管理工事以外)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

※「S：フレッシュアップ工事」の区分は「R：補修工事（保全管理工事以外）」と重複のため、使用しないこととし、「S：フレッシュアップ工事」の区分に該当する工事は「R：補修工事（保全管理工事以外）」の区分として入力する。

(14) 各デバイス／工事内容

各デバイスの工事の内容をコードで記入する。

工事内容	
J 1	落橋防止構造
J 2	落橋防止構造、変位制限構造
J 3	落橋防止構造、変位制限構造、段差防止構造
J 4	落橋防止構造、変位制限構造、段差防止構造、はり縁端拡幅
D 1	変位制限構造
D 2	変位制限構造、段差防止構造
D 3	変位制限構造、はり縁端拡幅
D 4	変位制限構造、段差防止構造、はり縁端拡幅
S 1	段差防止構造

S 2	段差防止構造、はり縁端拡幅
W 1	はり縁端拡幅
P 1	部分補修
P 2	部材撤去のみ
8 8	その他

※段差防止構造が含まれる「J 3」、「J 4」、「D 2」、「D 4」、「S 1」、「S 2」の区分は記入に使用しないこととし、段差防止構造に関する内容は支承テーブルに記入する。

(15) 各デバイス／補修理由

各デバイスの工事区分が建設工事以外に該当する場合、その工事を行う主な理由をコードでひとつ記入する。工事区分が建設工事に該当する場合は記入しない。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	変形、腐食、摩耗、疲労亀裂、破損
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（遮音壁、裏面化粧板等）
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 （設計上での想定外）	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害

(16) 各デバイス／適用道示

各デバイスに適用した道路橋示方書の年度を和暦で記入する。

(17) 各デバイス／しゅん工年度

各デバイスのしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

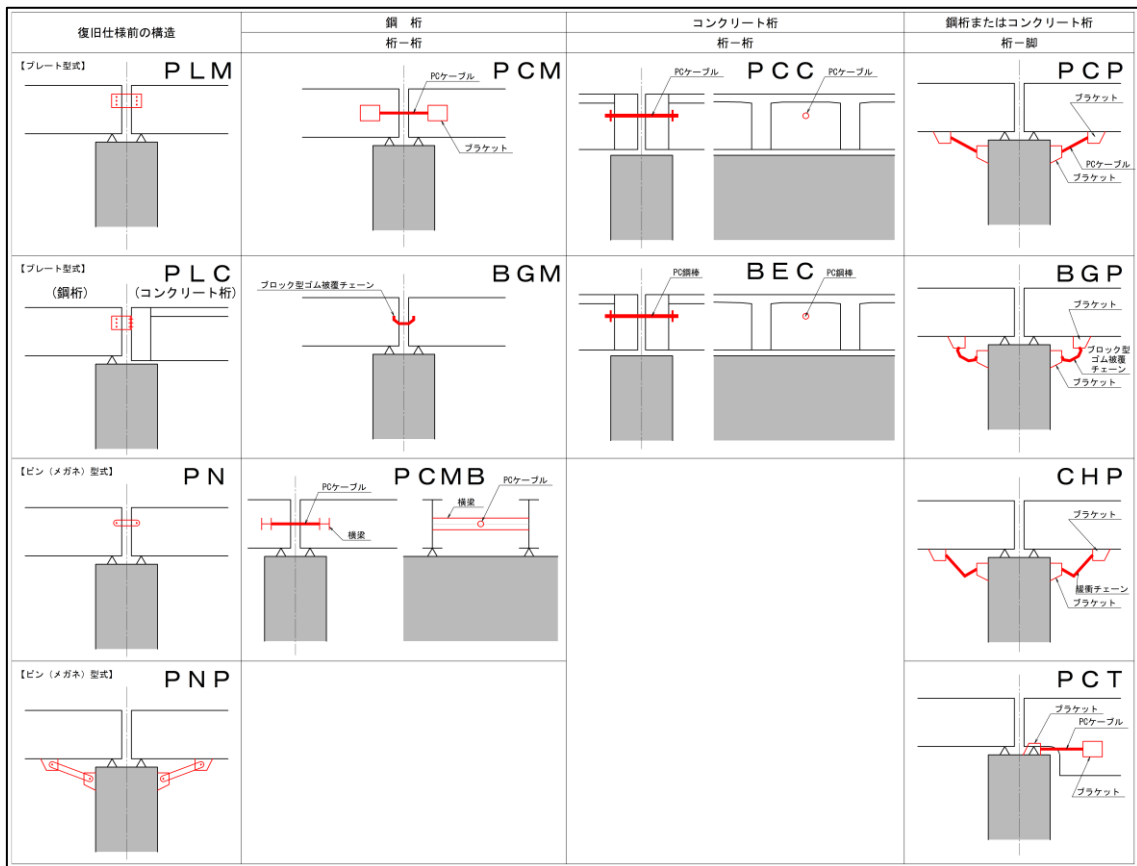
(18) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

(19) 落橋防止構造／型式

落橋防止構造の型式をコードで記入する。

落橋防止構造型式	
P L M	復旧仕様前の構造（鋼桁-鋼桁）プレート型式
P L C	復旧仕様前の構造（鋼桁-C o 桁）プレート型式
P N	復旧仕様前の構造（桁-桁）ピン（メガネ）型式
P N P	復旧仕様前の構造（桁-脚）ピン（メガネ）型式
P C M	鋼桁（桁-桁）P C ケーブル
B G M	鋼桁（桁-桁）ブロック型ゴム被覆チェーン
P C M B	鋼桁（桁-桁）P C ケーブル横梁設置
P C C	C o 桁（桁-桁）P C ケーブル
B E C	C o 桁（桁-桁）P C 鋼棒
P C P	鋼桁またはC o 桁（桁-脚）P C ケーブル
B G P	鋼桁またはC o 桁（桁-脚）ブロック型ゴム被覆チェーン
C H P	鋼桁またはC o 桁（桁-脚）緩衝チェーン
P C T	鋼桁またはC o 桁（桁-脚）P C ケーブル天端留
8 8	その他



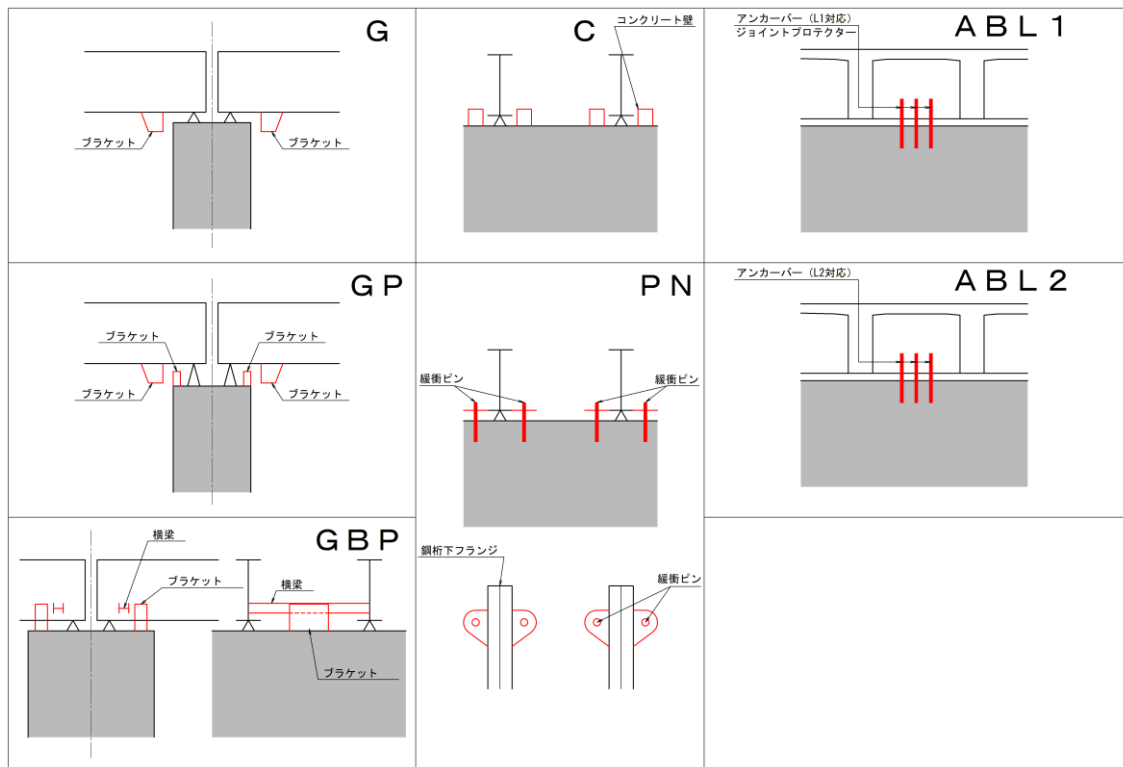
(20) 落橋防止構造／規格

落橋防止構造の規格（型番）をテキストで記入する。

(21) 変位制限構造／型式

変位制限構造の型式をコードで記入する。

変位制限構造型式	
G	桁留
GP	桁-脚留
GBP	横梁-脚留
C	コンクリート壁
PN	緩衝ピン
ABL1	アンカーバー (L1地震動対応、ジョイントプロテクター)
ABL2	アンカーバー (L2地震動対応)
88	その他



(22) 変位制限構造／作用方向

変位制限構造の作用方向をコードで記入する。

変位制限構造作用方向	
L	橋軸方向
T	橋軸直角方向
LT	橋軸方向および橋軸直角方向

(23) はり縁端拡幅／型式

はり縁端拡幅の型式をコードで記入する。

はり拡幅型式	
M	鋼製ブラケット
C	コンクリート拡幅
8	その他

(24) はり縁端拡幅／作用方向

はり縁端拡幅の作用方向をコードで記入する。

はり縁端拡幅作用方向	
L	橋軸方向
T	橋軸直角方向

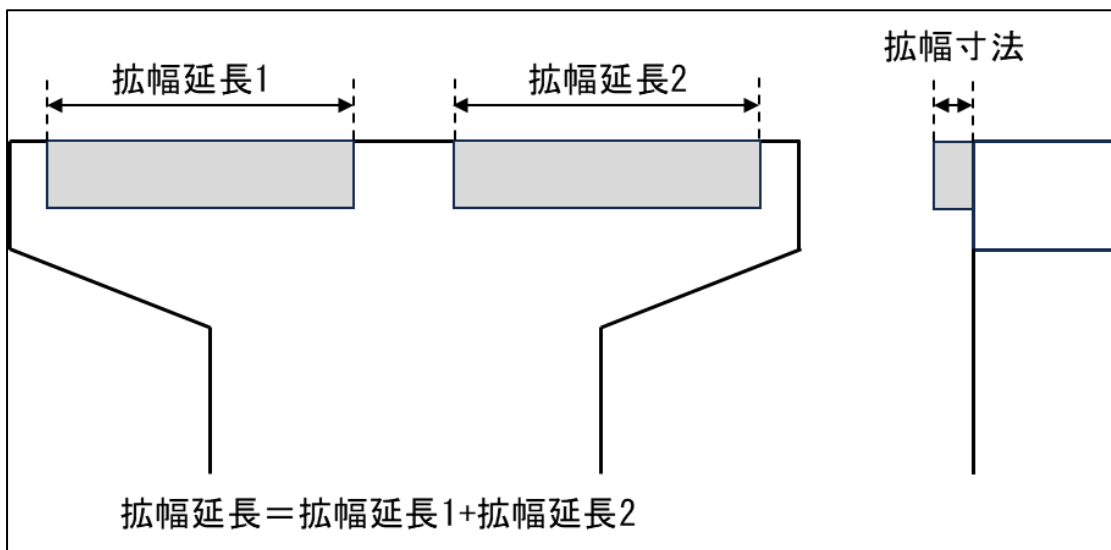
(25) はり縁端拡幅／拡幅延長

はり縁端拡幅の延長を数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

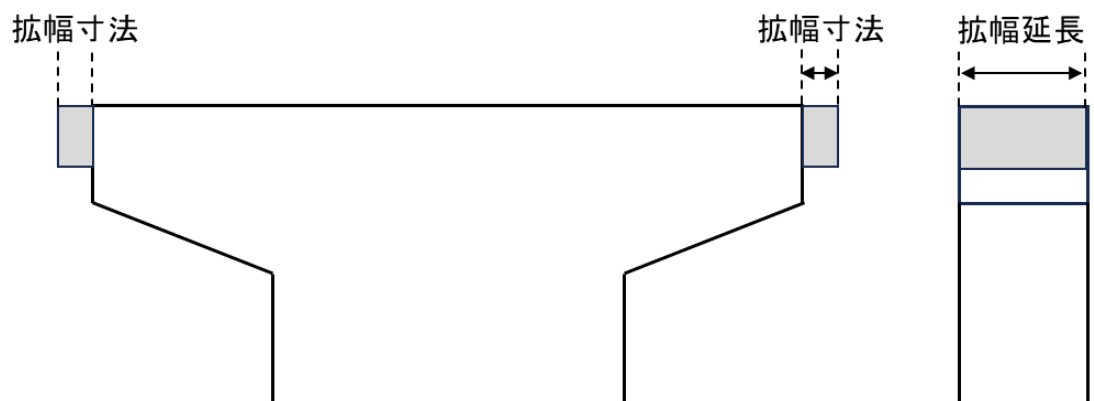
(26) はり縁端拡幅／拡幅寸法

はり縁端拡幅の寸法を数字で記入する。単位はmで小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

橋軸方向



橋軸直角方向



(27) 制震構造／型式

制震構造の型式をコードで記入する。

制震構造型式	
O	オイルダンパー
V	せん断降伏型ダンパー
88	その他

5.5 鋼構造物塗装テーブル

○ 一般事項

上部工1径間ごと（連続桁も同様）又は1橋脚ごとにデータを記入し、上り線、下り線に分離している場合も各々データを記入するものとする。なお、データ管理するのは一般外面のみとし、箱桁・鋼製橋脚裏面（内部）などのデータは含まない。記入に際してはデータテーブル（様式5-5_鋼構造物塗装資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工／下部工管理番号

共通事項に従い、上部工あるいは下部工管理番号を記入する。

(2) 構造物区分

構造物区分をコードで記入する。

構造物区分	
GM	桁本体
PM	橋脚本体
GS	床版（鋼板部）
PS	柱鋼板巻立部

(3) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(4) しゅん工年度

塗装のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(5) 工事内容

工事の内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新設塗装
A	全面塗替（1種ケレン）
B	全面塗替（2種ケレン）
C	全面塗替（3種ケレン）
E	桁端部塗替
P	部分塗替
8	その他

(6) 塗装内容／塗装種別

塗装種別をコードで記入する。

塗装種別	
A	塩化ゴム系
B	ポリウレタン樹脂
C	長油性フタル酸樹脂
D	外側：塩化ゴム系 内側：フェノール樹脂MI.0
E	耐候性鋼板
I	ふっ素樹脂
8	その他

(7) 塗装内容／上塗り塗料

上塗り塗料名をコードで記入する。

塗装種別	
A	長油性フタル酸樹脂塗料
B	塩化ゴム塗料
C	ウレタン系塗料
D	ポリウレタン樹脂塗料
E	ふっ素樹脂塗料
F	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料
G	シリコンアルキド樹脂塗料
8	その他

(8) 塗装内容／下塗り塗料

下塗り塗料名をコードで記入する。1種ケレンをした場合のみ塗り替えた塗料を更新する。

塗装種別	
A	鉛丹さび止め塗料
B	鉛系さび止めペイント
C	ジンクリッチプライマさび止め
D	有機ジンクリッチペイント下塗
E	厚膜形有機ジンクリッチペイント
F	厚膜形無機ジンクリッチペイント
8	その他

(9) 塗装内容／塗装系

建設時塗装データについては、新規塗装工事の基準に示された塗装系（A-1, A-2, …）を、補修時塗装データについては、塗替え及び改良に伴う新塗装の基準に示された塗装系（a-1, a-2, …）を記入する。

(10) 塗装面積

塗装面積を記入する。単位は m^2 で小数点以下第2位を四捨五入し、1位止めとする。

(11) 塗料会社名

工場塗料・現場塗料について塗料会社名を記入する。

(12) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	塗膜劣化、さび腐食
B	設計基準の改訂による改良	—
C	構造、材料の欠陥等による損傷	—
D	施工時の不良と考えられる損傷	—
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	景観対策
G	予防的対策	塗装劣化
H	自然災害 (設計上での想定内)	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 (設計上での想定外)	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(13) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

5.6 舗装テーブル

○ 一般事項

上部工 1 径間（管理番号）及びトンネル 1 区間、土工 1 区間（管理番号）の車線ごとにデータを記入する。なお、車線分割はレーンマークで行う。記入に際してはデータテーブル（様式 5-6_舗装資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工／トンネル・土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、上部工又はトンネル・土工区間の管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 車線／上下区分

上下線一体区間の場合、上下線分離区間の場合ともにコードを記入する。またランプ及び渡り線についても、その帰属する下り線又は上り線を記入する。なお、環状線については下り線とする。

上下区分	
D	下り線
U	上り線

(3) 車線／車線区分

車線単位に区分をコードで記入する。料金徴収所付近では舗装方法が本線部と異なるため、本線としないで料金所付近とする。

車線区分	
R	車道
W	路肩・拡幅
B	分岐・合流帯部
P	非常駐車帯
T	料金所付近
S	パーキング
8	その他

(4) 車線／車線番号

車両進行方向に向かって左側から 1, 2, 3, …を記入する。カーブ区間の拡幅部では、次のように本線部に隣接するものから順に記入する。

また、本線集約料金所付近の拡幅部における車線番号については「拡幅部車線一覧（章末）」に示すとおりとする。

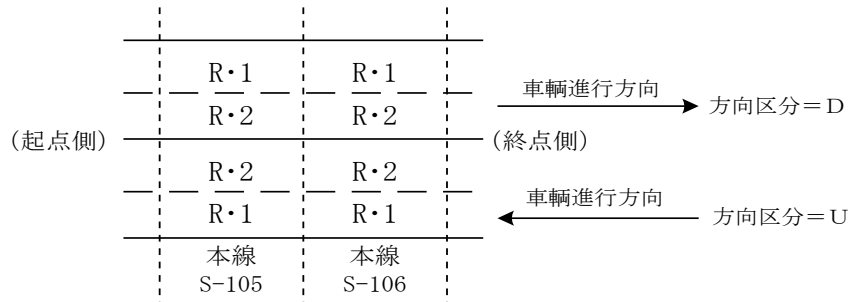
左側拡幅：A, L, M, N, O, P, Q

右側拡幅：B, R, S, T, U, V, W

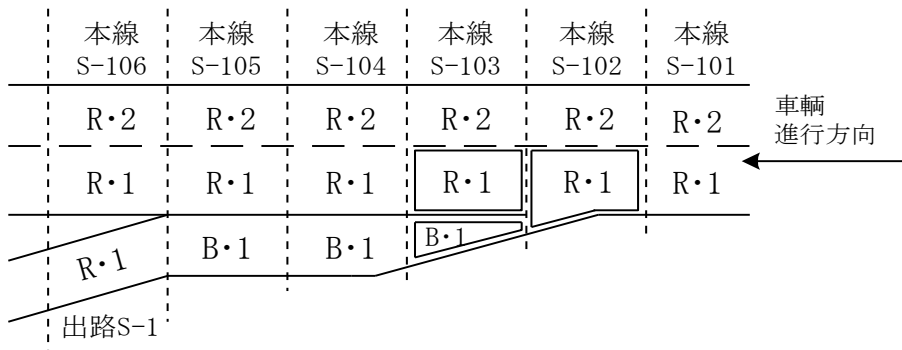
(5) 車線／補助番号

1 径間又は 1 区間の途中に、料金所等で舗装種別が変化する場合はそれらを区別するために、数字を連番で記入する。なお、舗装種別に変化がなくても 1 を記入する。

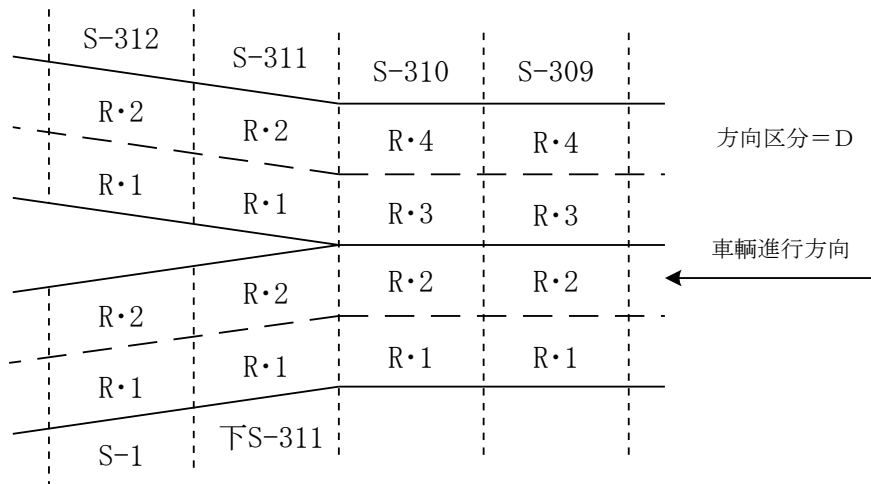
・ 対面交通（2 方向）の場合



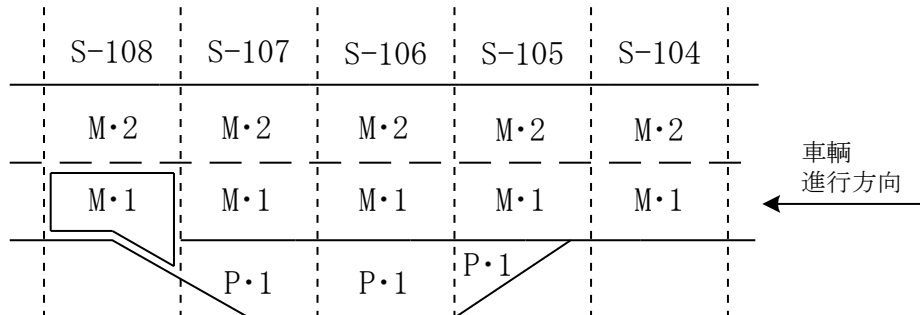
・ ランプ・渡り線の分岐・合流部の場合



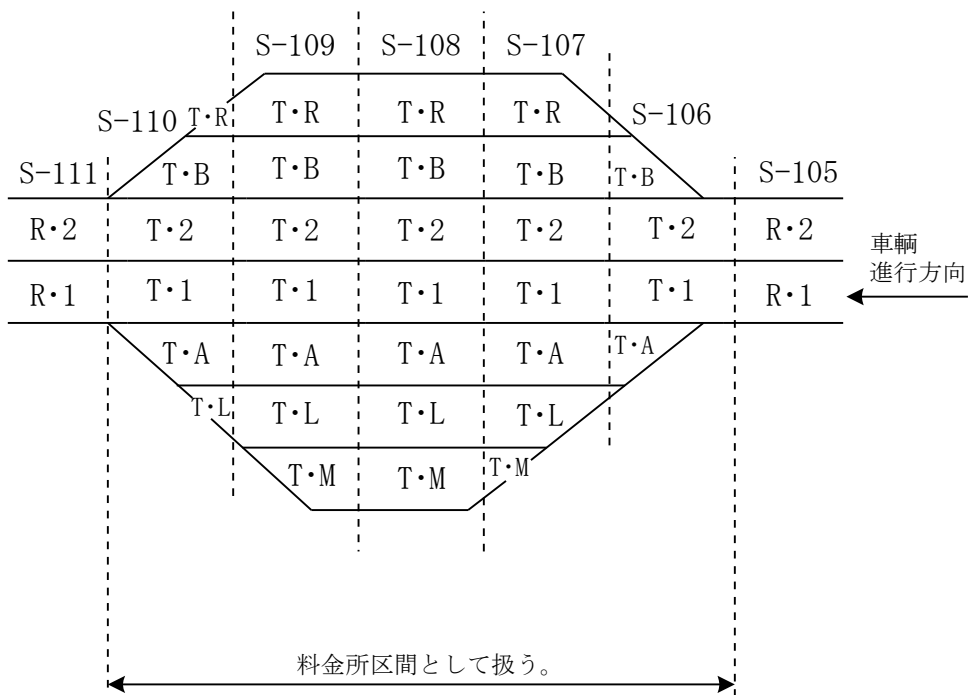
・ 本線の分岐・合流部の場合



・非常駐車帯の場合



・料金所付近（集約料金所等の拡幅部）の場合



(6) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(7) 工事内容

工事の内容をコードで記入する。

補修内容	
N	新設工事
RS	表層打換え
R1	表基層打換え(基層1)
R2	表基層打換え(基層2)
RW	表基層打換え(基層1・床版防水)
RP	部分打換え
OR	オーバーレイ
88	その他

(8) 舗装区分

舗装区分をコードで記入する。

舗装区分	
C	コンクリート床版
M	鋼床版
E	土工部

(9) 舗装／しゅん工年度

表層、基層1及び基層2の舗装のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(10) 舗装／舗装種別及び舗装材料

表層、基層 1 及び基層 2 の舗装の舗装種別、舗装材料をコードで記入する。

舗装種別及び舗装材料			
舗装種別		舗装材料	
DP	排水性舗装	RD RH PA FF	排水性改質アスファルト 高耐久（改質H型） 小粒径ポーラスアスファルト 多機能型排水性舗装
DA	密粒度アスコン	R2 R3 RG RA AH KK	一般 改質 改質Ⅲ型 ゴム入り アスベスト入り 高耐久・安定性合材 高安定性改質アスファルト
DG	密粒度ギャップ式アスコン	R2 R3 RG RS RH AH	一般 改質 改質Ⅲ型 ゴム入り シノパール入り 硬質骨材 高耐久・安定性合材
GA	グースアスファルト	R2 RK RT	一般 改質 高耐久（改質） 吸油骨材チップング
RA	粗粒度アスコン		
OA	開粒度アスコン		
FA	細粒度アスコン	RG	一般 ゴム入り
SA	砕石マスチックアスコン	SA SM	砕石マスチックアスコン 特殊アスファルト
TP	修正トペカ		

R N	コンクリート	2 4 4 5 2 0 4 0	R N 2 4 2 B R N 4 5 R N 2 0 R N 4 0
S F	鋼繊維補強コンクリート	S F	鋼繊維補強コンクリート
8 8	その他	8 8	その他

(11) 舗装／舗装面積

舗装面積を数字で記入する。単位は m^2 で小数点以下第3位を四捨五入し、第2位まで記入する。

(12) 舗装／特殊工法等

特殊工法などをコードで記入する。

床特殊工法等	
P	パームス工法
S	グルービング
P	カラー舗装
8	その他

(13) 床版防水／しゅん工年度

床版防水のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(14) 床版防水／床版防水種別

床版防水の種別をコードで記入する。

床版防水種別	
1	なし
S	シート系
P	塗膜系
R	舗装系
8	その他

(15) 路盤／路盤種別

上層路盤及び下層路盤の路盤種別をコードで記入する。

路盤種別	
1	なし
A	アスファルト安定処理
G	粒度調整砕石
C	クラッシュラン
S	水硬性粒度調整スラグ
8	その他

(16) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	わだちぼれ、ひびわれ、平たん性
B	設計基準の改訂による改良	新技術による
C	構造、材料の欠陥等による損傷	—
D	施工時の不良と考えられる損傷	—
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	—
F	環境対策	騒音、振動、美観対策
G	予防的対策	—
H	自然災害 (設計上での想定内)	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 (設計上での想定外)	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(17) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

5.7 高速道路標識柱テーブル

○ 一般事項

標識柱は、標識専用支柱や標識専用架台 1 基を 1 管理単位とする。なお、標識板が照明柱等の構造物や他機関の管理する柱に設置されている場合、板が 1 枚も設置されていない場合もデータを作成する。入路先端部に設置された門型柱等についても高速道路の標識として管理する。記入に際してはデータテーブル（様式 5-7_高速道路標識柱資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 管理番号

共通事項の要領に従い、上部工、トンネル区間、土工区間の管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 標識柱位置／設置キロポスト

標識柱が設置されている地点のキロポストを小数第 3 位まで記入する。

(3) 標識柱位置／位置区分

標識柱設置場所の位置区分をコードで記入する。

標識設置地点が、2 方向（対向）交通の場合は下り線側・上り線側とし、また 1 方向交通の場合は左側・右側（起点側から見て）とする。

左右両側及び上下線両側は、門型支柱のような場合で、例えば設置場所が両側の高欄や桁である場合に用いる。設置場所が中央分離帯のときは、上下線中央部とする。トンネル天井部等の中には、車線中央部とする。

標識専用架台では、設置場所が標識対象車線の上部工又は下部工ではなく、立体交差点等で、上をまたぐ路線の構造物の場合、交差他線と表す。

設置場所が他路線の場合で、標識対象車線と設置路線の位置関係が立体交差以外場合は、隣接他線又は他線とする。

位置区分	
S D	下り線側
S U	上り線側
S L	左側
S R	右側
B 1	左右両側
B 2	上下線両側

C 1	車線中央部
C 2	上下線中央部
A X	交差他線
A N	隣接他線
A 8	他線
8 8	その他

- (4) 標識柱位置／座標（緯経度）
標識の設置地点の座標（緯経度）を小数第6位まで記入する。

- (5) 工事区分
工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

- (6) しゅん工年度
標識柱のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

- (7) 工事内容
標識柱の工事内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新規標識柱設置
M	既設標識柱移設
C	既設標識柱取替
P	既設標識柱塗装塗替
1	既設標識柱撤去
V	既設標識柱改良(ワイヤー設置)
P	部分補修
8	その他補修

- (8) 標識柱設置／支柱区分
標識支柱区分をコードで記入する。

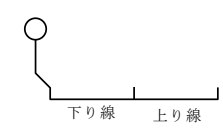
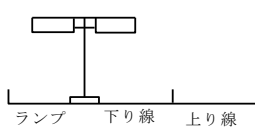
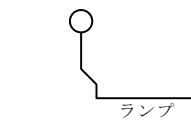
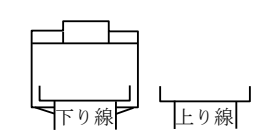
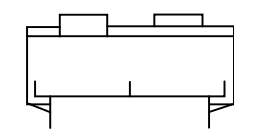
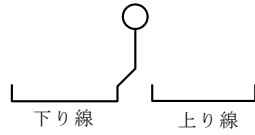
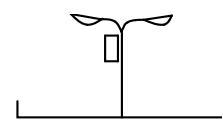
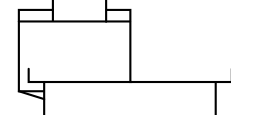
支柱区分	
S	標識専用支柱
H	標識専用架台
A	他構造物添架（支柱なし）
N	E T C門構造
X	フリーフロー
8	その他

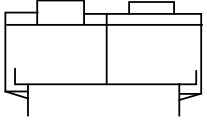
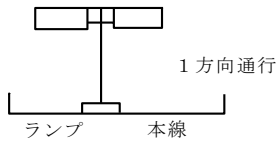
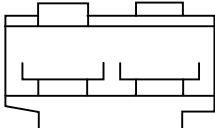
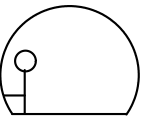
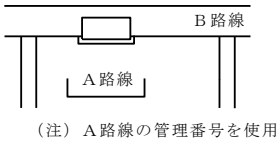
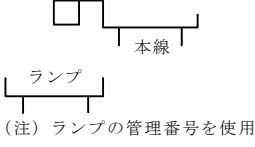
他構造物添架（支柱なし）とは、照明柱・橋脚・桁・高欄等に直接設置されている場合を指す。標識専用架台とはブラケット等に設置されている場合を指す。

(9) 標識柱設置／設置場所

標識専用支柱及び標識専用架台のときはその設置場所を、他構造物添架のときは標識板そのものの設置されている場所をコードで記入する（2つ選択可）。

設置場所	
H	高欄
C	中央分離帯
J	分岐合流帯
N	遮音壁・危険防止柵
I	照明柱
G	桁
P	橋脚
B	料金所施設
T	トンネル
E	土工部（のり面）・擁壁・カルバート
O	その他当社施設
S	当社外施設
8	その他

ケース	支柱区分	設置場所	位置区分	支柱 全体形状
1 	標識専用 支柱	高欄	下り線側	単柱型
2 	標識専用 支柱	分岐 合流帯	下り線側	T型
3 	標識専用 支柱	高欄	左側	単柱型
4 	標識専用 支柱	桁	左右両側	門型
5 	標識専用 支柱	桁	上下線 両側	門型
6 	標識専用 支柱	高欄	右側	単柱型
7 	他構造 添架	照明柱	上下線 中央部	—
8 	標識専用 支柱	(1) 桁 (2) 中央 分離 帯	(1) 下り線 側 (2) 上下線 中央 部	門型

ケース	支柱区分	設置場所	位置区分	支柱 全体形状
9 	標識専用 支柱	(1) 桁 (2) 中央 分離 帯	(1) 上下線 両 側 (2) 上下線 中央 部	横E型
1 0 	標識専用 支柱	分岐 合流帯	車線 中央部	T型
1 1 	標識専用 支柱	橋脚	上下線 両側	門型
1 2 	標識専用 架台	トンネル	左側	—
1 3 	標識専用 架台	桁	交差他線	—
1 4 	標識専用 支柱	高欄	隣接他線	逆L型

(10) 標識柱設置／支柱基礎

支柱区分で、標識専用支柱とした場合に、基礎の種別をコードで記入する。

支柱基礎	
B	ブラケット
B S	ブラケット（桁補強材あり）
F	取付金具
P	ベースプレート
C	コンクリート基礎
U	支柱埋込式
88	その他

ブラケット（桁補強材あり）とは、主桁間に渡って設置されているものを指し、スティフナー程度のものは補強材としない。

(11) 標識柱設置／基礎区分

支柱基礎でコンクリート基礎とした場合に、基礎区分をコードで記入する。

基礎区分	
S	直接基礎
C	場所打R C杭基礎
P	P C杭基礎
E	その他杭基礎
8	その他

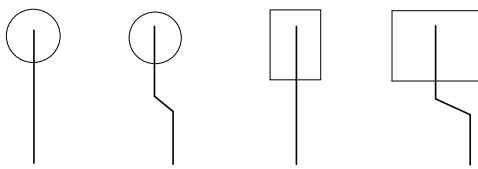
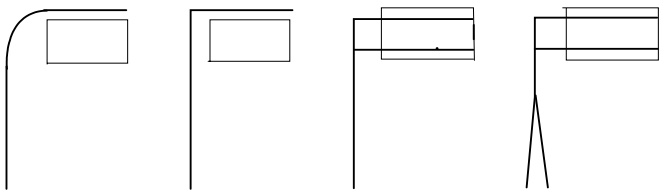
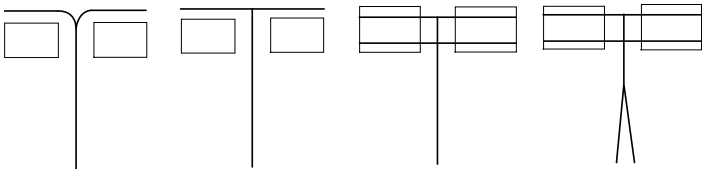
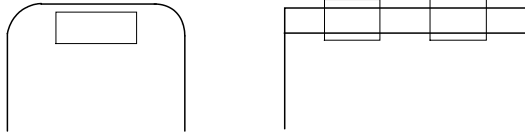
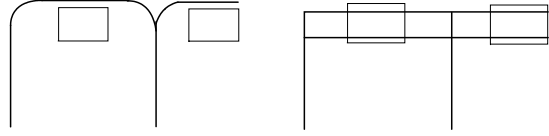
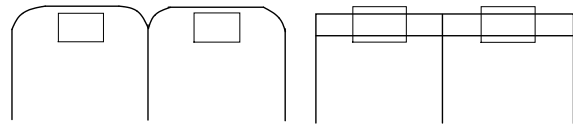
(12) 標識柱設置／支柱本数

標識の支柱の合計本数を記入する。

(13) 標識柱／全体形状

支柱区分で標識専用支柱とした場合に、標識柱の全体形状をコードで記入する。

全体形状	
S	単柱型（柱のみ）
L	逆L型
T	T 型
G	門 型（1 径間）
F	横F型（1 径間）
E	横E型（多径間門型）
R	車高制限装置
I	テレビ支柱
8	その他

コード	名称	形状例
S	単柱型 (支柱のみ)	
L	逆L型	
T	T型	
G	門型 (1径間)	
F	横F型 (1径間)	
E	横E型 (2径間)	

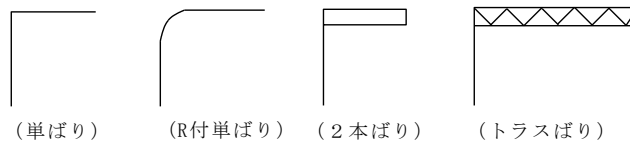
(14) 標識柱／支柱形状

支柱区分で標識専用支柱とした場合にコードで記入する。全体形状で単柱型とした場合は、柱部の方だけ記入し、はり部は記入しない。

支柱形状／柱部	
P	鋼管柱
T	鋼管トラス柱
S	鋼管立体トラス柱
8	その他

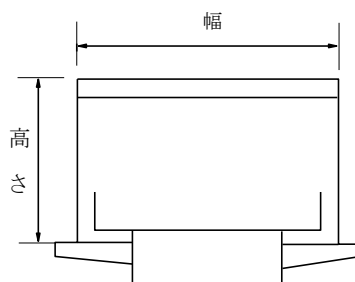
支柱形状／はり部	
M	単はり
R	R付単はり
W	2本はり
T	トラスはり
8	その他

支柱形状／はり部

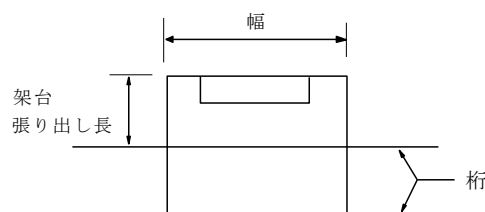


(15) 標識柱／支柱寸法

支柱又は架台の寸法を高さで表し、それぞれ最大値を記入する。ただし、架台の場合、高さの欄では架台張り出し長を記入する。全体形状で単柱型とした場合は、高さのみ記入し、幅は記入しなくてもよい。単位はmで小数点以下第3位を切り捨てし、2位止めとする。



支柱の場合



架台の場合（平面図）

(16) 標識柱／支柱管径

標識専用支柱について、支柱形状／柱部が鋼管のときにその管径を右詰めで記入する。管径は変化する場合があるので、その最大径と最小径を記入するものとする。ただし、管径が変化しないものについては、最大径のみ記入する。単位は mm で小数点以下第 1 位を切り捨てし、整数止めとする。

(17) 標識柱／柱落下防止対策の有無

標識柱の落下防止対策としてワイヤー等の設置の有無をコードで記入する。

柱落下防止処置	
1	なし
2	あり
3	低所設置対象外
4	構造上対象外

(18) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		はり及び支柱	基礎
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	さび及び腐食	コンクリートのわれ、さび及び腐食
B	設計基準の改訂による改良	新技術に伴うこと	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	ボルト折損、ボルトが有効に働いていない
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	美観対策、視認性の改善、	
G	予防的対策	付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(19) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

5.8 高速道路標識板テーブル

○ 一般事項

標識板は、高速道路標識柱テーブルで作成したデータの柱に設置される板の1枚ずつを1管理単位としてデータを作成する。

記入に際してはデータテーブル（様式 5-8_高速道路標識板資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 管理番号

共通事項の要領に従い、上部工、トンネル区間、土工区間の管理番号を記入する。ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 標識柱位置／設置キロポスト

標識柱が設置されている地点のキロポストを小数第3位まで記入する。

(3) 標識柱位置／位置区分

標識柱設置場所の位置区分をコードで記入する。

位置区分	
S U	上り線側
S L	左側
S R	右側
B 1	左右両側
B 2	上下線両側
C 1	車線中央部
C 2	上下線中央部
A X	交差他線
A N	隣接他線
A 8	他線
8 8	その他

(4) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	オープン工事
D	保全管理工事
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(5) 標識板しゅん工年度

標識板のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(6) 工事内容

標識板の工事内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新規標識柱と板設置
M	既設標識柱と板移設
O	既設標識板のみ移設
C	既設標識板取替
A	既設標識柱に板追加
1	既設標識柱と板撤去
V	既設標識板改良(ワイヤー設置)
P	部分補修
8	その他補修

(7) 標識板／種別

標識板種別をコードで記入する。

標識板種別	
A	案内標識
B	警戒標識
C	規制標識
D	大型案内標識
E	大型警戒標識
F	情報提供板
G	指示標識
H	補助標識
8	その他

(8) 標識板／表示文字

標識板の表示文字を記入する。

(9) 標識板／照明反射区分

標識板の照明反射区分をコードで記入する。

照明反射区分	
A	外照式（蛍光灯）
B	外照式（遠方照明式）
C	内照式
D	電光式（電球）
E	電光式（LED）
F	遠方照明式
G	広角プリズム型逆光対策板
H	高輝度反射板
8	その他

(10) 標識板／可変区分

標識板の可変区分をコードで記入する。

可変区分	
1	なし
2	あり
3	低位置対象外
4	構造上対象外

(11) 標識板／板落下防止対策の有無

標識板の落下防止対策としてワイヤー等の設置の有無をコードで記入する。

板落下防止対策	
1	なし
2	あり
3	低所設置対象外
4	構造上対象外

(12) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	判読反射効果の良否、さび及び腐食、変形、ひずみ
B	設計基準の改訂による改良	新基準に伴うこと
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動、美観対策
G	予防的対策	付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 （設計上での想定外）	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(13) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

5.9 平面街路標識柱テーブル

○ 一般事項

平面街路標識柱は、平面街路上において阪神高速道路が管理する標識専用柱、標識専用架台の 1 基を 1 管理単位とする。なお、他機関の高速道路、官庁（門型・歩道橋等）に設置されたものも対象とする。また、阪神高速道路株式会社管理の標識柱に添架されている標識板（駐車禁止・速度規制等）も管理する。入路先端部に設置された門型柱等については高速道路上の標識として管理する。

記入に際してはデータテーブル（様式 5-9_街路標識柱資産・補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 管理／路線、ランプ・渡り線

標識（案内板）に表示されている路線、ランプ・渡り線（共通事項参照）をコードで記入する。

複数路線が対象となっている場合は、入路案内の近い路線を代表させる。

(2) 管理／標識設置地点／市区町村（府県、市区町村名）

設置地点の市区町村名をコードで記入する。

記入は、5桁の自治省（J I S）コードで行う。

市区町村		市区町村	
27	大阪府	27206	泉大津市
27100	大阪市	27207	高槻市
27102	大阪市都島区	27208	貝塚市
27103	大阪市福島区	27209	守口市
27104	大阪市此花区	27210	枚方市
27106	大阪市西区	27211	茨木市
27107	大阪市港区	27212	八尾市
27108	大阪市大正区	27213	泉佐野市
27109	大阪市天王寺区	27214	富田林市
27111	大阪市浪速区	27215	寝屋川市
27113	大阪市西淀川区	27216	河内長野市
27114	大阪市東淀川区	27217	松原市
27115	大阪市東成区	27218	大東市
27116	大阪市生野区	27219	和泉市
27117	大阪市旭区	27220	箕面市
27118	大阪市城東区	27221	柏原市
27119	大阪市阿倍野区	27222	羽曳野市
27120	大阪市住吉区	27223	門真市
27121	大阪市東住吉区	27224	摂津市
27122	大阪市西成区	27225	高石市
27123	大阪市淀川区	27226	藤井寺市
27124	大阪市鶴見区	27227	東大阪市
27125	大阪市住之江区	27228	泉南市
27126	大阪市平野区	27229	四条畷市
27127	大阪市北区	27230	交野市
27128	大阪市中央区	27231	大阪狭山市
27140	堺市	27232	阪南市
27141	堺市堺区	27301	三島郡島本町

27142	堺市中区
27143	堺市東区
27144	堺市西区
27145	堺市南区
27146	堺市北区
27147	堺市美原区
27202	岸和田市
27203	豊中市
27204	池田市
27205	吹田市

27321	豊能郡豊能町
27322	豊能郡能勢町
27341	泉北郡忠岡町
27361	泉南郡熊取町
27362	泉南郡田尻町
27366	泉南郡岬町
27367	泉南郡阪南町
27381	南河内郡太子町
27382	南河内郡河南町
27383	南河内郡千早赤坂村

市区町村	
28	兵庫県
28100	神戸市
28101	神戸市東灘区
28102	神戸市灘区
28105	神戸市兵庫区
28106	神戸市長田区
28107	神戸市須磨区
28108	神戸市垂水区
28109	神戸市北区
28110	神戸市中央区
28111	神戸市西区
28201	姫路市
28202	尼崎市
28203	明石市
28204	西宮市
28206	芦屋市
28207	伊丹市
28210	加古川市
28214	宝塚市
28215	三木市
28216	高砂市
28217	川西市
28218	小野市
28219	三田市
28220	加西市
28301	川辺群猪名川町

(6) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(7) しゅん工年度

標識柱のしゅん工(補修)年度を西暦で記入する。

(8) 工事内容

標識柱の工事内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新規標識柱設置
M	既設標識柱移設
C	既設標識柱取替
P	既設標識柱塗装塗替
1	既設標識柱撤去
V	既設標識柱改良(ワイヤー設置)
P	部分補修
8	その他補修

(9) 標識柱設置/支柱区分

標識支柱区分をコードで記入する。

支柱区分	
S	標識専用支柱
H	標識専用架台
A	他構造物添架(支柱なし)
8	その他

他構造物添架(支柱なし)とは、照明柱・橋脚・桁・高欄等に直接設置されている場合を指す。標識専用架台とはブラケット等に設置されている場合を指す。

(10) 標識柱設置／設置場所

標識専用支柱及び標識専用架台のときはその設置場所を、他構造物添架のときは標識板そのものの設置されている場所をコードで記入する。

設置場所（当社道路構造物）		設置場所（平面街路上）	
HH	高欄	SR	車道
HC	中央分離帯	SF	歩道
HJ	分岐合流帯	SO	歩道橋
HN	遮音壁・危険防止柵	SU	電柱
HI	照明柱	SS	信号柱
HG	桁	SH	高欄
HP	橋脚	SC	中央分離帯
HB	料金所施設	SJ	分岐合流帯
HT	トンネル	SG	緑地帯
HE	のり面・擁壁・カルバート	S8	その他当社外施設
H8	その他公団施設	88	その他
88	その他		

(11) 標識柱設置／支柱基礎

支柱区分で標識専用支柱とした場合に、標識柱の基礎の種別をコードで記入する。

支柱基礎	
B	ブラケット
BS	ブラケット（桁補強材あり）
F	取付金具
P	ベースプレート
C	コンクリート基礎
U	支柱埋込式
88	その他

ブラケット（桁補強材あり）とは、主桁間に渡って設置されているものを指し、スティフナー程度のものは補強材としない。

(12) 標識柱設置／基礎区分

支柱基礎でコンクリート基礎とした場合に、基礎区分をコードで記入する。

基礎区分	
S	直接基礎
C	場所打R C杭基礎
P	P C杭基礎
E	その他杭基礎
8	その他

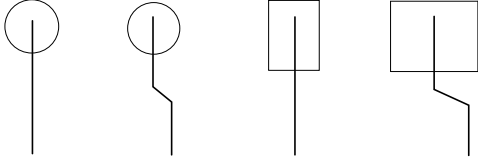
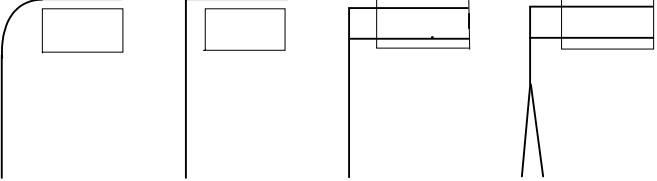
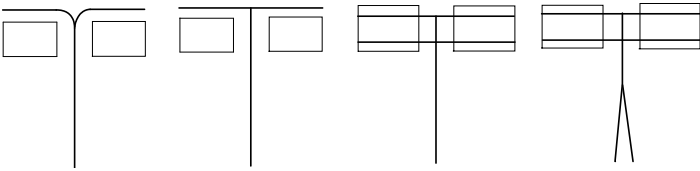
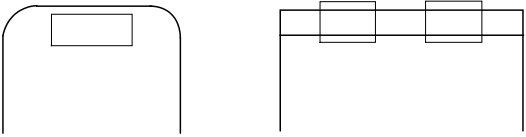
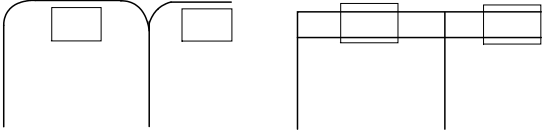
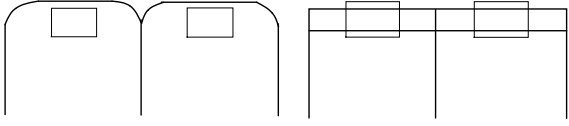
(13) 標識柱設置／支柱本数

標識の支柱の合計本数を記入する。

(14) 標識柱／全体形状

支柱区分で標識専用支柱とした場合に、標識柱の全体形状をコードで記入する。

全体形状	
S	単柱型（柱のみ）
L	逆L型
T	T型
G	門型（1径間）
F	横F型（1径間）
E	横E型（多径間門型）
8	その他

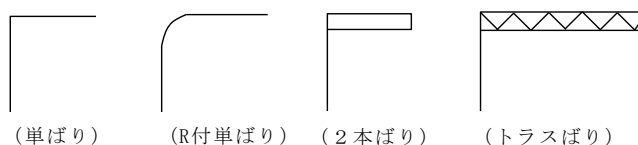
コード	名称	形状例
S	単柱型 (支柱のみ)	
L	逆L型	
T	T型	
G	門型 (1 径間)	
F	横F型 (1 径間)	
E	横E型 (2 径間)	

(15) 標識柱／支柱形状

標識柱の形状をコードで記入する。全体形状で単柱型とした場合は、柱部の方だけ記入し、はり部は記入しない。

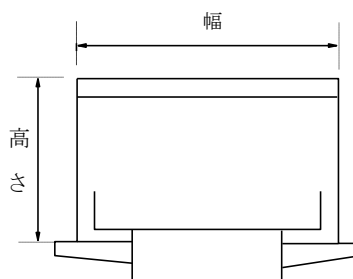
支柱形状／柱部		支柱形状／はり部	
P	鋼管柱	M	単ばり
T	鋼管トラス柱	R	R付単ばり
S	鋼管立体トラス柱	W	2本ばり
8	その他	T	トラスばり
		8	その他

支柱形状／はり部



(16) 標識柱／支柱寸法

支柱又は架台の寸法を高さで表し、それぞれ最大値を記入する。ただし、架台の場合、高さの欄では架台張り出し長を記入する。全体形状で単柱型とした場合は、高さのみ記入し、幅は記入しなくてもよい。単位はmで小数点以下第3位を切り捨てし、2位止めとする。



支柱の場合

(17) 標識柱／支柱管径

標識専用支柱について、支柱形状／柱部が鋼管（P、T、S）のときにその管径を右詰めで記入する。管径は変化する場合があるので、その最大径と最小径を記入するものとする。ただし、管径が変化しないものについては、最大径のみ記入し、最小径は省略してよい。この場合は、最小径は最大径と同値とみなされる。単位はmmで整数値で記入する。

(18) 標識柱／他機関標識板枚数

阪神高速道路管理以外の標識板の枚数を記入する。

(19) 標識柱／柱落下防止対策の有無

標識柱の落下防止対策としてワイヤー等の設置の有無をコードで記入する。

柱落下防止処置	
1	なし
2	あり
3	低所設置対象外
4	構造上対象外

(20) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		はり及び支柱	基礎
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	さび及び腐食	コンクリートのわれ、さび及び腐食
B	設計基準の改訂による改良	新技術に伴うこと	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	ボルト折損、ボルトが有効に働いていない
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	美観対策、視認性の改善、	
G	予防的対策	付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(4) 標識設置地点／道路種別

設置されている平面街路の種別をコードで記入する。標識設置場所にかかわらず、標識が対象としている道路について記入する。

道路種別	
A	高速自動車国道
B	一般国道
C	主要地方道
D	一般府県道
E	市町村道
8	その他

(5) 標識柱位置／座標（緯経度）

標識の設置地点の座標（緯経度）を小数第6位まで記入する。

(6) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
N	建設工事
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災復旧工事
S	フレッシュアップ工事

(7) 標識板しゅん工年度

標識板のしゅん工（補修）年度を西暦で記入する。

(8) 工事内容

標識板の工事内容をコードで記入する。

工事内容	
N	新規標識柱と板設置
M	既設標識柱と板移設
O	既設標識板のみ移設
C	既設標識板取替
A	既設標識柱に板追加
1	既設標識柱と板撤去
V	既設標識板改良(ワイヤー設置)
P	部分補修
8	その他補修

(9) 標識板／種別

標識板種別をコードで記入する。

標識板種別	
A	案内標識
B	警戒標識
C	規制標識
D	大型案内標識
E	大型警戒標識
F	情報提供板
G	指示標識
H	補助標識
8	その他

(10) 標識板／表示文字

標識板の表示文字を記入する。

(11) 標識板／照明反射区分

標識板の照明反射区分をコードで記入する。

照明反射区分	
A	外照式（蛍光灯）
B	外照式（遠方照明式）
C	内照式
D	電光式（電球）
E	電光式（LED）
F	遠方照明式
G	広角プリズム型逆光対策板
H	高輝度反射板
8	その他

(12) 標識板／可変区分

標識板の可変区分をコードで記入する。

可変区分	
1	なし
2	あり
3	低位置対象外
4	構造上対象外

(13) 標識板／板落下防止対策の有無

標識板の落下防止対策としてワイヤー等の設置の有無をコードで記入する。

板落下防止対策	
1	なし
2	あり
3	低所設置対象外
4	構造上対象外

(14) 標識板／表示案内入路

案内標識板に記載されている入路名をランプコード（共通事項参照）4ケタの左詰めで記入する。路線だけの案内のときは路線コード（共通事項参照）とし、この場合、左詰めで2ケタで記入する。

複数の入路（路線）を表記しているものは、すべて記入する。ただし、市内及び方面案内だけの場合は、左詰め2ケタで記入する。

方面（市内）案内	
8 1	大阪方面（市内）
8 2	神戸方面（市内）
8 3	湾岸方面
8 4	京都方面（市内）
8 5	その他

(15) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	判読反射効果の良否、さび及び腐食、変形、ひずみ
B	設計基準の改訂による改良	新基準に伴うこと
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動、美観対策
G	予防的対策	付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 （設計上での想定外）	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(16) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入す

第 6 節 補修（本体構造物）データテーブル

6.1 桁補修テーブル

○ 一般事項

鋼桁及びコンクリート桁について 1 径間（管理番号）ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 6-1_桁補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工管理番号

共通事項の要領に従い、上部工管理番号を記入する。

(2) 補修年度

桁補修のしゅん工年度を西暦で記入する。

(3) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災補修工事
S	フレッシュアップ工事

(4) 補修内容

補修内容をコードで記入する。補修内容が複数ある場合は、すべて記入する。

補修内容			
鋼桁		コンクリート桁	
MGC	主桁連結	CGC	主桁連結
MSC	床版連結	CFG	表面防護
MCR	部材補強／切欠部の補強	CFM	充填工法
MBR	部材補強／主桁・横桁取合い部の補強	CIC	注入工法／ひびわれ
		CIS	注入工法／シース内
MHR	部材補強／端横桁	CPG	PC横締め防護
MSR	部材補強／支承部の補強	CPI	プレストレスの導入
MWR	部材補強／溶接部の補強	CSB	鋼板接着
MOR	部材補強／その他	CSM	吹付工法
MCW	クラック部の溶接による修復	CSR	鉄骨梁補強工法
MMC	部材取替	CBK	桁再構築（震災補修）
MHC	H. T. B. 取替	CBM	桁再利用工法（震災補修）
MFR	補剛材補修	C88	その他
MMI	マンホール改良	裏面板等	
MME	マンホール設定	KS	吸音板（側面板あり）
MKK	桁再構築（震災補修）	K	吸音板（側面板なし）
MKS	桁再利用工法（震災補修）	MS	化粧板（側面板あり）
M88	その他	M	化粧板（側面板なし）
		S	側面板
		P	鳩防止ネット

(5) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		鋼部材	コンクリート部材
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	塗膜劣化、腐食、摩耗、疲労亀裂、破損、付属物の漏水	ひびわれ、はく離・浮き、鉄筋腐食、外在的塩害、中性化、補修部劣化
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	アルカリ骨材反応、内在的塩害、過度な中性化
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（遮音壁、裏面化粧板等）	
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(6) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

6.2 床版補修テーブル

○ 一般事項

上部工1径間の床版パネルごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式6-2_床版補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工管理番号

共通事項の要領に従い、上部工管理番号を記入する。

(2) ライン番号

床版パネルの橋軸方向のラインを記号で記入する。

(3) パネル番号

床版パネルの橋軸直角方向のパネル番号を数字で記入する。

(4) 補修年度

床版補修のしゅん工年度を西暦で記入する。

(5) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災補修工事
S	フレッシュアップ工事

(6) 補修内容

補修内容をコードで記入する。補修内容が複数ある場合はすべて記入し、それぞれについて補修面積を記入する。

補修内容	
M	鋼板接着
A	鋼板接着再注入
C	炭素繊維シート
B	増設桁
R	床版打替
8	その他

(7) 補修面積

補修面積を記入する。単位は m^2 で小数点以下第3位を切り捨て、2位止めとする。その他の場合は補修数量を記入する。ただし、増設桁の場合は記入しない。

(8) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		補修済床版部	コンクリート
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	不良音、漏水及び遊離石灰、鋼板のさび・腐食	ひびわれ、はく離・浮き、鉄筋腐食、外在的塩害、中性化、
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	内在的塩害、過度な中性化
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	騒音、振動、美観対策	
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置	
H	自然災害 (設計上での想定内)	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 (設計上での想定外)		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(9) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

6.3 橋脚補修テーブル

○ 一般事項

鋼製橋脚及びコンクリート橋脚について橋脚ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 6-3_下部工補修）を用いて次の要領で記入する。

- (1) 下部工管理番号
共通事項の要領に従い、下部工管理番号を記入する。
- (2) 補修年度
橋脚補修のしゅん工年度を西暦で記入する。
- (3) 工事区分
工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災補修工事
S	フレッシュアップ工事

- (4) 補修内容
補修内容をコードで記入する。補修内容が複数ある場合は、すべて記入する。

共通		鋼製橋脚	
SDW	再構築 (はり+柱)	MOR	部材補強
SDS	再構築 (はり)	MMC	部材取替
		MHC	HTB取替
		MOE	水抜き設置
		MMI	マンホール改良
		MME	マンホール設置
		MSE	脚内安全施設設置
		MHB	貼紙防止
		MBP	橋脚防護 (根巻部)
		MAE	空気孔設置
		MCA	コンクリート充填(アンカーフレーム補強あり)
		MCO	コンクリート充填(アンカーフレーム補強なし)
		MRB	リブ補強
		M88	その他

コンクリート橋脚	
CME	部材補強
CSB	鋼板接着
CPL	PCはり定着部鋼板補強
CFM	充填
CSM	吹付
CSR	鉄筋はり補強
CPI	プレストレスの導入
CIC	注入工法（ひびわれ）
CIS	注入工法（シース内）
CFG	表面防護（コンクリート塗装）
CPC	PC防護板塗装・補強板塗装
CDR	排水管塗装
CHB	貼紙防止
COL	脚外梯子塗装
CBP	橋脚防護（根巻部）
CBR	美装化（デザイン塗装）
CBH	美装化（吹付）
CB I	美装化（タイル等張付）
CBK	美装化（化粧板）
CB 8	美装化（その他）
CIM	コンクリート巻立補強工法 （コンクリート＋鋼板＋アンカー）
CIA	コンクリート巻立補強工法 （コンクリート＋アンカー）
CMA	鋼板巻立補強工法（アンカー有り）
CMM	鋼板巻立補強工法（アンカー無し）
CMC	炭素繊維巻立補強工法
CBE	座屈鉄筋補修（震災補修）
C 8 8	その他

基礎	
K I S	増杭工法
K B I	地盤改良
K G I	注入工法（杭）
K G K	注入工法（フーチング）
K V O	空隙充填工法

(5) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		鋼部材	コンクリート部材
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	塗膜劣化、腐食、摩耗、疲労亀裂、破損、付属物の漏水	ひびわれ、はく離・浮き、鉄筋腐食、外在的塩害、中性化、補修部劣化
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	アルカリ骨材反応、内在的塩害、過度な中性化
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（遮音壁、裏面化粧板等）	
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(6) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

6.4 のり面・擁壁補修テーブル

○ 一般事項

のり面ごと（管理番号ごと）の段ごとにデータを記入し、上り線、下り線に分離している場合も各々で記入するものとする。記入に際してはデータテーブル

ル（様式 6-4_のり面・擁壁補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) のり面番号

共通事項の要領に従い、のり面番号を記入する。

(2) のり面番号／補助番号

資産テーブルの要領に従い、のり面補助番号を記入する。

(3) のり面番号／段番号

資産テーブルの要領に従い、のり面の段番号を記入する。

(4) 補修年度

のり面補修のしゅん工年度を西暦で記入する。

(5) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災補修工事
S	フレッシュアップ工事

(6) 補修内容

補修内容をコードで記入する。補修内容が複数ある場合はすべて記入する。

切土のり面の補修		構造物工補修	
V A	プレキャスト枠工	S A	モルタル吹付工
V B	ネット張工	S B	コンクリート張工
V C	植生工	S C	石張工
V D	地山補強工	S D	ブロック張工
V E	横ボーリング工	S E	現場打ちコンクリート枠工
V F	吹付枠工	S F	吹付枠工
V G	杭工	S G	プレキャスト枠工
V H	グラウンドアンカー工	S H	中詰工（客土）
V I	柵工	S I	中詰工（植生土のう）
V J	防風工	S J	中詰工（植生基盤）
V K	連続長繊維補強土工	S 8	その他補修工
V 8	その他補修工		

防護工		地すべり対策工	
W A	待ち受け擁壁工	L A	地表水排除工
W B	土砂覆工	L B	地下水排除工
W C	落石防護網工	L C	地下水遮断工
W D	落石防護柵工	L D	排土工
W E	落石防護棚工	L E	押え盛土工
W F	落石防護擁壁	L F	杭工
W G	ロックシェッド	L G	グラウンドアンカー工
W H	落石防護土堤	L 8	その他対策工
W 8	その他防護工		

(7) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	崩落、はらみ出し、陥没、肌落ち、小段等の堆積土、湧水、植生の枯損、浮石・転石、樹木
B	設計基準の改訂による改良	新技術にとまなうこと
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動、美観対策
G	予防的対策	—
H	自然災害 (設計上での想定内)	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 (設計上での想定外)	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(8) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

6.5 トンネル補修テーブル

○ 一般事項

トンネルの施工ブロック（坑門と覆工も区別）ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 6-5_トンネル補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) トンネル区間管理番号

共通事項の要領に従い、トンネル区間管理番号を記入する。

(2) トンネル区間補助番号

資産テーブルの要領に従い、区間番号を記入する。

(3) 補修年度

トンネル補修のしゅん工年度を西暦で記入する。

(4) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災補修工事
S	フレッシュアップ工事

(5) 補修内容

補修内容をコードで記入する。補修内容が複数ある場合はすべて記入する。

トンネル補修内容			
A	裏込め注入	K	斜面安定
B	はつい防護ネット	L	地山注入(地山補強)
C	吹付	M	グラウンドアンカー工
D	ロックボルト補強	N	インバート打設
E	漏水防止(導水)	O	部分改築
F	漏水防止(防水板)	P	化粧板新設
G	漏水防止(防水シート)	Q	化粧板取替
H	漏水防水(地下水位低下)	R	外面塗装
I	内巻きコンクリート打設	S	監視通路部材補修
J	断熱(断熱材設置)	T	その他本体補修
		U	その他付属物補修

(6) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	ひびわれ、はく離・浮き、鉄筋腐食、外在的塩害、中性化、補修部劣化
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂 アルカリ骨材反応、内在的塩害、過度な中性化
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接 初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（化粧板等）
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）
H	自然災害（設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害（設計上での想定外）	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(7) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

6.6 カルバート補修テーブル

○ 一般事項

カルバートの継目トンネルの施工ブロック（坑門と覆工も区別）ごとにデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 6-6_カルバート補修）を用いて次の要領で記入する。

- (1) トンネル区間・土工区間管理番号
共通事項の要領に従い、トンネル区間管理番号を記入する。
- (2) 補助番号
資産テーブルの要領に従い、補助番号を記入する。
- (3) 設置キロポスト
カルバート設置地点のK Pを記入する。
- (4) 補修年度
補修のしゅん工年度を西暦で記入する。
- (5) 工事区分
工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事
D	保全管理工事
E	震災補修工事
S	通行止め工事

(6) 補修内容

補修内容をコードで記入する。補修内容が複数ある場合はすべて記入する。

工事区分	
A	表面保護（塗装）
B	表面保護（含浸）
C	表面保護（ガラスクロス）
D	断面修復
E	継手保護鋼板（止水処理有）
F	継手漏水補修（樋）
G	継手漏水補修（止水シート）
H	構造物撤去
I	構造物増設
S	その他

(7) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	ひびわれ、はく離・浮き、鉄筋腐食、外在的塩害、中性化、補修部劣化
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂 アルカリ骨材反応、内在的塩害、過度な中性化
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接 初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（化粧板等）
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する
I	自然災害 （設計上での想定外）	
8	その他	備考欄に理由を記入する

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(8) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する

6.7 高欄・防護柵補修テーブル

○ 一般事項

上部工1径間又は土工1区間の補修箇所ごとに対してデータを記入する。記入に際してはデータテーブル（様式 6-7_高欄・防護柵補修）を用いて次の要領で記入する。

(1) 上部工／土工区間管理番号

共通事項の要領に従い、上部工又は土工区間の管理番号を記入する。

ただし、北神戸線のように橋梁部と土工部が混在する路線については、管理番号の他にキロポストも併せて記入する。

(2) 補修年度

高欄・防護柵補修のしゅん工年度を西暦で記入する。

(3) 補修位置／位置区分

該当する位置をコードで記入する。

位置区分	
C	中央分離帯部
I	高欄部（内面）
O	高欄部（外面）
B	鋼製高欄内面

(4) 補修位置／左右区分

左側、右側区分についてコードで記入する。

左側、右側は管理番号の起点側から見た方向を示す。ランプ・渡り線についても同様とする。ただし、位置区分が中央分離帯部の場合は記入しない。

左右区分	
L	左側
R	右側

(5) 工事区分

工事の区分をコードで記入する。

工事区分	
R	補修工事(オープン工事)
D	補修工事(保全管理工事)
E	震災補修工事
S	フレッシュアップ工事

(6) 補修内容

該当する補修内容をコードで記入する。

補修内容	
HA	コンクリート塗装（補強あり）
HB	コンクリート塗装（補強なし）
HD	断面修復
HE	メタル塗装
HK	鋼板補強
HT	トラマーク
HN	高欄改良（鋼製型枠）
HM	内面補修（鋼製高欄）
H8	その他高欄補修
WP	水切補修（プラスチック面木）
WA	水切補修（アングル）
WS	水切補修（面木＋アングル）
W8	水切補修（その他）
ZR	地覆改良（三角ブロック）
Z8	地覆改良（その他）
PK	中央分離帯改良（プレキャストブロック）
RC	中央分離帯改良（RC壁式）
G	ガードレール塗装
GA	ガードレール（支柱溶接タイプ）
GB	ガードレール（アンカータイプ）
GD	ガードレール（支柱コンクリート埋込式）
GE	ガードレール（支柱土中埋込式）
GR	ガードレール取替（その他）
G8	ガードレール補修（その他）
88	その他

(7) 補修理由

補修工事の理由をコードで記入する。

補修理由		事例	
		鋼部材	コンクリート部材
A	材料の耐久性、耐荷性低下や疲労による損傷	塗膜劣化、腐食、摩耗、疲労亀裂、破損、付属物の漏水	ひびわれ、はく離・浮き、鉄筋腐食、外在的塩害、中性化、補修部劣化
B	設計基準の改訂による改良	耐震補強、活荷重対応の補強	
C	構造、材料の欠陥等による損傷	ボルト折損、破損、亀裂	アルカリ骨材反応、内在的塩害、過度な中性化
D	施工時の不良と考えられる損傷	部材欠損、未溶接	初期ひびわれ、空洞、豆板
E	車両事故、火災等の人為的原因による損傷	変形、破損	
F	環境対策	騒音、振動、美観対策（遮音壁、裏面化粧板等）	
G	予防的対策	コンクリート塗装、付属物落下防止措置（ボルト取替、ワイヤー設置）	
H	自然災害 （設計上での想定内）	変形、破損、崩壊、沈下 備考欄に災害名を記入する	
I	自然災害 （設計上での想定外）		
8	その他	備考欄に理由を記入する	

※自然災害（暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火その他の異常な自然現象により生ずる被害）

(8) 備考

特記事項等について、テキスト全角 50 文字以内で記入する。

データテーブル様式

工事ID	工事分類	工事名	施工業者名	全(施工管理番号) 所(箇所)の 番号	工期(始)	工期(終)	図面枚数	工種	設計年度	設計業者名	設計年度1	設計基準1	設計年度2	設計基準2	設計年度3	設計基準3	設計年度4	設計基準4	設計年度5	設計基準5	
無記入	コード	テキスト	テキスト	テキスト	yyyymmdd	yyyymmdd	数値	コード	数値	テキスト	数値	コード	数値	コード	数値	コード	数値	コード	数値	コード	

表示管理番号	管理番号分類	供用年度	方向区分	下り車線数	下り他車線区分	上り車線数	上り他車線区分	平面線形	曲線半径	縦断勾配	勾配	下り横断勾配区分	下り横断勾配(%)
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	コード	数値	コード	数値	コード	コード	数値	コード	数値	コード	数値

上り横断勾配区分	上り横断勾配(%)	橋長	起点幅員	終点幅員	橋面積	設計速度	設計荷重	市区町村	計画高(m)	地盤高(m)	備考
コード	数値	数値	数値	数値	数値	数値	コード	コード	数値	数値	テキスト

共通情報

上部工資産

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	竣工年度	桁区分	床版種別	桁種別	連続径間数	着目径間	主桁数	桁端切欠位置	桁端足継位置	主桁形状	バチ・斜形状	断面変化有無	変断面橋有無	桁長(m)	支間長(m)	桁下高さ(m)	主桁高さ(m)	最大主桁間隔(m)	最小主桁間隔(m)	最大床版支間(m)	最大張出長(m)	床版厚(mm)	パネル数	パネル面積		
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	コード	コード	コード	数値	数値	数値	コード	コード	コード	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	

補修済パネル数	未補修パネル数	総コンクリート量(m ³)	総鋼重量(t)	主桁鋼継材種	主桁鋼継ホルト数(本)	二次鋼継材種	二次鋼継ホルト数(本)	検査路数	ケーブルラック数	併用路数	立地路下条件	立地上空条件	震災再構築/損傷度	裏面板施工年度	裏面板種別	側面板施工年度	側面板種別	防護ネット施工年度	防護ネット種別	H T B対策	P C定着部補強施工年度	P C定着部補強種別	桁端切欠補強有無	C o桁表面保護施工年度	C o表面保護種別	備考		
数値	数値	数値	数値	コード	数値	コード	数値	数値	数値	数値	コード	コード	コード	数値	コード	数値	コード	数値	コード	コード	数値	コード	コード	数値	コード			

共通情報			床版資産														備考	
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	床版ID	ライン番号	パネル番号	竣工年度	床版種別	床版区分	床版厚(mm)	パネル面積(m ²)	表面竣工年度	表面補修種別	増厚補強竣工年度	増厚補強種別	増桁竣工年度	増桁補強種別	床下施設	
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	テキスト	テキスト	数値	コード	コード	数値	数値	数値	コード	数値	コード	数値	コード	コード	

共通情報

下部工資産

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	竣工年度	橋脚材種	橋脚橋台形状	階数	柱数(中間柱を除く)	連続橋脚数	着目橋脚	共存施設	柱総数	橋軸直角方向はり総数	橋軸直角方向受ばり数	橋軸直角方向中間はり数	橋軸方向受ばり数	橋軸方向中間はり数	橋脚高(m)	地面からの高さ(m)	柱材種	柱断面形状	橋軸直角柱幅(m)	橋軸柱幅(m)	柱耐震工法
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	コード	コード	数値	数値	数値	数値	コード	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	数値	コード	コード	数値	数値	コード

はり材種	はり面段差	最大はり高(m)	はり幅(m)	はり長(m)	はり耐震工法	美装化種別	総コンクリート量(m ³)	総鋼重量(t)	鋼継材種	鋼継ボルト本数	連絡路有無	柱部梯子等設置種別	桁部梯子等設置種別	立地条件	基礎工竣工年度	基礎構造数	基礎区分	基礎工法	他構造関係	他構造兼用	フーチング区分	基礎平面形状	基礎直径または橋軸直角基礎幅(m)	橋軸基礎幅(m)	基礎高(m)	土被り(m)	フーチング材種
コード	コード	数値	数値	数値	コード	コード	数値	数値	コード	数値	コード	コード	コード	コード	数値	数値	コード	コード	コード	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	コード

基礎部コンクリート量(m ³)	基礎部鋼重量(t)	抗材種	抗本数	抗径(mm)	抗長(m)	地盤改良工法	震災再構築/損傷度	HTB対策	PC梁防護板施工年度	PC梁防護板設置種別	Co表面保護施工年度	Co表面保護種別	防食板	備考
数値	数値	コード	数値	数値	数値	コード	コード	コード	数値	コード	数値	コード	コード	

共通情報

道路土工資産

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	キロポスト名称	キロポスト	竣工年度	切盛区分	切盛厚(m)	切盛高さ(m)	路面幅(m)	左切盛区分	右切盛区分	土・岩の分類1	土・岩の分類2	土・岩の分類3
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	コード	数値	数値	コード	数値	数値	数値	コード	コード	コード	コード	コード

土・岩の分類4	土の種類	備考
コード	コード	

共通情報			のり面・擁壁資産																	備考			
管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	キロポスト名称	キロポスト	のり面ID	補助番号	段番号	竣工年度	切盛区分	のり面擁壁種別(1)	のり面擁壁種別(2)	のり面補強	のり面擁壁高さ(m)	のり面擁壁延長(m)	のり面擁壁面積(m ²)	のり面擁壁勾配	のり面擁壁小段幅(m)	のり面擁壁小段延長(m)	昇降施設有無	昇降施設延長(m)	崩壊形態	崩壊年月	
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	コード	数値	空白(管理者採番)	数値	数値	数値	コード	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	数値	数値	コード	数値	コード	yyymm	

共通情報

トンネル資産

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	キロポスト名称	キロポスト	補助番号	竣工年度	区分	トンネル工法	地山等級（設計ハ・ターン）	支保パターン	掘削工法	掘削方式	地質	弾性波速度（km/s）	補助工法	形状形式	TCL高（m）	SL幅（m）	有効高（m）	道路幅員（m）	延長（m）	
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	コード	数値	数値	数値	コード	コード	テキスト	テキスト	コード	コード	テキスト	テキスト	テキスト	コード	数値	数値	数値	数値	数値	

St.No	覆工厚（mm）	吹付厚（mm）	インバート厚（mm）	土被り（m）	防水工（底盤）	防水工（側壁）	防水工（上床）	目地種類	鉄筋の有無	左側化粧板種別	左側化粧板高（m）	右側化粧板種別	右側化粧板高（m）	天井板種別	監視員通路位置	換気設備有無	避難トンネル有無	非常駐車帯有無	備考	
テキスト	数値	数値	数値	数値	コード	コード	コード	コード	コード	コード	数値	コード	数値	コード	コード	コード	コード	コード	コード	

共通情報

カルバート資産

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	キロポスト名称	キロポスト	補助番号	竣工年度	利用区分	管理者	地上条件	構造型式	基礎型式	地盤改良	枕梁有無	カルバート延長	カルバート高さ	カルバート幅	内空断面有効高	内空断面有効幅
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	コード	数値	数値	数値	コード	コード	コード	コード	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	数値

頂板厚	側壁厚	底板厚	土被り	継手構造	翼壁幅	翼壁高さ	翼壁厚さ	翼壁裝飾種別	備考
数値	数値	数値	数値	コード	数値	数値	数値	コード	テキスト

共通情報			高欄・防護柵資産													
管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	高欄ID	左右区分	位置番号	竣工年度	設置種別	延長 (m)	高さ (m)	地覆形状	水切形状	飛散防止種別	ハンドレール有無・種別	開口部有無	植樹施設有無・種別	備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	コード	数値	数値	コード	数値	数値	コード	コード	コード	コード	コード	コード	テキスト

共通情報

非常口資産

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	キロポスト名称	キロポスト	非常口設置形式	竣工年度	桁部非常口種別	柱部非常口種別	非常口基礎形式	高欄切欠き有無	非常駐車帶有無	備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	コード	数値	コード	数値	コード	コード	コード	コード	コード	テキスト

共通情報			遮音壁資産								
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	遮音壁ID	左右区分	位置番号	工事区分	竣工(補修)年度	工事内容	遮音壁種別	遮音板材種	吸音装置種別
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	コード	数値	コード	数値	コード	コード	コード	コード

遮音壁補修										
遮音壁製作メーカー	遮音壁延長(m)	遮音壁高さ(m)	遮音壁支柱取付種別	遮音壁支柱嵩上種別	遮音板落下防止ロープ有無	遮音壁支柱落下防止ロープ有無	備考	補修年度	補修理由	補修備考
テキスト	数値	数値	コード	コード	コード	コード	テキスト	数値	コード	テキスト

共通情報

伸縮継手資産

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	伸縮継手ID	上下区分	車線区分	車線番号	補助記号	竣工(補修)年度	設置区分	工事区分	縦伸縮継手	伸縮継手種別
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	コード	コード	テキスト	数値	数値	コード	コード	コード	コード

伸縮継手型式	伸縮継手メーカー	伸縮継手延長(m)	設計伸縮量(mm)	許容伸縮量(mm)	伸縮桁長(m)	平均遊間量(mm)	止水竣工年度	止水種別	起点側床版端部補強
コード	テキスト	数値	数値	数値	数値	数値	数値	コード	コード

伸縮継手補修

終点側床版端部補強	地覆部止水材	高欄遊間構造	備考	補修年度	補修内容	補修理由	補修備考
コード	コード	コード	テキスト	数値	コード	コード	テキスト

共通情報		上下部工情報			支承共通情報			一次支承資産																			
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	上部工管理番号	下部工管理番号	支承ID	はり上区分	桁部補強の有無	脚部補強の有無	設置位置	設置数	メーカー名	型式	支承条件	耐震性	最大呼びトン	支承部高さ(m)	ソールプレート厚さ(m)	支承高さ(m)	台座高さ(m)	支承部高さ計測箇所	支承落下防止	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	コード	コード	コード	コード	数値	テキスト	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	数値	テキスト	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト

二次支承資産														一次水平力分担構造資産																
設置位置	設置数	メーカー名	型式	支承条件	耐震性	最大呼びトン	支承部高さ(m)	ソールプレート厚さ(m)	支承高さ(m)	台座高さ(m)	支承部高さ計測箇所	支承落下防止	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考	設置位置	設置数	メーカー名	型式	タイプ(反力)	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考	
コード	数値	テキスト	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	数値	テキスト	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト	コード	数値	テキスト	コード	テキスト	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト

二次水平力分担構造資産														段差防止構造資産													
設置位置	設置数	メーカー名	型式	タイプ(反力)	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考	設置位置	設置数	メーカー名	型式	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考							
コード	数値	テキスト	コード	テキスト	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト	コード	数値	テキスト	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト							

共通情報		上下部工情報			落橋防止システム共通情報		桁かかり長情報				
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	上部工管理番号	下部工管理番号	落橋防止ID	はり上区分	橋軸方向の実桁かかり長SE(m)	の 実桁 かかり 長 SE (m)	の 実桁 かかり 長 SE (m)	の 実桁 かかり 長 SE (m)	の 実桁 かかり 長 SE (m)
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	コード	数値	数値	数値	数値	数値

一次落橋防止構造資産		二次落橋防止構造資産					三次落橋防止構造資産					落橋防止構造共通情報											
設置位置	設置数	メーカー名	型式	規格	備考	設置位置	設置数	メーカー名	型式	規格	備考	設置位置	設置数	メーカー名	型式	規格	備考	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	
コード	数値	テキスト	コード	テキスト	テキスト	コード	数値	テキスト	コード	テキスト	テキスト	コード	数値	テキスト	コード	テキスト	テキスト	コード	コード	コード	数値	数値	

変位制限構造資産		はり縁端拡幅資産										制震構造資産																								
設置位置	設置数	メーカー名	型式	作用方向	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考	設置位置	メーカー名	型式	作用方向	拡幅延長(m)	拡幅寸法(m)	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考	設置位置	設置数	メーカー名	型式	工事区分	工事内容	補修理由	適用道示	しゅん工年度	備考				
コード	数値	テキスト	コード	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト	コード	テキスト	コード	コード	数値	数値	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト	コード	数値	テキスト	コード	コード	コード	コード	数値	数値	テキスト			

共通情報			塗装資産							塗装壁補修					
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	構造物区分	工事区分	竣工年度	工事内容	塗装系	上塗り塗装種別	下塗り塗装種別	塗装面積(m ²)	塗料メーカー	備考	補修年度	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	コード	コード	数値	コード	テキスト	コード	コード	数値	テキスト	テキスト	数値	コード	テキスト

共通情報			舗装資産							
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	舗装ID	上下区分	車線区分	車線番号	補助番号	工事区分	竣工年度	工事内容
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	コード	コード	数値	数値	コード	数値	コード

舗装区分	表層竣工年度	表層舗装種別	表層材料	基層1竣工年度	基層1舗装種別	基層1材料	基層2竣工年度	基層2舗装種別	基層2材料	舗装面積 (㎡)
コード	数値	コード	コード	数値	コード	コード	数値	コード	コード	数値

舗装壁補修								
特殊工法	床版防水竣工年度	床版防水種別	上層路盤種別	下層路盤種別	備考	補修年度	補修理由	補修備考
コード	数値	コード	コード	コード	テキスト	数値	コード	テキスト

共通情報

標識柱資産

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	標識柱ID	標識設置キロポスト	位置区分	座標X	座標Y	工事区分	設置年度	工事内容	標識柱管理者	標識支柱区分
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	数値	コード	数値	数値	コード	数値	コード	コード	コード

標識柱設置場所	標識柱設置位置	標識柱基礎	標識柱基礎区分	標識柱本数	標識支柱全体形状	標識柱部形状	標識はり部形状	標識支柱高さ(m)	標識支柱幅(m)
コード	コード	コード	コード	数値	コード	コード	コード	数値	数値

標識柱補修

標識支柱最大径(mm)	標識支柱最小径(mm)	その他機関標識板設置の有無	支柱落下防止ロープ有無	備考	補修年度	補修理由	補修備考
数値	数値	コード	コード		数値	コード	テキスト

共通情報			標識柱資産		標識板資産							標識板補修						
管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	標識柱ID	標識設置キロポスト	位置区分	標識板ID	工事区分	設置年度	工事内容	標識板区分	標識板表示文字	照明反射区分	可変区分	板落下防止ロープ有無	備考	補修年度	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	空白	数値	コード	空白	コード	数値	コード	コード	テキスト	コード	コード	コード	テキスト	数値	コード	テキスト

平面街路標識柱資産

標識柱ID	本線ランプ渡り	市区町村	道路所在地	道路種別	標識柱管理者	座標X	座標Y	工事区分	設置年度	工事内容	標識支柱区分	一次標識柱設置場所	一次標識柱基礎
空白	コード	コード	テキスト	コード	コード	数値	数値	コード	数値	コード	コード	コード	コード

標識柱補修

一次標識柱基礎区分	一次標識柱本数	標識支柱全体形状	標識柱部形状	標識はり部形状	標識支柱高さ(m)	標識支柱幅(m)	標識支柱最大径(mm)	標識支柱最小径(mm)	その他機関標識板設置枚数	支柱落下防止ロープ有無	備考	補修年度	補修理由	補修備考
コード	数値	コード	コード	コード	数値	数値	数値	数値	数値	コード	テキスト	数値	コード	テキスト

平面街路標識柱資産

平面街路標識板資産

標識柱ID	本線ランプ渡り	市区町村	道路所在地	道路種別	標識柱管理者	標識板ID	工事区分	設置年度	工事内容	標識板区分	標識板表示文字	照明反射区分	可変区分	板落下防止ロープ有無
空白	コード	コード	テキスト	コード	コード	空白	コード	数値	コード	コード	テキスト	コード	コード	コード

標識板補修

表示案内入路1	表示案内入路2	表示案内入路3	備考	補修年度	補修理由	補修備考
コード	コード	コード	テキスト	数値	コード	テキスト

共通情報

上部工補修

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	補修年度	補修連番	補修内容	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	同一管理番号で補修内容が複数 のとき連番	コード	コード	テキスト

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	床版資産			床版補修				
			床版ID	ライン番号	パネル番号	補修年度	補修連番	補修内容	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	床版資産IDと連動	テキスト	テキスト	数値	同一管理番号で補修内容が複数のとき連番	コード	コード	テキスト

共通情報

下部工補修

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	補修年度	補修連番	補修内容	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	同一管理番号で補修内容が複数 のとき連番	コード	コード	テキスト

共通情報		のり面・擁壁資産			のり面・擁壁補修				
管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	のり面 ID	補助番号	補修 年度	補修 連番	補修 内容	補修 理由	補修 備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	のり面資産IDと連動	数値	数値	同一管理番号で補修内容が複数のとき連番	コード	コード	テキスト

共通情報

トンネル補修

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	補助番号	補修年度	補修連番	補修内容	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	数値	同一管理番号で補修内容が複数 のとき連番	コード	コード	テキスト

共通情報

カルバート補修

管理番号 KEY	表示管理番号	管理番号分類	補助番号	補修年度	補修連番	補修内容	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	数値	数値	同一管理番号で補修内容が複数するとき連番	コード	コード	テキスト

共通情報

高欄・防護柵資産

高欄・防護柵補修

管理番号KEY	表示管理番号	管理番号分類	高欄ID (無記入)	左右区分	位置番号	補修年度	補修連番	補修内容	補修理由	補修備考
管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	管理番号一覧から選択	高欄資産IDと連動	コード	数値	数値	同一管理番号で補修内容が複数のとき 連番	コード	コード	テキスト

データテーブル記入定義

データテーブル記入定義

- 記入定義ファイルは添付を省略しています。
- 阪神高速道路株式会社の企業情報サイト『入札契約情報』の「技術基準類」に掲載のデータをダウンロードの上、ご利用下さい。

